DUCATI

STREETFIGHTER

オーナーズマニュアル

日本語

STREETFIGHTER V4S

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は 本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで (書面による) 許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

概要　7
安全性ガイドライン　7
本マニュアルで使用されている警告シンボル　8
用途　9
ライダーの義務　9
ライダーの教育　10
服装　11
安全のための"ベストプラクティス"　11
燃料の補給　14
最大積載時の運転　15
車両への積載に関する注意　15
危険物 - 警告　16
車両識別番号　18
エンジン識別番号　19

インストルメントパネル　20
インストルメントパネル　20
取扱説明書内で使用される頭字語および略語　23
技術用語集　23
機能ボタン　26
表示モード (Info Mode)　28
主な機能とサブ機能　32
車両速度表示　34
ギア表示　35
エンジン回転数表示　36
時計　37
エンジンクーラント温度　38
ライディングモード (Riding Mode)　39
パラーメーターとクイックレベル変更メニュー　42
DTC 表示　44
DWC 表示　50
DSC 表示　55
EBC 表示　58
ABS 表示　61
DES 表示　67
DQS 表示　68
機能メニュー　70
TOT　71
TRIP 1　72
CONS. AVG 1　73
SPEED AVG 1　74

TRIP 1 TIME　75
T AIR　76
TRIP FUEL　77
TRIP 2　78
CONS. I.　79
LAP (OFF / ON)　80
PLAYER (OFF / ON)　81
LAST CALLS　86
SETTING MENU　87
SETTING MENU - Riding Mode　89
SETTING MENU - Riding Mode - DAVC　90
SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - DTC　91
SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - DWC　92
SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - DSC　91
SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - Default　94
SETTING MENU - Riding Mode - Engine　95
SETTING MENU - Riding Mode - ABS　96
SETTING MENU - Riding Mode - EBC　97
SETTING MENU - Riding Mode - DQS　98
SETTING MENU - Riding Mode - Info Mode　98
SETTING MENU - Riding Mode - DES　100
SETTING MENU - Riding Mode - Default　110
SETTING MENU - Riding Mode - All Default　111
SETTING MENU - Pin Code　112
SETTING MENU - Lap　117
SETTING MENU - Backlight　122
SETTING MENU - Date and Clock　123
SETTING MENU - Units　126
SETTING MENU - Service　130
SETTING MENU - Tire Calibration　131
SETTING MENU - DRL　134
SETTING MENU - Bluetooth　135
SETTING MENU - DDA　140
SETTING MENU - Turn indicators　142
SETTING MENU - Info　143
ラップタイム (LAP)　144
ドゥカティパワーローンチ (DPL)　150
インフォテインメント　156
ヒーテッドグリップ　161
ライトコントロール　163
サイドスタンドのステータス表示　169
メンテナンス表示 (SERVICE)　170
エラー表示　174
注意および警告　175
キー　180
イモビライザーシステム　181
Pin Code による車両の解除　182

運転時に必要なコマンド　183

コマンド類の配置　183

イグニッションスイッチ / ステアリングロック　184
ハンドルバー左側スイッチ　185
クラッチレバー　190
ハンドルバー右側スイッチ　191
スロットルグリップ　192
フロントブレーキレバー　193
リアブレーキペダル　194
ギアチェンジペダル　195
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整　196

主要構成部品 / 装備　197

車両上の配置　197
燃料フィラープラグ　198
シートの取り外しおよび取り付け　199
サイドスタンド　202
Bluetooth コントロールユニット　204
ステアリングダンパー　206
フロントフォーク調整　207
リアショックアブソーバーの調整　208

運転の方法　209

慣らし運転の方法　209
走行前の点検事項　211
エンジンの始動　214
車両の発進　216
ABS システム　217
車両のブレーキングおよび停車　218
パーキング　219
燃料の補給　220
付属アクセサリー　221

主な整備作業とメンテナンス　222

フェアリングの取り外し　222
クーラントレベルの点検および補充　223
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検　224
ブレーキパッドの摩耗点検　226
バッテリーの充電　227
バッテリー充電の維持　233
トランスミッションチェーン張力の点検　234
チェーンの潤滑　235
ハイビーム/ロービーム電球の交換　240
ターンインジケーター　240
ヘッドライトの光軸調整　241
リアビューミラーの調整　243
チューブレスタイヤ　244
エンジンオイルレベルの点検　246
車両の清掃　248

スパークプラグの清掃と交換　250
長期間の保管　251
重要注意事項　251
車両の運搬　251

メンテナンスプログラム　253

メンテナンスプログラム：ディーラーでおこなうメンテナンス　253
メンテナンスプログラム：お客様がおこなうメンテナンス　257

テクニカル仕様　258

重量　258
サイズ　259
補給　260
エンジン　262
タイミングシステム　264
性能データ　265
スパークプラグ　265
燃料供給　265
ブレーキ　265
トランスミッション　266
フレーム　267
ホイール　267
タイヤ　267
サスペンション　267
エキゾーストシステム　268
カラーバリエーション　268
エレクトリカルシステム　269

定期点検メモ　273

定期点検メモ　273

概要

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。
Ducati モーターホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。
お客様のモーターサイクルは、Ducati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。
本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。
お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします(「定期点検プログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス」参照)。
Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。
すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。
お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。
モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳

しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーや他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

本モーターサイクルはアスファルト舗装、または平らで整備された路面状態の道路においてのみ使用してください。未舗装道路やオフロードでは本モーターサイクルを使用することはできません。

警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。

警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

警告

車両総重量が絶対に 199 kg / 438.72 lb を超えないようにしてください。

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を所持していなければなりません。

警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告
アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないでください。

警告
薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

警告
現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告
現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告
ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは「ライダーの義務」の章に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- ジャケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

重要

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本書の「車両の起動および走行」で定められた点検を必ず実施してください。

警告
これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告
エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ってください。

重要
ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要
走行中、ライダーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要
私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。
給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹸で洗ってください。

警告

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。
"チューブレスタイヤ" の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント (エチレングリコール) は皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。クーラントは

加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。
クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

バッテリー

警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリーを充電する際は、作業エリアが適切に換気されていること、気温が 40° C (104° F) を下回っていることを確認してください。バッテリーは開けないでください。本バッテリーには酸性液やその他の液体を充填する必要はありません。

車両識別番号

参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

フレーム識別番号は、車両フロント右側、右側フォークレッグとウォーターリザーバータンク近くに設けられています。
以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

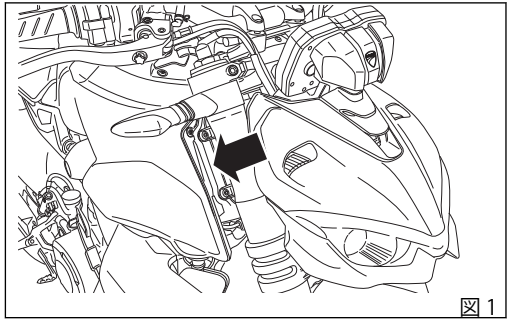


図 1

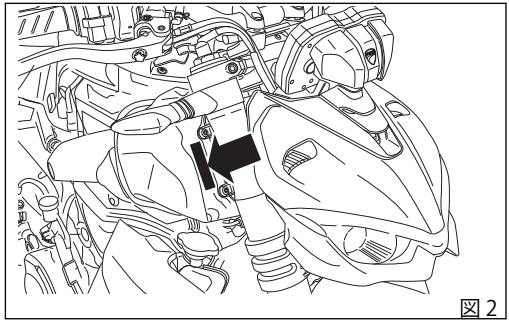


図 2

エンジン識別番号

参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

エンジン識別番号は車体フロント左側、ジェネレーターカバーとキャニスターフィルター付近のホリゾンタルシリンダー下側に設けられています。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

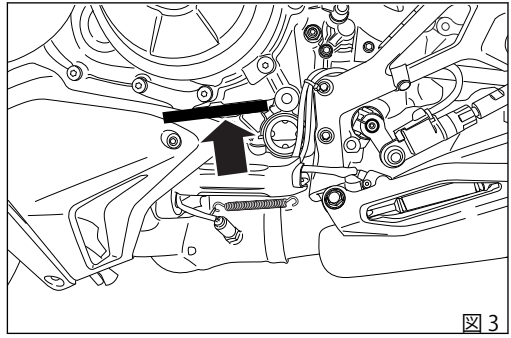


図 3

インストルメントパネル

インストルメントパネル

1) ディスプレイ

2) ニュートラルランプ (緑)

3) 一般的エラー警告灯 (琥珀色)

4) ハイビーム表示灯 (青)

5) リザーブ燃料警告灯 (琥珀色)

6) ターンインジケーター表示灯 (緑)

7) エンジンオイル圧警告灯 (赤)

重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

8) DAVC ステータスランプ (琥珀色)

- ランプ OFF：DTC / DWC / DSC 機能作動中
- ランプ ON 点滅：DTC / DWC / DSC は起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON：コントロールユニット不具合のため、DTC / DWC / DSC は解除されているか作動していない

9) エンジン診断 - MIL ランプ (琥珀色)

- エンジンマネジメントエラーが発生すると警告灯が点灯します。急な加速や追い越し運転は避け、Ducati 正規サービスセンターまでゆっくりと走行し、故障の修理をご依頼ください。
- 警告灯が点滅するときは、排出ガスに重大なエラーが発生しているため、触媒コンバーターを損傷するおそれがあることを通知しています。可能であれば Ducati 正規サービスセンターまで車両の運搬を依頼し、サービスセンターに故障の修理をご依頼ください。いずれの場合も、急な加速や追い越し運転は避けてゆっくりと走行してください。

10) ABS ランプ (琥珀色)

- ランプ OFF：ABS 機能作動中
- ランプ ON 点滅：ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている
- ランプ ON：ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない

11) DRL ランプ (緑) (中国、カナダバージョンには装備されていません)

12) DTC/DWC 介入 (琥珀色)

- ランプ消灯：DTC 介入なし
- ランプ点灯：DTC 介入

13) OVER REV / イモビライザー停止 (赤)

オーバーレブ：
- ランプ消灯：リミッターの介入なし
- ランプ点灯：リミッター介入

イモビライザー：
- ランプ消灯：車両 Key-ON 状態、または 24 時間以上 Key-OFF 状態
- ランプ点滅：車両 Key-OFF 状態

14) DES ランプ (琥珀色)
- ランプ消灯：DES システムが作動
- ランプ点滅：DES システムが機能制限モードにあるか、初期化中の状態
- ランプ点灯：DES システムの不具合発生

重要

ディスプレイに "TRANSPORT MODE" の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

起動時、インストルメントパネルに DUCATI のロゴと読み込まれたパフォーマンスマップ (なし、RACING、RACING EVO、RACING PRO) が表示され、LED ランプのチェックを順番に実行します。
点検終了時、インストルメントパネルには Key-OFF 前に使用していた設定モード (TRACK、ROAD) スクリーンが表示されます。

点検中に車両速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。
- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

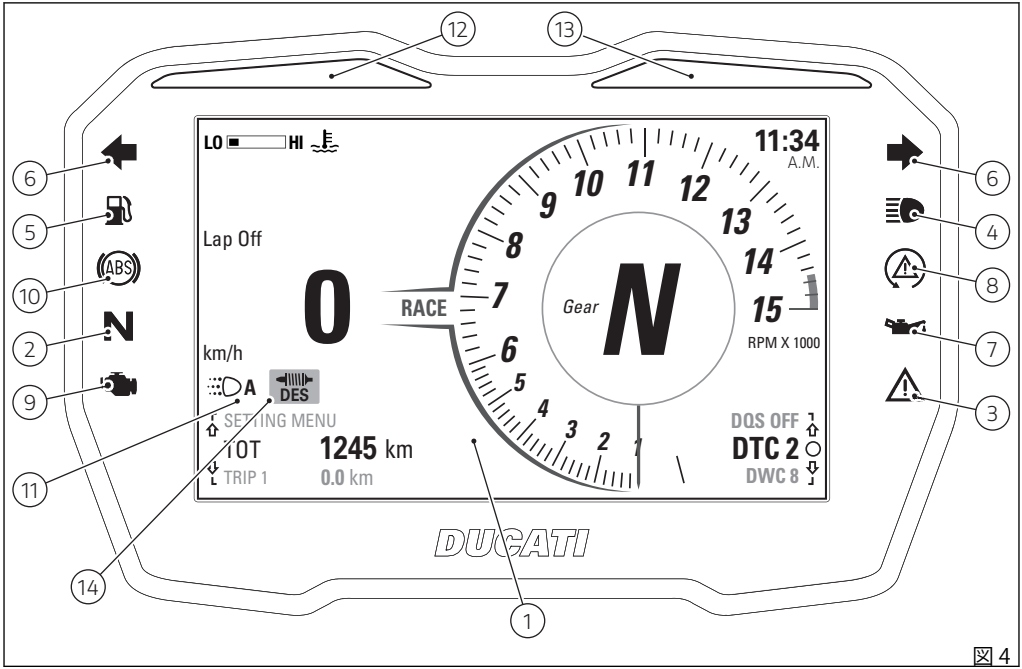

12
13
6
5
10
2
9
11
14
1
6
4
8
7
3
LO
HI
11:34
A.M.
Lap Off
0
RACE
Gear
N
km/h
RPM X 1000
A
DES
SETTING MENU
TOT
1245 km
TRIP 1
0.0 km
DQS OFF
DTC 2
DWC 8
DUCATI

図 4

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA+
ドゥカティデータアナライザープラス
DES
ドゥカティエレクトロニックサスペンション
DPL
ドゥカティパワーローンチ
DQS
ドゥカティクイックシフト
DRL
デイタイムランニングライト
DSB
インストルメントパネル
DSC
ドゥカティスライドコントロール
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
DWC
ドゥカティウィリーコントロール
EBC
ドゥカティエンジンブレーキコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット
GPS
グローバルポジショニングシステム
IMU
慣性計測ユニット

技術用語集

アンチロックブレーキシステム (ABS)

Streetfighter V4 が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じます。ABS には 3 つのレベルが用意されています。さらに、Streetfighter V4 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は、ABS レベル 2 および 3 でのみ作動します。

Streetfighter V4 の ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を

短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ドゥカティデータアナライザー (DDA+)

DDA+ はドゥカティデータアナライザーの最新モデルで、GPS 信号を読み取り "バーチャルフィニッシュライン" を作成します。システムはライダーの操作なしに自動的にラップの終了を検知し、ストップウォッチ測定を中断します。GPS 信号を使用することでサーキットのマップ上に走行軌跡だけでなく、スロットル開度、スピード、エンジン回転数、ギア、エンジン温度、DTC 介入といった車両の主要パラメーターを表示することができます。

ドゥカティパワーローンチ (DPL)

ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能にしてくれます。
DPL システムは 3 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。

ドゥカティクイックシフト (DQS)

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。レバーの作動機構内に統合された双方向マイクロスイッチからな成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

ドゥカティスライドコントロール (DSC)

ドゥカティスライドコントロール (DSC) システムは、リアタイヤのドリフトや横滑りを制御しやすくすることを目的とし、カーブ立ち上がりの加速時にライダーを支援します。タイヤの進行方向でのスリップを制御する DTC 機能の介入と併せて、このシステムが極限状態の走行コンディションにおいてより完成度の高い支援を実現します。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール (DTC) はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用サーキット走行向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

ドゥカティウィリーコントロール (DWC)

ドゥカティウィリーコントロール (DWC) はウィリー制御を行い、8 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル 1 ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

エンジンブレーキコントロール (EBC)

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。
3 レベルのオペレーションシステムを装備し、EBC は 3 つのライディングモードに組み込まれています。

ピットレーンスピードリミッター

ピットリミッターが作動すると、ピットレーン走行中の車両速度を自動的に制限します。制限速度は、専用メニューから最低 40 km/h (25 mph) から最高 80 km/h (50 mph) の範囲で変更することができます。

ライドバイワイヤ (RbW)

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールする電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。
ライドバイワイヤにより、選択したライディングモードに合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ (EBC) のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御 (DTC) に貢献します。

Riding Mode

Streetfighter V4 ではライダーは 3 つの初期設定 (ライディングモード) からライディングのスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードで、スロットルボディの挙動 (HIGH、MEDIUM、LOW) を変更するエンジン出力、ABS、DTC、DQS、EBC、DWC の各介入レベル、インストルメントパネルの表示を瞬時に変更することができます。
Streetfighter V4 で使用できる設定は、RACE、SPORT、STREET です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP " ⇧ "

2) コントロールボタン DOWN " ⇩ "

3) フラッシャーランプ / LAP ボタン

4) ENTER / ライディングモード変更ボタン ○ ”

5) クイックセレクトボタン “SELECT” ○

6) クイックセレクトボタン UP " ⇧ "

7) クイックセレクトボタン DOWN " ⇩ "

8) ハザードボタン

9) DRL ボタン (中国、カナダバージョンには装備されません)

10) ヒーテッドグリップボタン (アクセサリー)

11) DPL (ドゥカティパワーローンチ) ボタン

UP ボタン (1)、DOWN ボタン (2)、ENTER ボタン (4) は、インストルメントパネルのブラウジング、機能の操作、メニュー操作に使用します。
本書内では、UP ボタン (1) および DOWN ボタン (2) を「ブラウズボタン」と呼びます。

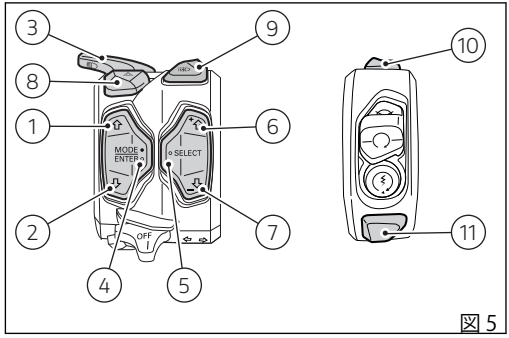


図 5

警告

走行中にクイックセレクトボタン (6) または (7) ボタンを操作すると、トラクションコントロール (DTC)、ドゥカティウィリーコントロール (DWC)、エンジンブレーキコントロール (EBC) などボタンに連動する機能の介入値が直ちに変更されるため、危険な状況を招くおそれがあります。ボタン操作はスロットルコマンドの位置とは関係なく行うことができます。そのため危険な状況を招かないよう、操作は慎重に行ってください。一般道の走行中は、絶対に UP ボタンや DOWN ボタンを操作しないでください。お客様や第三者が行った運転補助機能の手動による解除や設定に起因するいかなる損害についても、ドゥカティ社は一切の責任を負いません。

表示モード (Info Mode)

メイン画面には次の 2 種類の表示モード (Info Mode) があります。TRACK、ROAD。
"SETTING MENU" 内の "Info Mode" 機能から、使用中のライディングモードの表示モードを設定できます (“SETTING MENU - Riding Mode - Info Mode” の章をご覧ください)。
また、“SETTING MENU” 内の “Backlight” 機能から、メイン画面の背景色を “Day” モードまたは “Night” モードのいずれかに設定することができます (“SETTING MENU - Backlight” の章をご覧ください)。

TRACK 表示モードのメインスクリーンには以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) エンジンクーラント温度
3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
4) ギア表示
5) タコメーター
6) 時計
7) ラップタイム (Lap) (起動時のみ)
8) Bluetooth 表示 (搭載している場合)
9) 不在着信、または SMS / MMS / E メール受信表示 (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
10) 接続デバイス表示 (Bluetooth が搭載されており、デバイスが接続されている場合のみ)
11) 機能メニュー
12) パラーメーターとレベル変更メニュー
13) DRL ステータス (中国、カナダバージョンには DRL は装備されません)
14) DDA 機能ステータス (DDA 装置が車両に接続されている場合のみ)

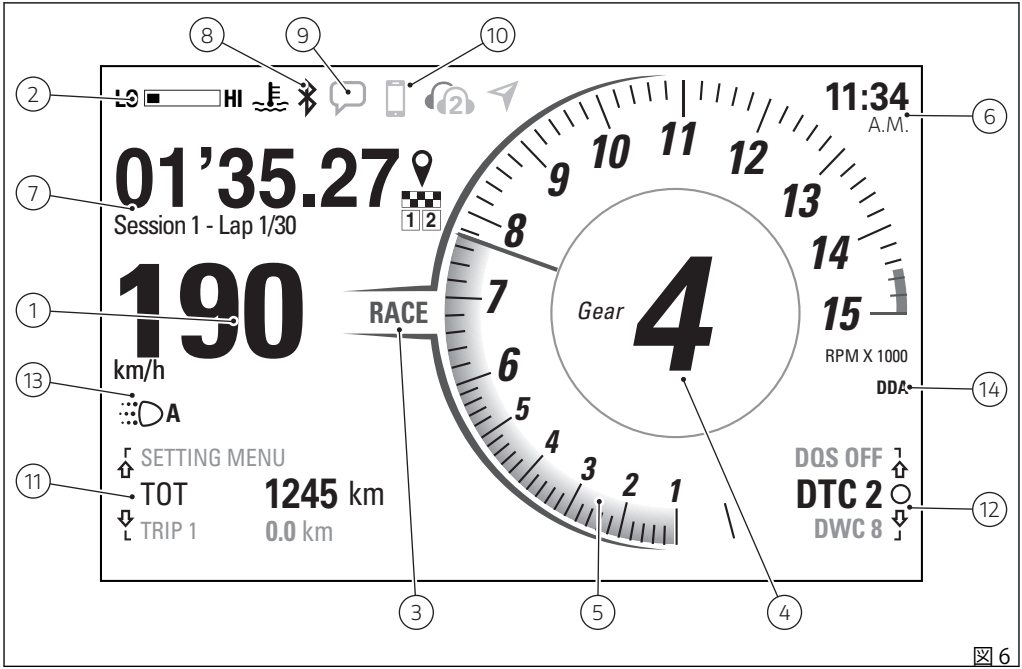

8
9
10
2
LO
HI
11:34
A.M.
6
01’35.27
7
Session 1 - Lap 1/30
1 2
190
1
RACE
Gear
4
km/h
13
A
RPM X 1000
DDA
14
SETTING MENU
DQS OFF
11
TOT
1245 km
DTC 2
12
TRIP 1
0.0 km
DWC 8
3
5
4

図 6

ROAD 表示モードのメイン画面には以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) エンジンクーラント温度
3) 設定ライディングモード (Riding Mode)
4) ギア表示
5) タコメーター
6) 時計
7) インフォテインメント — プレーヤー (音量 / 曲選択 / 曲操作) (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されプレーヤーが起動している場合のみ)
8) Bluetooth 表示 (搭載している場合)
9) 不在着信、または SMS / MMS / E メール受信表示 (Bluetooth が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
10) 接続デバイス表示 (Bluetooth が搭載されており、デバイスが接続されている場合のみ)
11) 機能メニュー
12) パラーメーターとレベル変更メニュー
13) DRL ステータス (中国、カナダバージョンには DRL は装備されません)
14) DDA 機能ステータス (DDA 装置が車両に接続されている場合のみ)

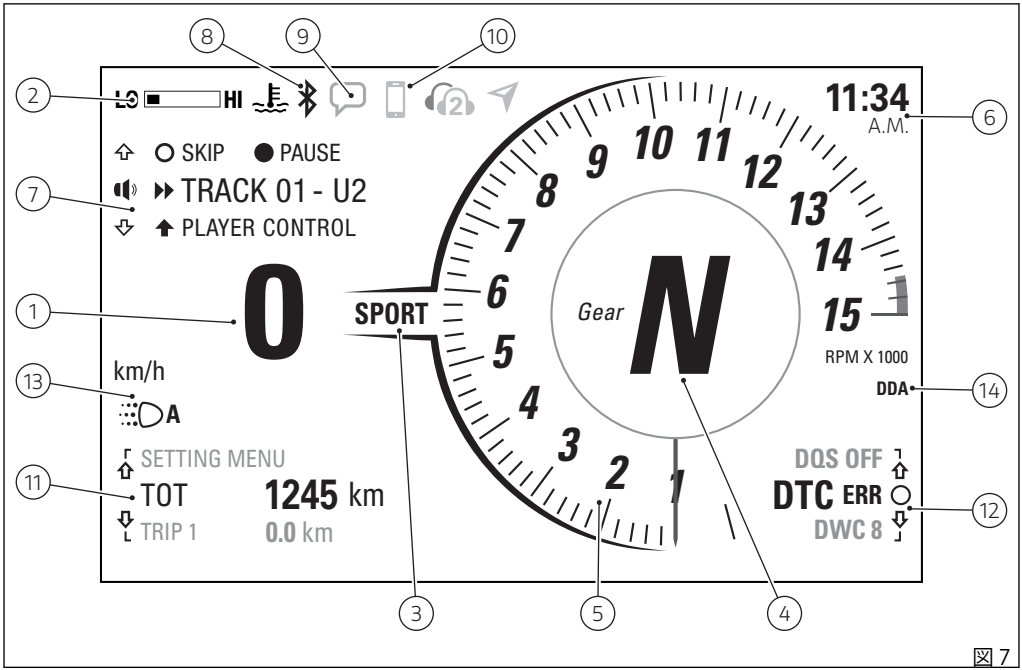

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
LO
HI
11:34
A.M.
SKIP
PAUSE
TRACK 01 - U2
PLAYER CONTROL
0
SPORT
Gear
N
km/h
A
SETTING MENU
TOT
1245 km
TRIP 1
0.0 km
RPM X 1000
DDA
DQS OFF
DTC ERR
DWC 8

図 7

主な機能とサブ機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

メイン機能

- 車両スピード
- エンジン回転数表示
- ギア表示
- 設定ライディングモード (Riding Mode)
- エンジンクーラント温度
- 時計
- パラーメーターとクイックレベル変更メニュー：DTC、DWC、DSC、EBC、ABS、DES、DQS。
- 機能メニュー：
  TOT - オドメーター
  TRIP 1 - トリップメーター 1
  CONS. AVG 1 - 平均燃費
  SPEED AVG 1 - 平均スピード
  TRIP 1 TIME - トリップタイム
  T AIR - 外気温
  TRIP FUEL - 燃料リザーブトリップメーター
  TRIP 2 - トリップメーター 2
  CONS. I. - 瞬間燃費
  PLAYER (OFF / ON) - 音楽プレーヤー操作 – Bluetooth モジュール (アクセサリー) が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ (Info Mode ROAD でのみ表示)
  LAST CALLS - Bluetooth モジュール (アクセサリー) が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ (Info Mode ROAD でのみ表示)
  LAP (OFF / ON) - ラップタイム (Info Mode TRACK でのみ表示)
  SETTING MENU — 設定メニュー

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモード (Riding Mode)
  - DAVC 設定 (DAVC)
    - DAVC 設定 - DTC (DTC)
    - DAVC 設定 - DWC (DWC)
    - DAVC 設定 - DSC (DSC)
    - DAVC 設定 - 初期値の回復 (Default)
  - エンジン設定 (Engine)
  - ABS 設定 (ABS)
  - EBC 設定 (EBC)
  - DQS 設定 (DQS)
  - 表示モード設定 (Info Mode)
  - DES 設定 (DES)
  - 各ライディングモードの初期値回復 (Default)
  - 初期値の回復 (All Default)
- PIN コードの登録/変更 (Pin Code)
- ラップタイム (Lap)
- バックライトの調整 (Backlight)

- 日時の設定 (Date and Clock)
- 単位の設定 (Units)
- サービス情報 (Service)
- タイヤおよび減速比のキャリブレーション (Tire Calibration)
- DRL モード設定 (DRL)
- Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (Bluetooth)
- DDA データ管理 (DDA)
- ターンインジケーターのモード設定 (Turn indicators)
- 情報 (Info)

サブ機能

- ラップライム表示 (Lap basic、Lap Evo)
- ローンチコントロール (DPL)
- インフォテインメント
- ヒーテッドグリップ
- DRL 自動モード表示
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- 注意 / 警告表示
- サイドスタンドの状態
- エラー表示

車両速度表示

速度は 5% 増加した速度値と設定単位(km/h または mph) で表示されます。
単位は “SETTING MENU” の “Units” から変更できます。

以下の場合には 3 本の点線 "- - -" と単位が表示されます。

- 走行速度 299 km/h (186 mph) 以上
- スピードセンサーに異常がある場合 ("- - -" 点滅)

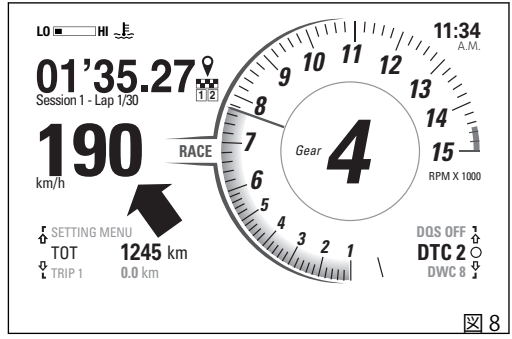


図 8

ギア表示

挿入ギア (1– 6) はタコメーター中央に表示されます。ニュートラルの時は "N" の文字が表示され、ニュートラルランプが点灯します。

ギアセンサーエラーの場合は点線 “-” が表示され、ニュートラルランプが点滅します。

参考

線 “-” が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。その場合は、ギアが正しく表示されるまで、ギアを操作してください。

参考

エンジン回転数表示の軌跡が琥珀色に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。

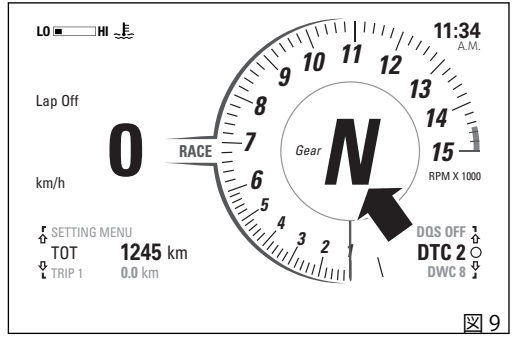


図 9

エンジン回転数表示

タコメーターの目盛りは、Info Mode TRACK では (A) モードで表示され、Info Mode ROAD では (B) モードで表示されます。Info Mode の設定については、"SETTING MENU - Riding Mode - Info Mode" の章をご覧ください。
エンジン回転数は軌跡が色付きのタコメーターで表示されます (C)。DAY モードではグレー、NIGHT モードではホワイトで表示されます。
エンジン回転数表示の軌跡が琥珀色に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。
リミッターが作動すると、オーバーレブランプ 15 が点灯し、軌跡が赤色に点滅します。
回転数が 1,000 rpm を下回っている場合は、軌跡は表示されません。

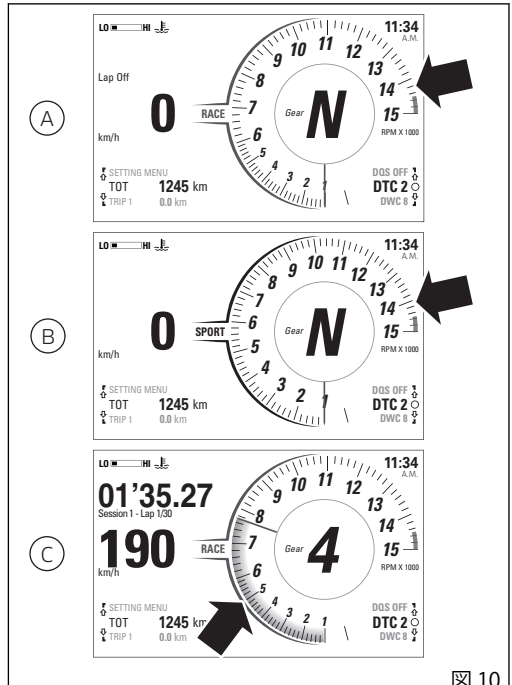


図 10

時計

時刻は「HH:MM (時:分)」形式と、その後に “AM” または “PM” で表示されます。

電源供給が中断された場合 (Battery Off) は、次回の起動時に 4 本の点線 " - - : - - " が点灯します。また、中央のコロンが点滅し、“AM” の文字が表示されます。SETTING MENU から時計を設定してください。

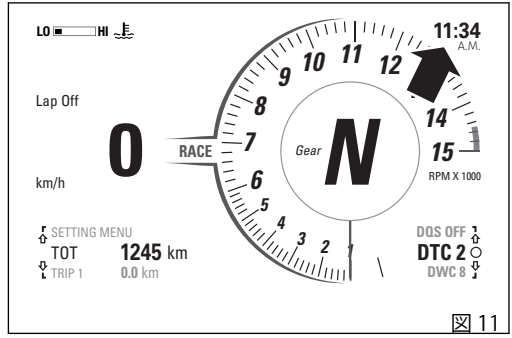


図 11

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報を受信し、ディスプレイにデータを 5 つの目盛りと “LO”、“HI” マークで表示します。
エンジン温度の表示範囲は +40° C ～ +215° C (+104° F ～ +419° F) です。

エンジン温度が +166° C (+331° F)～ +200° C (392° F) の場合は、目盛の代わりに “HIGH” の文字が赤色に点滅します。

エンジン温度が +201° C (+394° F)～ +215° C (419° F) の場合は、白色バーが目盛なしで点滅します。

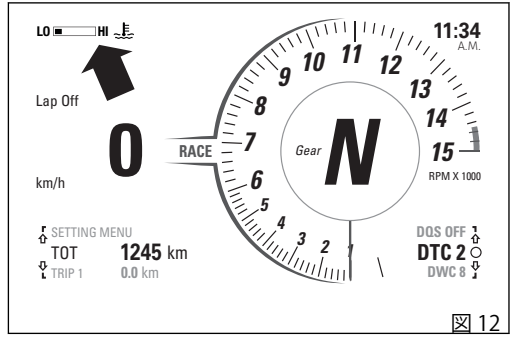


図 12

警告

過熱状態の時は、冷却システムがエンジン温度を下げることができるように、できるだけ低速で走行してください。低速で走行できない交通状況の時は、停車してエンジンを切ってください。

エンジンが過熱した状態で車両を使用し続けると、深刻な損傷を引き起こすおそれがあります。
エンジンが通常の温度に戻ってから、インストルメントパネルの警告灯を確認しながら走行してください。

ライディングモード (Riding Mode)

3 通りのライディングモードは、RACE、SPORT、STREET です。
設定されているライディングモード名が、ディスプレイ中央の速度とタコメーターの間に表示されます。
ライディングモード名とタコメーターは、それぞれのライディングモードの色で表示されます。

- RACE は赤色
- SPORT の DAY モードはブラック、NIGHT モードはホワイト
- STREET はグレー

各ライディングモードに関連するパラメーターは、ENGINE、DTC、ABS、DWC、 DSC、EBC、DQS、DES です。
SETTING MENU の “Riding Mode” 機能から、各ライディングモードのパラメーターをカスタマイズできます (“SETTING MENU - Riding Mode” の章をご覧ください)。

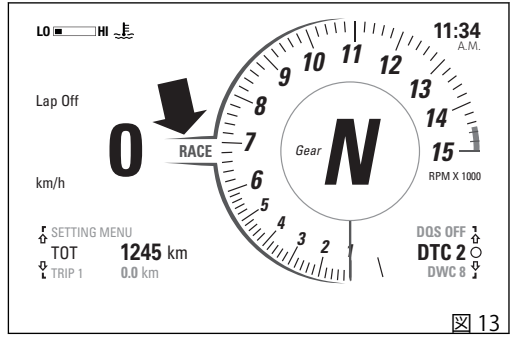


図 13

ライディングモードを変更するには、

- ENTER ボタンを 1 秒間長押しします。
  選択可能なライディングモードをスクロールできる画面が表示され、各パラメーターと設定値が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、希望のライディングモードを選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

変更を行わずにライディングモードの変更を終了するには、“Exit” を選択して ENTER ボタンを押します。

新しいライディングモードが決定されると、インストルメントパネルは以下の検証を行います。

- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップが開いている場合、“Close throttle” (スロットルを閉じてください) の文字が表示されます。スロットルグリップが閉じられたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。
- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップは閉じているが、ブレーキがかけられている場合、“Release brakes” (ブレーキを放してください) の文字が表示されます。ブレーキが放されたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。

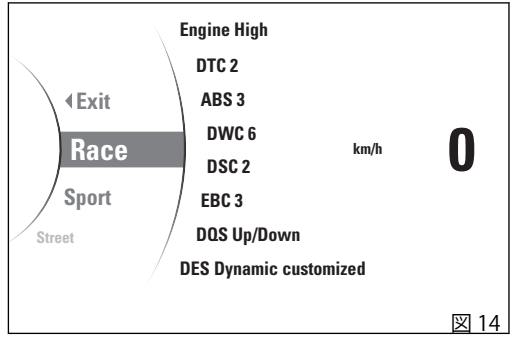


図 14

- 上記の両方の状態にある場合は、“Close throttle and release brakes” (スロットルを閉じて、ブレーキを放してください) の文字が表示されます。両方の条件が満たされたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。

上記のいずれかの条件が表示されてから 5 秒以内にライディングモード変更を有効にする条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずにメイン画面に戻ります。

警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください (低速での変更をお勧めします)。

パラーメーターとクイックレベル変更メニュー

メイン画面の右下の角に、レベルをクイック変更できるパラメーターメニューが表示されます。
以下のパラメーターとパラメーターの現在の設定値が表示されます。

- DTC
- DWC
- DSC
- EBC
- ABS
- DES
- DQS

クイックセレクトボタン UP (6、図 16) とクイックセレクトボタン DOWN (7、図 16) を使って、使用できるパラメーターの一覧をスクロールさせることができます。
パラメーターの右側に丸印が現れると、クイックセレクトボタン SELECT (5、図 16) を押してレベルを変更できることを示します。

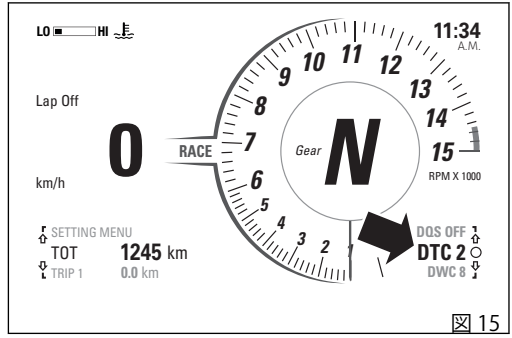


図 15

レベル変更

以下のパラメーターについてレベルのクイック変更を実行できます。DTC、DWC、DSC、EBC。
このモードでは、選択したパラメーターと現在の設定レベルが表示されます。
ブラウズボタン (6) と (7) を使用して、変更中のパラメーターのレベルをスクロールすることができます。
ボタン SELECT (5) を押すと選択したレベルを決定し、インストルメントパネルは前の画面に戻ります。
このように設定したレベルは、使用中のライディングモードに保存されます。

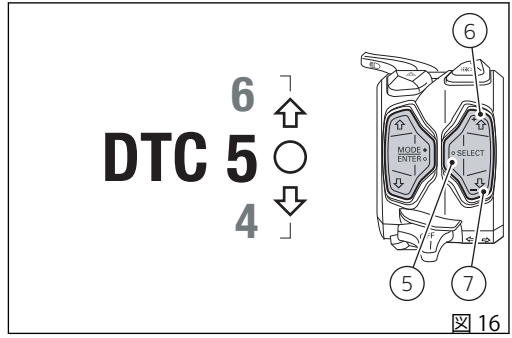


図 16

参考
SETTING MENU (例：DTC、DWC、DSC) からパラメーターが「OFF」に設定されている場合は、「OFF」ステータスが表示され、クイック変更は実行できません。

参考
クイック変更からは、パラメーターレベルを「off」に設定して機能を停止することはできません。

DTC 表示

DTC の現在のレベルを表示します。

DTC が機能制限モードである場合は点滅表示され、さらに DTC/DWC ランプが点灯します。
DTC エラーの場合は、現在のレベルの代わりに "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DTC/DWC ランプが点灯します。
DTC を “OFF” に設定すると、DWC も自動的に “OFF” に設定され、DTC/DWC ランプが点灯します。

警告
システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC) はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用サーキット走行向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

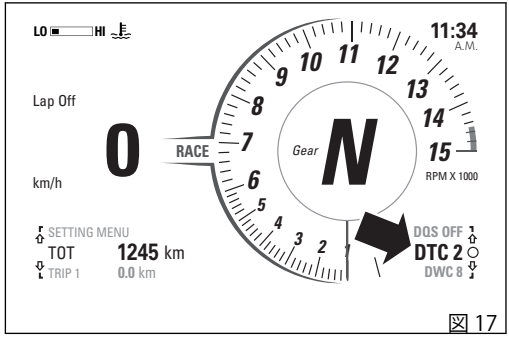


図 17

警告
DTC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時のどちらでも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や

道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
OFF		DTC システムは解除されています。	NO
1	TRACK プロフェッショナル	このレベルは熟練した上級ライダー向けサーキット走行専用に設定されています。 このモードにおいてDTCはスリップを許容します。	NO
2	TRACK	このレベルは熟練ライダー向けサーキット走行専用に設定されており、標準装備の OEM タイヤに合わせて最適化されています。 このモードにおいてDTCはスリップを許容します。	NO
3	SPORT / TRACK	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行用に設定されています。 このモードにおいてDTCはスリップを許容します。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル

DTC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
4	SPORT / TRACK	このレベルはサーキット走行用 (および上級ライダー用ストリート走行用) に設定されています。	NO
5	SPORT	このレベルは、ストリートおよびサーキット走行用に設定されています。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、グリップの良好なストリート走行用に設定されています。ENGINE MED の使用に適合。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル
7	RAIN	このレベルは濡れた路面でレインタイヤを装着するサーキット走行専用に設定されています。	NO
8	HEAVY RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面でのストリート走行用に設定されています。 このレベルが最善に機能するためには、ENGINE LOW を使用してください。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着し、標準装備の最終減速比を装備している場合においてのみ、DTC システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Rosso Corsa II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 200/60ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低下することがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。
最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合 (サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

正しいレベルの選択は、3 つの観点から行います。

1) グリップ (タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
2) レイアウト/行程 (同じような、または全く異なったスピードでのカーブ)
3) ライディングスタイル (より "スムーズ" に、またはより "シャープ" に)

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています (後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照)。グリップが弱い場合には、DTC が確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 介入レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし "シャープ" に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して "スムーズ" に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧

めします。その後、レベルを6、 5、4と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します。
過度な介入が起こる1つか2つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し "シャープ" なライディングスタイルで走行してみてください。

一般道での使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル8に設定することをお勧めします。DTC が介入しすぎると感じる場合には、レベルを 5、4 と変えながら、最適なレベルに達するまで調整します。

グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します (例：レベル5では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル4に、レベル5では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル6に変更します)。

DWC 表示

DWC の現在のレベルを表示します。

DWC が機能制限モードである場合は点滅表示され、さらに DTC/DWC ランプが点灯します。
DWC エラーの場合は、現在のレベルの代わりに "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DTC/DWC ランプが点灯します。

参考

DTC を “OFF” に設定した場合、DWC も自動的に “OFF” に設定されます。

警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

警告

DWC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

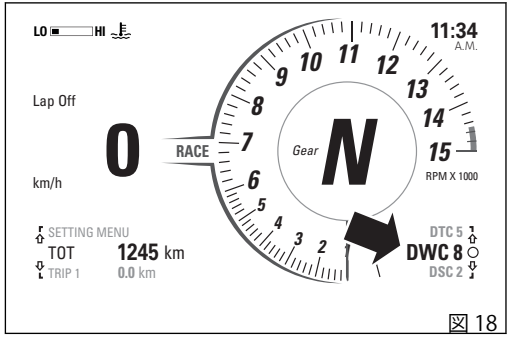


図 18

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

下記の表は、各ライディングタイプに適したDWC介入レベルと、ユーザーが選択可能な"ライディングモード"のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC レベル	用途		DEFAULT
OFF		DWC システム解除	NO
1	HIGH PERFORMANCE	非常に熟練したライダー向けサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
2	MEDIUM PERFORMANCE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
3	PERFORMANCE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル
4	PERFORMANCE	すべてのライダー向け、サーキッドでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	ライディングモード "SPORT" のデフォルトレベル
5	SPORT	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO

DWC レベル	用途		DEFAULT
6	SPORT	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード "STREET" のデフォルトレベル
7	MEDIUM SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO
8	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比を装備し、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWC システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Rosso Corsa II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 200/60ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ (リア = 200/60 ZR17、フロント = 120/70 ZR17) など違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合 (サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。

DWC のレベル 8 を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル 8 からレベル 1 の順に DWC システムの介入レベルが小さくなります。レベル 1、2、3 ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベルの使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験
- レイアウト/行程 (低速ギアでの立ち上がり、もしくは高速ギアでの立ち上がり)

ライダーの経験

使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル 1、2、3 を適切に利用するためには高い能力が求められます。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、より低いレベルを選択する必

要があります。逆に高速サーキットなどではより高いレベルを選択することが可能です。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、最初の数周はレベル 8 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 7、6 と変えながら最適な DWC レベルに達するまで調整します (タイヤを温めるため、各レベルごとに数周します)。

一般道での使用時のアドバイス

DWC を起動した後、レベル 8 を選択し、好みのスタイルで運転します。DWC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 7、6 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します (例：レベル 7 では DWC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では DWC の介入が全くないと感じる場合はレベル 8 に変更します)。

DSC 表示

DSC の現在のレベルを表示します。

DSC が機能制限モードである場合は点滅表示され、さらに DAVC ランプが点灯します。
DSC エラーの場合は、現在のレベルの代わりに "Err" の文字が赤色で表示され、さらに DAVC ランプが点灯します。
DTC が “OFF” に設定されると、DAVC ランプが点灯します。

警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

参考

DTC が OFF に設定されている場合は、DSC も強制的に OFF に設定されます。

ドゥカティスライドコントロール (DSC) システムは、リアタイヤのドリフトや横滑りを制御しやすくすることを目的とし、カーブ立ち上がりの加速時にライダーを支援します。タイヤの進行方向でのスリップを制御する DTC 機能の介入と併せて、このシステムが極限状態の走行コンディションにおいてより完成度の高い支援を実現します。

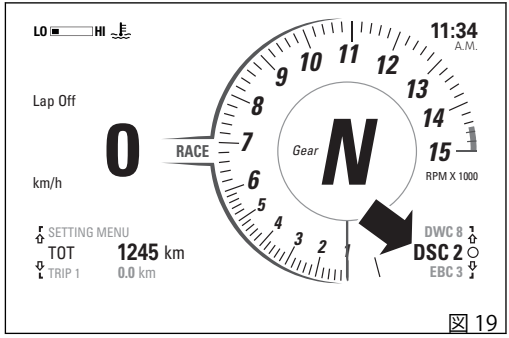


図 19

DSC は 2 通りのレベルで動作します。各レベルは DTC の特定レベルと組み合わせてタイヤの横滑りに介入する異なる値が設定されています。

下表は、各運転タイプに適したDSC介入レベルを示します。選択したDTCレベルに応じて、各レベルは指定のタイヤおよびDTCレベルに対して最適になるように設定されています。

DSC レベル	用途	デフォルト
OFF	DSC システム解除	NO
1	ベースの介入レベルは、選択するDTCレベルに依存します。DSCシステムは横滑りを制限するために控えめな介入を行います。	NO
2	ベースの介入レベルは、選択するDTCレベルに依存します。システムは横滑りを制限するためによりはっきりと介入します。	ライディングモード "RACE"、"SPORT"、"STREET" のデフォルトレベル。

警告

DSCシステムは、リアタイヤの横滑りを制限することでドリフト状態でのカーブの立ち上りに加速しやすいようにユーザーを支援します。ユーザーが危険を伴うドリフト角に達するのをシステムは防止できませんので、安全のために運転中は常に十分に注意して本システムを使用してください。

レベルの選択に際しての注意事項

運転スタイルに応じて、カーブの立ち上がりがほぼ鋭角のコース取りができ、大きめか小さめのドリフト角を伴うことがあります。以下の記載に従ってご自身のライディングに最適な介入レベルを見つけてください。

そのためにはまず、DTC システムの解説の記載内容に従って、最適な DTC レベルを決定することが推奨されます。次に、よりはっきりした介入を行う DSC レベル 2 を選択し、システムの特性を理解するためにコースを数周してください。サイドグリップへの介入が多すぎると感じる時は、軽い介入を行う DSC レベル 1 を試してください。

標準装備の OEM タイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

警告

DSC はライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

EBC 表示

EBC の現在のレベルを表示します。

EBC が性能制限モードにある場合は、点滅表示されます。
エラーの場合は、レベルの代わりに "Err" の文字が赤色で表示されます。

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。
3 レベルのオペレーションシステムを装備し、EBC は 3 つのライディングモードに組み込まれています。

エンジンブレーキコントロール (EBC) は走行中アクセルが完全に閉じた時に掛かるエンジンブレーキ制御を行います (ブレーキを掛けているかいないかに関わらず、シフトダウン時やギアは変えずにアクセルだけを戻した時)。このシステムは独立してスロットルバルブを調整し、走行中のホイールからエンジンへのバックトルクを一定に保ちます。
このエンジンブレーキ調整システムでは、エンジンブレーキが最大になるレベル 1 設定から、レベルを上げるごとにエンジンブレーキが徐々に軽減します。
システムの影響はエンジンの高回転域で特に顕著で、回転数が下がっていくにつれ徐々に小さくなっていきます。

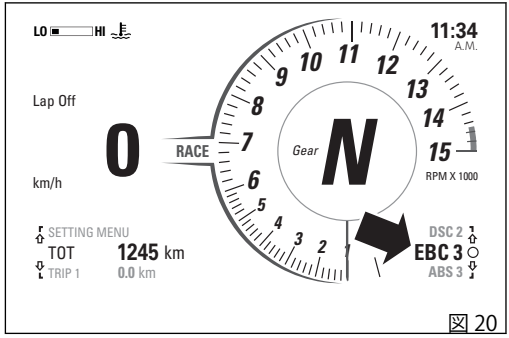


図 20

警告
EBC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

ライディングモードの EBC 介入表：
下記の表は、各ライディングタイプに適した EBC 介入レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

EBC	特徴	DEFAULT
1	このレベルではエンジンブレーキは最大になります。	ライディングモード RACE、SPORT、STREET のデフォルトレベル
2	このレベルではエンジンブレーキは小さくなります。このレベルは、減速時のエンジンブレーキを小さくしたいライダーに適します。	NO
3	このレベルではエンジンブレーキは最小になります。このレベルは、減速時のエンジンブレーキを最小限に抑えたいライダーに適します。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比を装備し、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、EBC システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Diablo Rosso Corsa II のサイズ：フロント 120/70ZR17、リア 200/60ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

最終減速比に関して、標準装備とは異なるギア比を使用する場合 (サーキット走行においてのみ可)、システムを最適に動作させるために所定の自動調整機能を使用することが推奨されます。
レベル 3 を選択すると、EBC はエンジンブレーキの機能を最小限に抑えます。レベル 3 からレベル 1 の順にエンジンブレーキレベルが大きくなります。レベル 1 でエンジンブレーキレベルは最大になります。
主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) グリップ (タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
2) レイアウト/行程 (類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる)
3) ライディングスタイル

グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況と密接に関係しています。

レイアウトタイプからのレベル選択

同じようなブレーキングで走行できるレイアウト/行程の場合 (すべて非常に激しい、またはすべて非常に緩やか)、それぞれのブレーキングで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なブレーキングがレイアウト/行程にある場合、EBC システムの妥当な介入レベルが必要になります。

ABS 表示

ABS の現在のレベルを表示します。

ABS が機能制限モードである場合は、現在のレベルが点滅表示され、さらに ABS ランプが点滅します。
ABS エラーの場合は、レベルの代わりに "Err" の文字が赤色で表示され、さらに ABS ランプが点灯します。
ABS が自己診断中は、ABS ランプが点滅します。

警告

システム異常の場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。
フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。
ABS は電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを

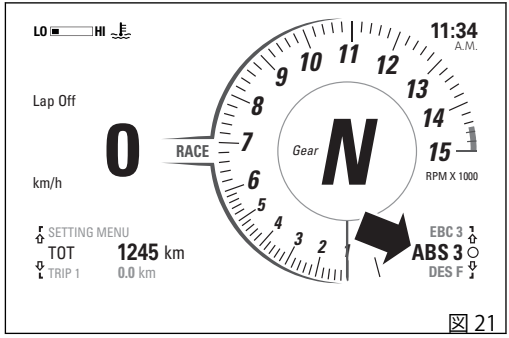


図 21

検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、路面とのグリップを最適に維持します。
続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。
問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。
ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの制御は別々に行われます。

Streetfighter V4 が搭載する ABS は、設定レベルに応じた異なるストラテジーを適用して車輪がロックするのを防止するセーフティシステムです。
ストラテジーのアクティブプレゼンスと介入レベルは選択レベルに準じます。ABS には 3 つのレベルが用意されています。

さらに、Streetfighter V4 が搭載する ABS は「コーナリング」機能を備えており、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。コーナリング機能は、ABS レベル 2 および 3 でのみ作動します。

Streetfighter V4 の ABS 設定レベルに応じて、リアホイールのリフトアップ制御を有効にでき、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

ABS のレベル 1 はどのライディングモードとも連動していません。システムはフロントブレーキディスクにのみ作用し、サーキット走行においてさらに高いパフォーマンスを保証します。
このモードでは、コーナリング機能は作動しません。

ABS のレベル 2 はライディングモード SPORT、RACE に連動ており、このレベルでは DSC が作動します (ブレーキング時のスライド制御)。一定の起動条件下で、ライダーの安全を最大限に確保しながらも、ABS システムは車両のヨーイングまたはスライドを可能にするリアの大幅なスリップを許可し、コーナーに高速で進入できるようにします。
フロントブレーキを激しくかけている時に、リアブレーキも操作した場合にこのコントロールが作動します。
このシステムの作動中、リーンアングルに応じて安全なレベル内に維持するため、ABS は車両のスリップまたはスライドレベルを監視します。車両のスリップまたはスライドレベルが高くなりすぎると、ABS は通常機能に戻り車両を再調整して安全を確保します。

警告

2つあるブレーキコマンドの片方だけを使用すると、車両のブレーキ性能が低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下記の表は、各ライディングタイプに適した ABS レベルと、ユーザーが選択可能な "ライディングモード" のどれにデフォルト設定されているかを示します。

レベル	スタイル	用途	DEFAULT
1	TRAK PERFORMANCE	このレベルは上級ライダー向けサーキット走行専用に設定されています (ストリートでの使用は推奨されません)。このレベルでは、ABS はフロントホイールにのみ作用し、リアホイールのロックは許容されます。このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行わず、コーナリング機能も作動しません。	このレベルはいずれのライディングモードにもデフォルトとして連動していません。
2	ROAD PERFORMANCE	このレベルは、グリップの良好なサーキットおよびストリート走行用に設定されています。 このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用し、コーナリング機能が作動します。 このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行いません。このキャリブレーションは制動力を優先し、ライダーがホイールのリフトアップを管理できるようなっています。 このレベルでは DSC (ブレーキング時のスライド制御) も作動します。	ライディングモード "RACE" のデフォルトレベル。

レベル	スタイル	用途	DEFAULT
3	ROAD SAFE / STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABS は両方のホイールに作用し、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能が作動します。	ライディングモード “SPORT”、“STREET” のデフォルトレベル。

レベルの選択に際しての注意事項

警告
選択可能な全レベルにおいて、標準装備のブレーキシステムおよび標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、ABS システムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ：

- フロント Pirelli Diablo Rosso Corsa 2 120/70ZR17
- リア Pirelli Diablo Rosso Corsa 2 200/60ZR17

標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキングとリフトアップ制御を行い、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。
レベル 3 において、ABS システムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

レベル 2 を選択すると、ABS システムは安定性やリフトアップ制御よりみブレーキ力を優先します。リフトアップ制御はレベル 2 では作動しません。
レベル 2 において、ABS システムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。さらにレベル 2 では DSC 機能が作動します (このレベルでのみ利用できます)。

ABS システムのレベル 1 の使用はサーキット走行専用になります。パフォーマンスを重視して ABS はフロントホイールにのみ作用します。
このレベルではリフトアップ制御も機能も作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) タイヤ/路面のグリップ (タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 3 の使用が推奨されます。

DES 表示

インストルメントパネルはディスプレイに DES 機能の状態を以下のように表示します。

- システムが Dynamic モードの場合は、"DES D" の文字
- システムが Fixed モードの場合は、"DES F" の文字
- システムエラーの場合は、"Err"" の文字
- システムが性能制限モードにある場合は、“D” または “F” の文字が点滅
- システムが初期化中の場合は、"DES -" の文字が点滅

このシステムが Bosch 慣性センサーとのインターフェースとなり、変化する道路やライディング条件にダイナミックに対応して、サスペンション本来の性能を引き出し、確実な車両コントロールを可能にします。次の 2 通りの動作モードがあります。Fixed (固定) モード。アクティブモードではなく、フロント / リアサスペンションのコンプレッションダンピングおよびリバウンドダンピング、ステアリングダンパーのプリロードをライダーが特定レベルに設定することができます。一度設定したレベルは、従来型アジャスタブルサスペンションシステムと同様に、ライダーが新たに設定し直すまで維持されます。もうひとつは「Event Based」、イベントベースモードが用意されています。セミアクティブモードで、サスペンションの「挙動」

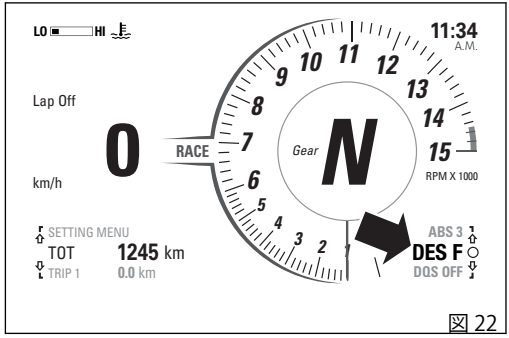


図 22

レベルをライダーがハードからソフトまで選択することができます。このモードでは、ライダーが選択した「挙動」を維持しながら、システムは道路状況に応じてダンパーのコンプレッションダンピング、リバウンドダンピングをダイナミックに調整します。

DQS 表示

インストルメントパネルはディスプレイにDQS機能の状態を以下のように表示します。

- DQS システムが起動している場合は、“DQS U-D” (シフトアップおよびシフトダウン) の文字。
- DQS システムが解除されている場合、"DQS Off" の文字
- DQS システムエラーまたはコントロールユニットエラーの場合は、"Err"" の文字。
- DQS システムが性能制限モードにある場合は、"DQS" の文字が点滅。

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。
レバーの作動機構内に統合された双方向マイクロスイッチからな成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。
システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

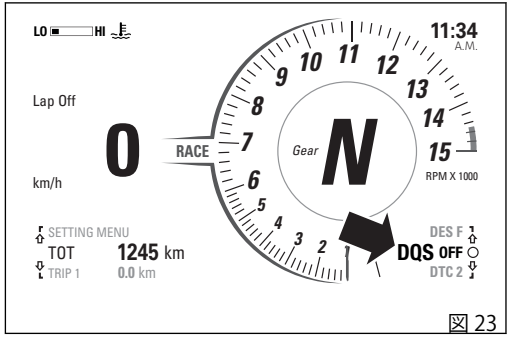


図 23

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載ない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。
- ギアをチェンジする時 (シフトアップまたはシフトダウン) は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギ

アチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。

- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。
- クラッチレバーを引いているときは、ドゥカティクイックシフトは作動しません。
- スロットルが完全に閉じている場合にのみ、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- 万一ドゥカティクイックシフトのストラテジーが正常に作動しない場合でも、クラッチレバーを操作してギアチェンジを完了することができます。
- ギアチェンジペダルを上下いずれかの方向に 30 秒以上押し続けると (誤って操作した場合でも)、不正なエラーとしてコントロールユニットに記録され、ドゥカティクイックシフトの機能が停止することがあります。こうした場合にシステムを再起動するには、ペダルを放してインストルメントパネルを一旦切り、5 秒待ってからもう一度起動してください。
- ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数 2,500 rpm 以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下でのみ作動します。これは、シフトダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。

機能メニュー

ブラウズボタンを使用して、メイン画面に機能メニュー内の機能をスクロール表示することができ機能ます。
設定されているインフォモードとライディングモードに応じて、メニューには異なる機能が表示されます。
機能メニューには以下の機能が表示されます。

- TOT - オドメーター
- TRIP 1 - トリップメーター 1
- CONS. AVG 1 - 平均燃費
- SPEED AVG 1 - 平均スピード
- TRIP 1 TIME - トリップタイム
- T AIR - 外気温
- TRIP FUEL - 燃料リザーブトリップメーター
- TRIP 2 - トリップメーター 2
- CONS. I. - 瞬間燃費
- PLAYER (OFF / ON) - 音楽プレーヤー操作 – Bluetooth モジュール (アクセサリー) が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ (Info Mode ROAD でのみ表示)
- LAST CALLS - Bluetooth モジュール (アクセサリー) が搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ (Info Mode ROAD でのみ表示)
- LAP (OFF / ON) - ラップタイム (Info Mode TRACK でのみ表示)
- SETTING MENU — 設定メニュー

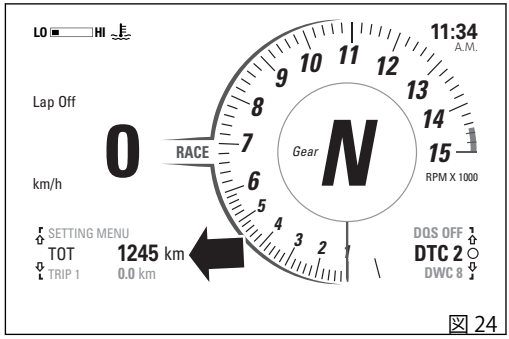


図 24

各種機能がスクロール表示できる時は、メニューの左側に UP ⇧ および DOWN ⇩ 矢印が現れます。矢印はブラウズボタンに相当します。丸印 ○ の表示は、ENTER ボタンを押して表示された機能を操作できることを示します。例えばトリップメーター TRIP 1 のリセットです。

TOT

オドメーターは、設定されている単位 (キロメートルまたはマイル) で車両の総走行距離を表示します。
単位は “SETTING MENU” の “Units” から変更できます。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

参考
オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

参考
インストルメントパネルを起動すると、この機能が 10 秒間表示され、その後インストルメントパネル停止前に設定されていた機能に戻ります。

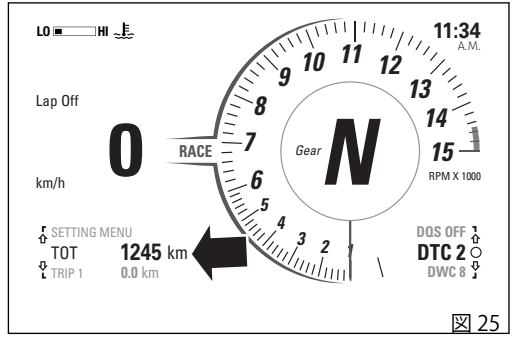


図 25

TRIP 1

TRIP 1 機能は、設定されている単位 (キロメートルまたはマイル) で車両の部分走行距離を表示します。単位は “SETTING MENU” の “Units” から変更できます。データが最大値 9999.9 を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再び 0.0 からカウントを始めます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して “TRIP 1” を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに “RESET?” (リセットしますか) の文字が表示されます。
- UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルか、ENTER ボタンを押して決定します。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- CONS. AVG 1 機能をリセットした場合。
- SPEED AVG 1 機能をリセットした場合。
- TRIP 1 TIME 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

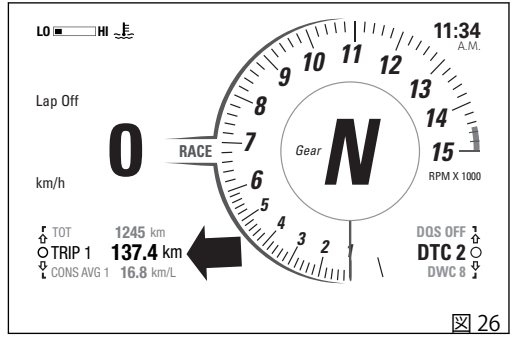


図 26

参考

TRIP 1 機能をリセットすると、CONS. AVG 1、SPEED AVG 1、TRIP 1 TIME の各機能もリセットされます。

CONS. AVG 1

CONS. AVG 1 機能は、最後に機能がリセットされてから計算された車両の平均燃費を表示します。
データは設定された単位(km/L、L/100 km、mpg UK、mpg US) で表示されます)。
単位は "SETTING MENU" の "Units" から変更できます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して "CONS. AVG 1" を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに "RESET?" (リセットしますか) の文字が表示されます。
- UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルか、ENTER ボタンを押して決定します。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- TRIP 1 機能をリセットした場合。
- SPEED AVG 1 機能をリセットした場合。
- TRIP 1 TIME 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

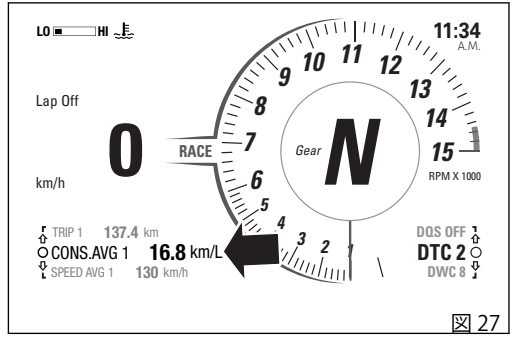


図 27

参考
CONS. AVG 1 機能をリセットすると、TRIP 1、SPEED AVG 1、TRIP 1 TIME の各機能もリセットされます。

参考
平均燃費は、停車中でもエンジンがかかっている時間は計算されます。

SPEED AVG 1

SPEED AVG 1 機能は、設定されている単位 (キロメートルまたはマイル) で、最後に機能がリセットされてから計算された車両の平均スピードを表示します。単位は “SETTING MENU” の “Units” から変更できます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して “SPEED AVG 1” を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに “RESET?” (リセットしますか) の文字が表示されます。
- UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルか、ENTER ボタンを押して決定します。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- TRIP 1 機能をリセットした場合。
- CONS. AVG 1 機能をリセットした場合。
- TRIP 1 TIME 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

参考

SPEED AVG 1 機能をリセットすると、TRIP 1、CONS. AVG 1、TRIP 1 TIME の各機能もリセットされます。

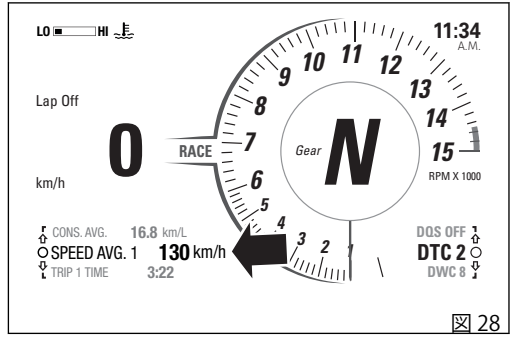


図 28

参考

平均スピードのリセット後 10 秒間は、3 本の点線 “- - -” が表示されます。

TRIP 1 TIME

TRIP 1 TIME 機能は、最後に機能がリセットされてから計算された車両の走行時間 (時:分) を表示します。データが最大値 511:00 を超えると、カウンターは自動的にリセットされます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して “TRIP 1 TIME” を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに “RESET?” (リセットしますか) の文字が表示されます。
- UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルか、ENTER ボタンを押して決定します。

以下のような場合には、TRIP 1 TIME カウンターが自動的にリセットされます。

- TRIP 1 機能をリセットした場合。
- CONS. AVG 1 機能をリセットした場合。
- SPEED AVG 1 機能をリセットした場合。
- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

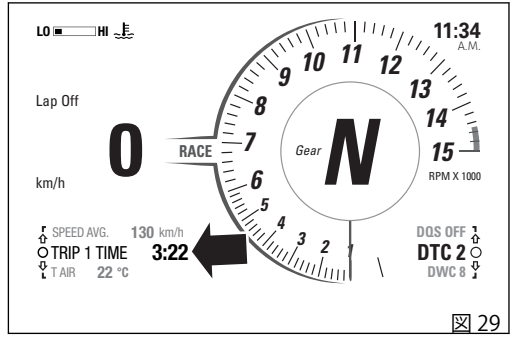


図 29

参考
TRIP 1 TIME 機能をリセットすると、TRIP 1、CONS. AVG 1、SPEED AVG 1 の各機能もリセットされます。

参考
停車中でもエンジンがかかっている時間は、走行時間として計算されます。

T AIR

T AIR 機能は外気温度 (°C または °F) を表示します。単位は "SETTING MENU" の "Units" から変更できます。

温度データは -39°C～+125°C (-38°F～+257°F) の間で表示されます。
温度が -39°C (-38°F) 未満 あるいは +125°C (+255°F) を超える場合には点線 "- - -" が表示されます。

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

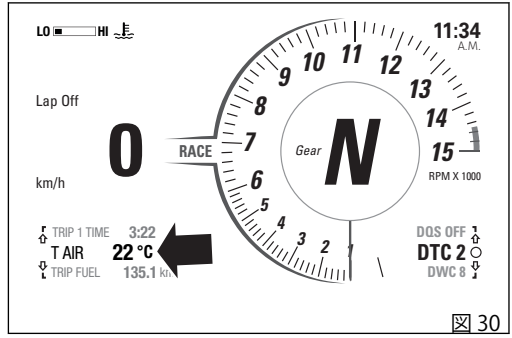


図 30

TRIP FUEL

TRIP FUEL 機能は、車両がリザーブ走行に入ると有効になり、燃料リザーブランプ点灯時点からの走行距離を設定されている単位(キロメートルまたはマイル)で表示します。
単位は“SETTING MENU”の“Units”から変更できます。
リザーブ走行状態でなくなると、この機能は停止します。
以下のような場合には、リザーブ走行距離データがリセットされます。

- データが最大値 (9999.9) を超えた場合。
- SETTING MENU から単位を変更した場合。
- バッテリー接続を切り離した場合。

参考
車両がリザーブ走行に入ると、その時点で表示されている機能に関係なく、TRIP FUEL 機能が自動的に表示されます。
ただし、ブラウズボタンを使用して、別の機能もスクロール表示することはできます。

参考
SETTING MENU 内にいる場合や PIN Code を入力して車両のロック解除を行っている場合は、TRIP FUEL 機能は表示されません。

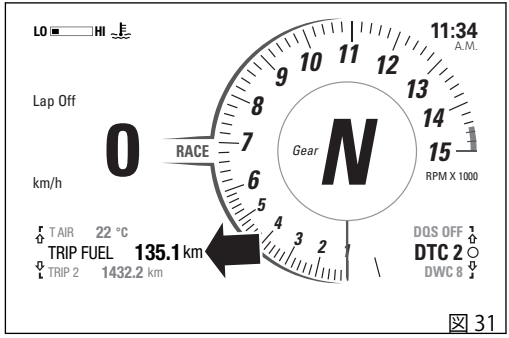


図 31

参考
TRIP FUEL 機能の表示中にリザーブ走行が終了すると、インストルメントパネルは TOT 機能の表示に戻ります。

TRIP 2

TRIP 2 機能は、設定されている単位 (キロメートルまたはマイル) で車両の部分走行距離を表示します。単位は “SETTING MENU” の “Units” から変更できます。データが最大値 9999.9 を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再び 0.0 からカウントを始めます。

機能のリセット：

- ブラウズボタンを押して “TRIP 2” を表示します。
- ENTER ボタンを押します。
- カウンターの代わりに “RESET?” (リセットしますか) の文字が表示されます。
- UP ボタンまたは DOWN ボタンを押してキャンセルか、ENTER ボタンを押して決定します。

以下のような場合は自動的にリセットされます。

- 電源供給が中断された時 (Battery Off)。
- SETTING MENU からシステムの測定単位を手動で変更した場合。

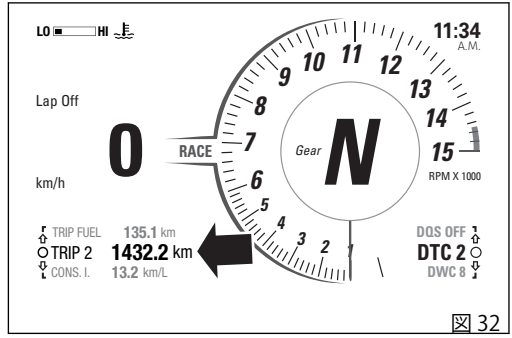


図 32

CONS. I.

CONS. 機能は瞬間燃費を表示します。
データは設定された単位(km/L、L/100 km、mpg UK、mpg US) で表示されます)。
単位は “SETTING MENU” の “Units” から変更できます。

参考

瞬間燃費は、車両が起動し、動いている場合にのみ計算されます。

瞬間燃費が算出されない場合は、3 本の点線 " - - .-" がデータの代わりに表示されます。

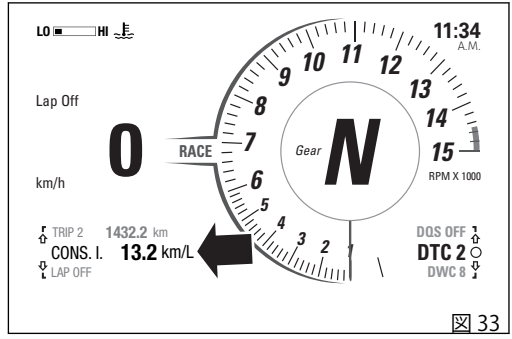


図 33

LAP (OFF / ON)

この機能は TRACK 表示モードでのみ表示され、ラップタイム記録機能を起動/停止を行います (“ラップタイム (LAP)” をご覧ください)。

- LAP が起動していない場合は、"LAP OFF" の文字が表示されます。起動するには ENTER ボタンを押します。
- LAP が起動している場合は、"LAP ON" の文字が表示されます。停止するには ENTER ボタンを押します。

“SETTING MENU” の ”Lap” 機能からも、LAP 機能を起動/停止や記録タイムの管理が可能です (“SETTING MENU - Lap” をご覧ください)。

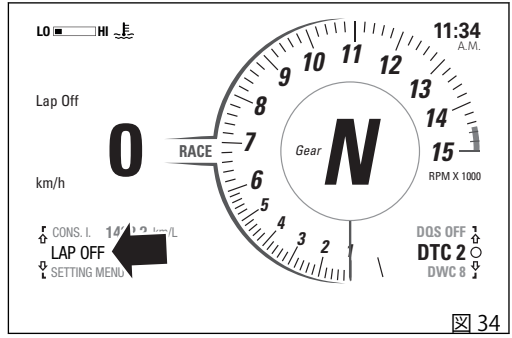


図 34

PLAYER (OFF / ON)

この機能はROAD表示モードでのみ表示され、音楽プレーヤー操作を有効、無効にします。
Bluetoothコントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。
機能を “OFF” または “ON” に設定します。

重要

インストルメントパネルにBluetooth接続しているスマートフォンの接続を解除するか電源を切ると、この機能はリスト内に表示されなくなります。スマートフォンがインストルメントパネルにBluetooth接続された時に、再び表示されます。

参考

スマートフォンの他にライダーヘルメットインターコムが接続されている場合は、音楽はヘルメットのイヤホンを通して再生されます。

参考

LAP機能が起動している時に音楽プレーヤーを起動(PLAYER ON)すると、LAP機能がOFFモードに設定され中断されます。

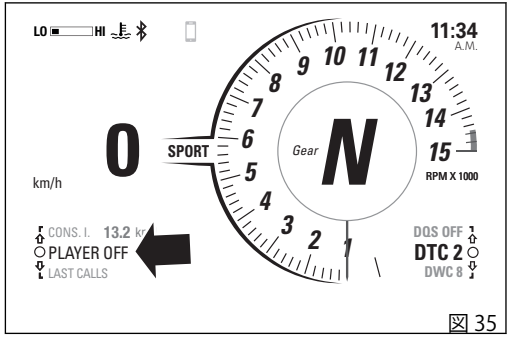


図 35

参考

音楽プレーヤーが起動(PLAYER ON)し、スマートフォンから曲を再生している時にLAP機能を起動すると、曲の再生が中断され、機能が停止(PLAYER OFF)します。

音楽プレーヤー操作の起動

音楽プレーヤー操作が “OFF” に設定されている場合 (図 35)、ENTER ボタンを押すとプレーヤー操作が起動します。

音楽プレーヤー操作が起動中は、接続しているスマートフォンで再生中の曲のタイトル (A)、可能な操作 (B)、“EXIT” の表示とその前に下向きの黒色矢印 (C) がディスプレイに表示されます。

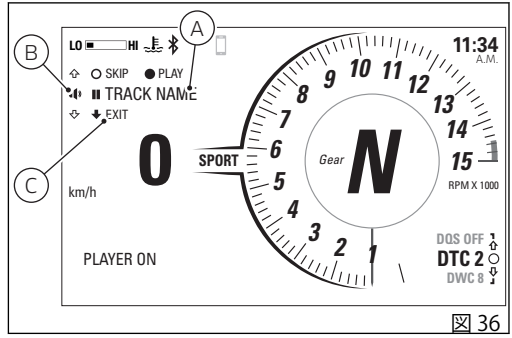


図 36

参考

完全な曲名は一度だけ右から左にスクロールで表示され、その後は曲名の最初の数文字だけが表示されます。曲タイトルが利用できない場合は、“NOT AVAILABLE” の文字が表示されます。

音楽プレーヤー操作

操作が起動している時、UP ボタン、DOWN ボタン、ENTER ボタンは音楽プレーヤー操作専用ボタンになります。具体的には：

- Play / Pausa (再生 / 一時停止)：ENTER ボタンを 2 秒間押し続けます。
- 次の曲に “SKIP” (スキップ)：ENTER ボタンを押します。
- 音量を上げる “+”：UP ボタンを押します。
- 音量を下げる “-”：DOWN ボタンを押します。
- 音楽プレーヤー操作から出る：DOWN ボタンを 2 秒間押します。

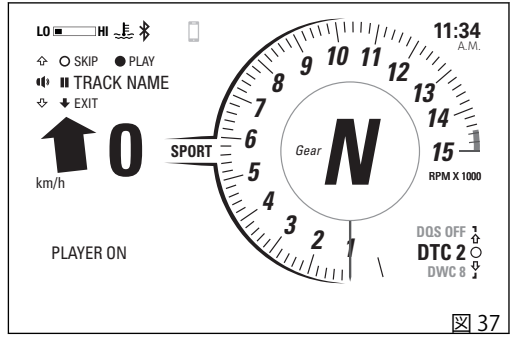


図 37

起動中の音楽プレーヤー操作から出る (ON)

曲の再生中など音楽プレーヤーを起動したままプレーヤー操作から出るには (図 37)、DOWN ボタンを 2 秒間押します。

これにより、UP ボタン、DOWN ボタン、ENTER ボタンの機能が音楽プレーヤー操作ではなく、通常のインストルメントパネル操作に戻ります。
機能を起動すると、メニュー内に “PLAYER ON” の表示が現れます。再生中の曲名の下には、黒色の上向き矢印と “PLAYER CONTROL” の文字が表示されます。

参考

プレーヤーの起動中であれば、機能を変更しても (例：TRIP 1)、再生中の曲名はディスプレイに表示され続けます。

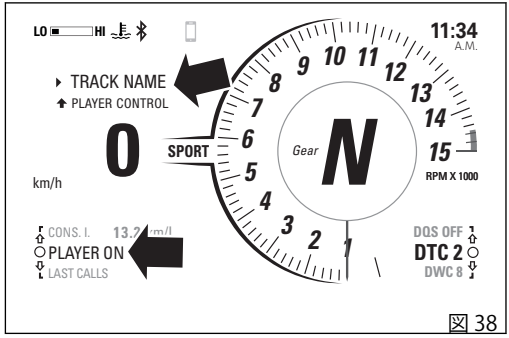


図 38

音楽プレーヤー操作に戻る (ON)

音楽プレーヤー操作に戻るには、PLAYER ON 機能を表示し、UP ボタンを 2 秒間押してください。

UP、DOWN、ENTER ボタンの機能が、音楽プレーヤー操作に戻ります (図 37)。

音楽プレーヤー操作の停止

曲の再生を中止して音楽プレーヤーを停止するには、PLAYER ON 機能を選択し (図 38)、ENTER ボタンを押します。
機能は “PLAYER OFF” 表示になります (図 35)。

LAST CALLS

この機能は不在着信、発信、着信の履歴を表示します。Bluetooth コントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。

ENTER ボタンを押して履歴一覧を表示します。
この機能に入ると、ディスプレイに “WAIT..” の文字が数秒間表示され、続いて最後の通話相手の名前と番号が表示されます。
発信、受信、不在着信の履歴は最大 7 件まで表示されます。
ブラウズボタンを使用して、履歴一覧をスクロールすることができます。一覧から選択した電話番号 / 名前に発信するには、ENTER ボタンを押します。詳しくは “インフォテインメント” の章を参照してください。
通話履歴が何もない場合は、ディスプレイに "EMPTY" の文字が表示されます。この場合には機能の終了だけが可能です。
機能を終了して前の画面に戻るには、DOWN ボタンを 2 秒間押します。

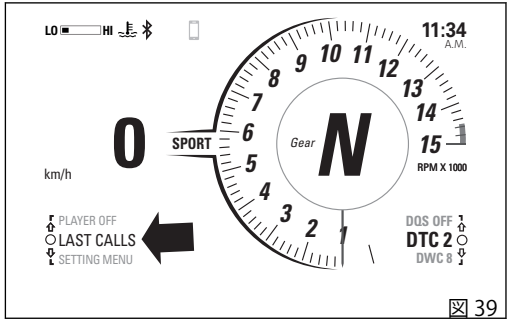


図 39

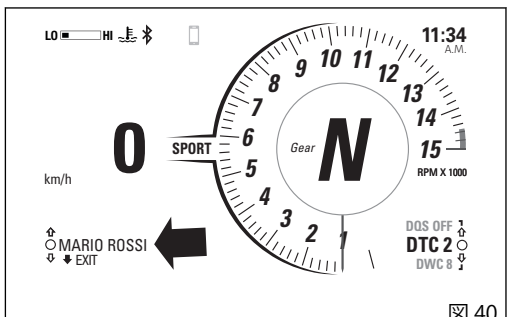


図 40

SETTING MENU

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFFおよび設定を行います。

安全上の理由により、車両の実速度が5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。
SETTING MENUが表示されている時に車両速度が5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的にメイン画面表示に戻ります。

メニューに入るには、ブラウズボタンで "SETTING MENU" を選択し、ENTERボタンを押します。

重要
安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

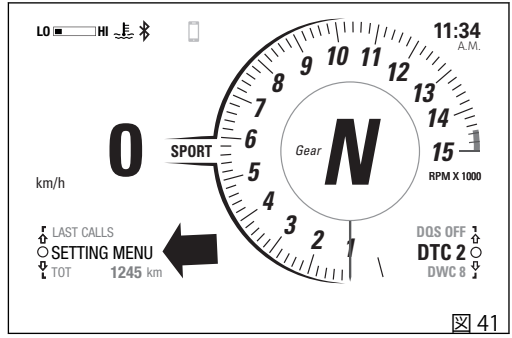


図 41

SETTING MENU に入ると、ディスプレイの表示モードが変わります。

メニューには以下の機能が表示されます。
- Riding Mode
- Pin Code
- Lap
- Backlight
- Date and Clock
- Units
- Service
- Tire Calibration
- DRL – DRL を搭載している場合のみ
- Bluetooth – Bluetooth モジュールを搭載している場合のみ
- DDA – DDA が接続されている場合のみ
- Turn indicators
- Info

ブラウズボタンを使用して、これらの機能をスクロールすることができます。
目的の機能を表示してから、ENTER ボタンを押してサブメニューを表示します。
サブメニューを終了するには、"Back" を選択して ENTER ボタンを押します。

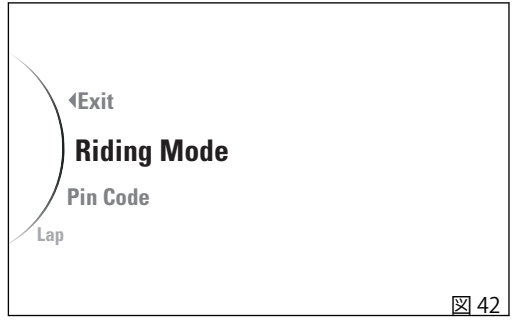


図 42

SETTING MENU を終了するには、"EXIT" を選択して ENTER ボタンを押してください。

SETTING MENU - Riding Mode

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- メニュー内には次の項目が表示されます。“Race”、“Sport”、“Street”、“All Default” (いずれかのライディングモードのひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- 目的の項目を選択し、ENTER ボタンを押します。

各ライディングモードで以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。Engine、DTC、ABS、DWC、EBC、DQS。
設定値は、車両をオフにした後も保持されます。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、"Default" 機能を使用してパラメーターを修復してください。

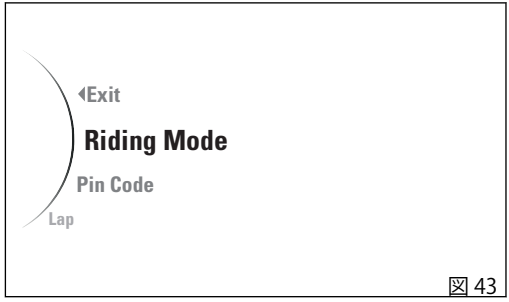


図 43

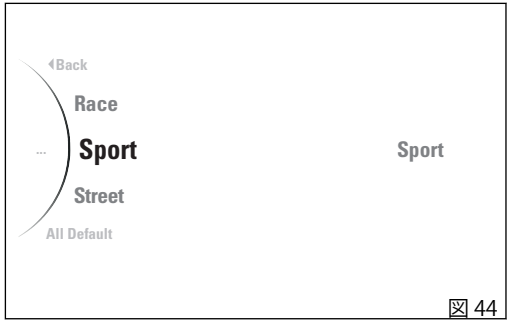


図 44

SETTING MENU - Riding Mode - DAVC

この機能は、各ライディングモードに連動するDAVCパッケージのDTC、DWC、DSC機能のレベルを設定します。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DAVC” を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “DTC”、“DWC”、“DSC”、“Default” (いずれかのパラメーターが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。
目的の項目を選択し、ENTER ボタンを押します。

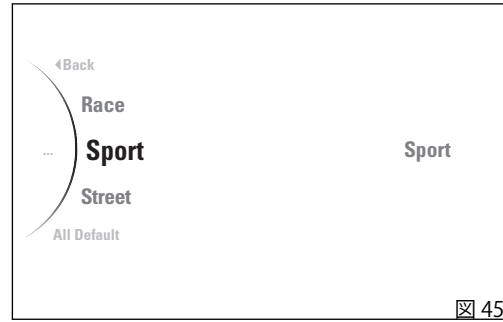


図 45

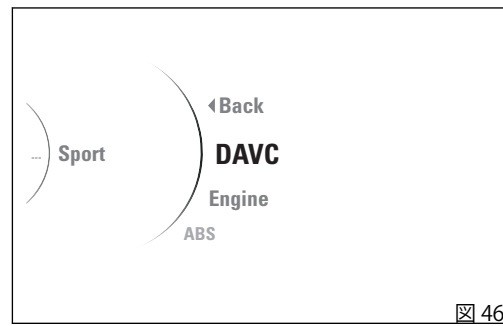


図 46

SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - DTC

この機能では一つのライディングモードのDTCシステム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DAVC” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DTC” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (レベル “1”～“8”、“Off”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

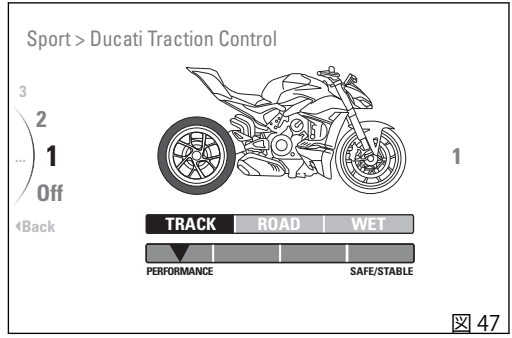


図 47

参考
DTC を “Off” に設定すると、DWC も自動的に “Off” に設定されます。

SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - DWC

この機能では一つのライディングモードの DWC システム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DAVC” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DWC” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (レベル “1”～“8”、“Off”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

警告
DTC を “Off” に設定すると、DWC も強制的に “Off” に設定されます。この場合、DWC の設定は利用できません。

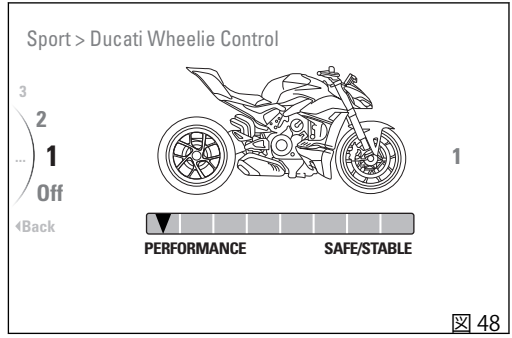


図 48

SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - DSC

この機能では一つのライディングモードのDSCシステム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DAVC” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DSC” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (レベル “1”、“2”、“Off”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

参考

DTC を “Off” に設定すると、DSC も強制的に “Off” に設定されます。この場合、DSC の設定は利用できません。

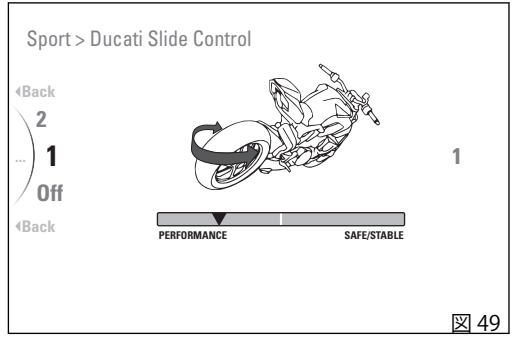


図 49

SETTING MENU - Riding Mode - DAVC - Default

ここでは個別のライディングモードに連動するDAVC機能にグループ化されているDTC、DWC、DSC機能のレベルを、ドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTERボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTERボタンを押します。
- “DAVC” を選択し、ENTERボタンを押します。

次に “Default” を選択し、ENTERボタンを押します。これで、選択したライディングモードに関連するDTC、DWC、DSC機能が初期設定値に回復されます。既定パラメーターに回復した後も “Default” の表示は残ります。

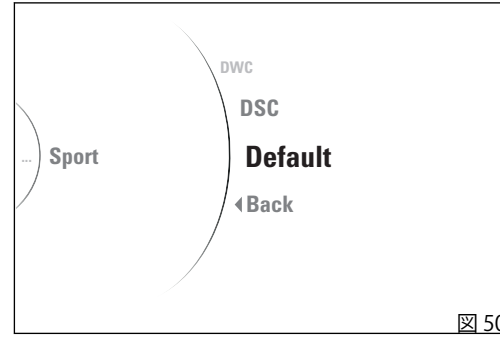


図 50

SETTING MENU - Riding Mode - Engine

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Engine” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な項目 “High”、“Medium”、“Low” が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

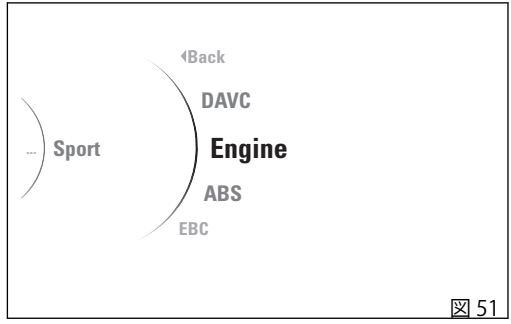


図 51

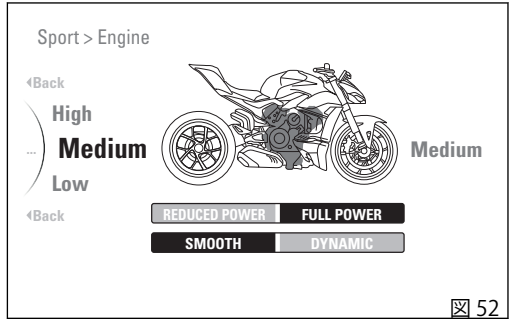


図 52

SETTING MENU - Riding Mode - ABS

この機能では一つのライディングモードのABSシステム介入レベルの設定を行うことができます。

- 「SETTING MENU」（設定メニュー）に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “ABS” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (レベル “1”～“3”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

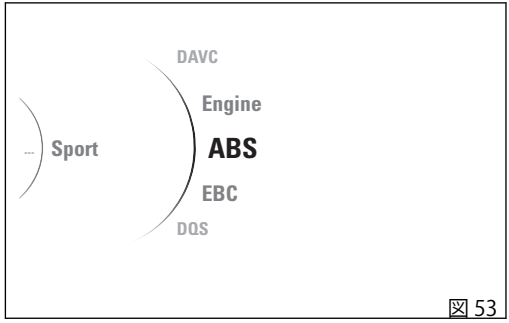


図 53

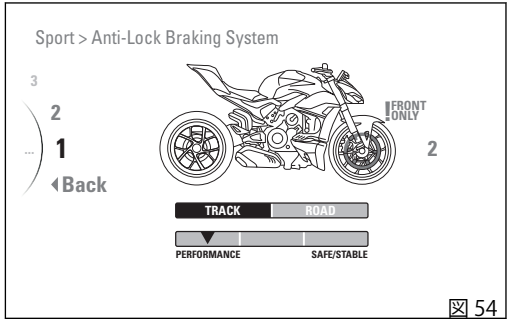


図 54

SETTING MENU - Riding Mode - EBC

この機能では一つのライディングモードのEBCシステム介入レベルの設定を行うことができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “EBC” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (レベル “1”～“3”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭と、参照表が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

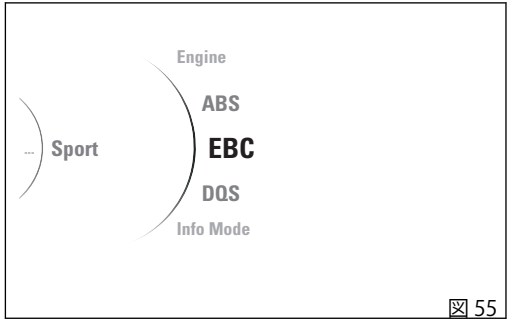


図 55

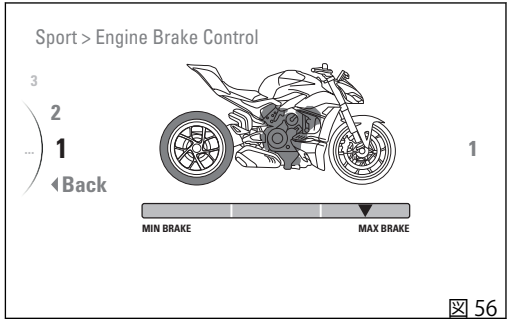


図 56

SETTING MENU - Riding Mode - DQS

この機能では一つのライディングモードの DQS システム介入レベルの設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DQS” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (“Up/Down”、“Off”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
さらに、介入しているエリアが強調表示されたバイクの輪郭が表示されます。
ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

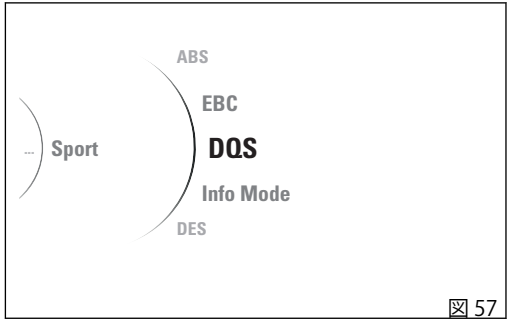


図 57

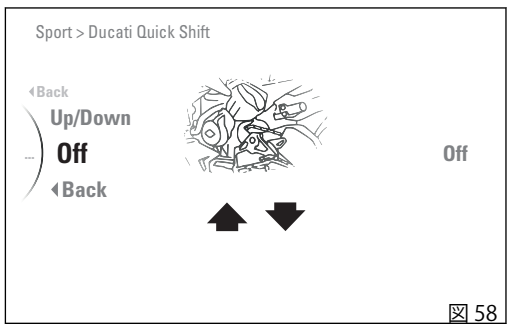


図 58

SETTING MENU - Riding Mode - Info Mode

この機能では各ライディングモードと連動するメインスクリーンの表示モードを選択することができます。

- 「SETTING MENU」（設定メニュー）に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Info Mode” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイにパーソナライズ可能な設定（“Track”、“Road”）が表示され、右側に現在設定されているモードが表示されます 。
設定されているモードがデフォルトモードと異なる場合は、選択可能な項目の中に “Default” が表示されます。この項目を選択すると、選択しているライディングモードに Ducati 初期設定モードが設定されます。
ブラウズボタンで希望の項目を選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

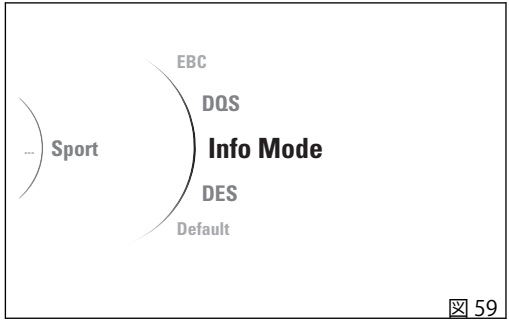


図 59

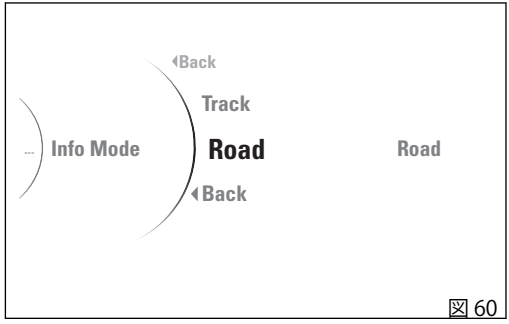


図 60

SETTING MENU - Riding Mode - DES

この機能は、各ライディングモードに連動したエレクトロニックサスペンションの管理タイプを設定します。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “DES” を選択し、ENTER ボタンを押します。

機能に入ると、ディスプレイ左側にパーソナライズ可能な設定 (“Fixed Suspension”、“Dynamic Suspension”) が表示され、右側に現在設定されている値が表示されます 。
ブラウズボタンで希望の項目を選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

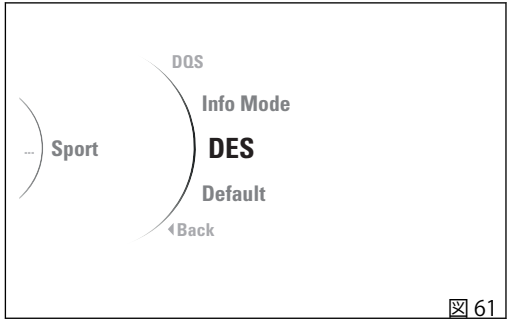


図 61

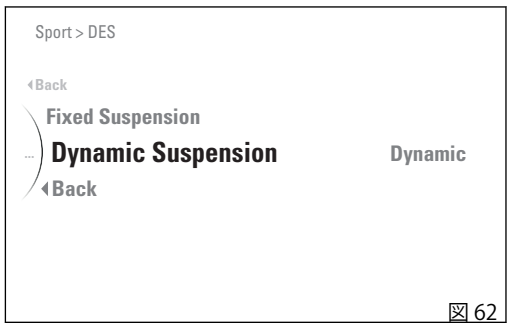


図 62

Fixed Suspension

Fixed Suspension モードでは、クリック固定エレクトロニックサスペンションのコンプレッションダンピングとリバウンドダンピングのレベルを設定することができます。
前のメニューから “Fixed Suspension” を選択し、ENTER ボタンを押します。
“Activate fixed Suspension” (Fixed Suspension を起動する) と “Custom Fixed Suspension” (カスタム Fixed Suspension) が表示されます。
ブラウズボタンで希望の項目を選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

図 63

Fixed Suspension – Activate fixed Suspension

この機能を選択して ENTER ボタンを押すと、Fixed Suspension に関連する全パラメーターが Ducati 初期設定に戻ります。

Fixed Suspension – Custom fixed Suspension

この機能に入ると、以下の項目が表示されます。

- “Front Compression”
- “Front Rebound”
- “Rear Compression”
- “Rear Rebound”
- “Steering Damper”

ブラウズボタンで希望の項目を選択し、ENTER ボタンを押して該当するメニューに入ります。
各メニュー内には次の項目が表示されます (図 65)。

- 左側にはパーソナライズ可能な全レベル
- 中央には、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図と参照インジケーター
- 右側には現在の設定レベル。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンで決定します。

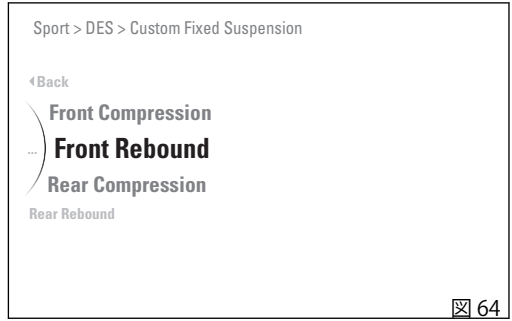


図 64

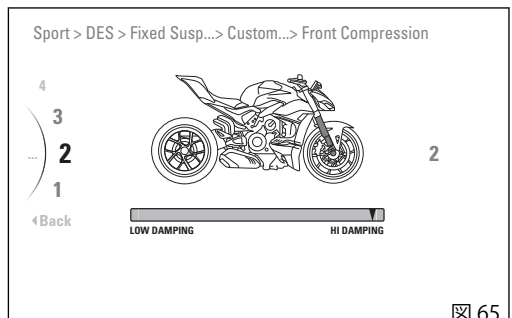


図 65

重要

Steering Damper のデフォルト設定は、選択したライディングモードに最適な車両の挙動を確保できるように最適化されています。
Steering Damperのダンピングを上げすぎると、車両のダイナミック挙動に影響を与える可能性があります。
特に、レベル 8 以下のレベルの使用は、熟練ユーザーがサーキット走行で使用する場合にのみ推奨されます。この場合は、レベルを順番に選択し (レベル 8 からスタート)、一つずつレベルを試してください。

各ライディングモードのデフォルト値を下表に示します。

Riding Mode	設定タイプ	標準設定		用途
RACE	TRACK	Front Compression	6	Diablo Rosso Corsa 2 タイヤを装着して、サーキットで最大のパフォーマンスを発揮
		Front Rebound	10	
		Rear Compression	6	
		Rear Rebound	10	
		Steering Damper	10	
SPORT	ROAD	Front Compression	12	Diablo Rosso Corsa 2 タイヤを装着して、一般道でのスポーツ走行向け
		Front Rebound	18	
		Rear Compression	10	
		Rear Rebound	10	
		Steering Damper	12	
STREET	ROAD	Front Compression	30	Diablo Rosso Corsa 2 を装着して、一般道(荒れた路面も含め)で最大の快適性を確保
		Front Rebound	18	
		Rear Compression	30	
		Rear Rebound	18	
		Steering Damper	12	

Dynamic Suspension

Dynamic Suspension モードでは、様々な条件下においてコントロールユニットがエレクトロニックサスペンションに介入する頻度を設定することができます。
前のメニュー (図 62) から “Dynamic Suspension” を選択し、ENTER ボタンを押します。
“Activate Dynamic Suspension” (Dynamic Suspension を起動する) と “Custom Dynamic Suspension” (カスタム Dynamic Suspension) が表示されます。
ブラウズボタンで希望の項目を選択し、ENTER ボタンを押して決定します。

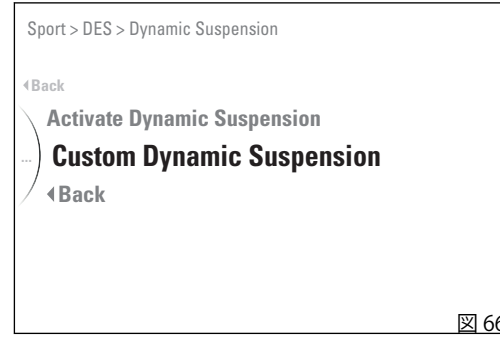


図 66

Dynamic Suspension – Activate Dynamic Suspension

この機能を選択して ENTER ボタンを押すと、Dynamic Suspension に関連する全パラメーターが Ducati 初期設定に戻ります。

Dynamic Suspension – Custom Dynamic Suspension

この機能に入ると、以下の項目が表示されます。

- Brake Support
- Front Fork
- Shock Absorber
- Steering Damping
- Acceleration (ライディングモード「RACE」のみ)
- Mid Corner (ライディングモード「RACE」のみ)

ブラウズボタンで希望の項目を選択し、ENTER ボタンを押して該当するメニューに入ります。
各メニュー内には次の項目が表示されます (図 68)。

- 左側にはパーソナライズ可能な全レベル
- 中央には、介入する部分を青色でハイライトしたバイクの図と参照インジケーター
- 右側には現在の設定レベル。

ブラウズボタンで希望のレベルを選択し、ENTER ボタンで決定します。

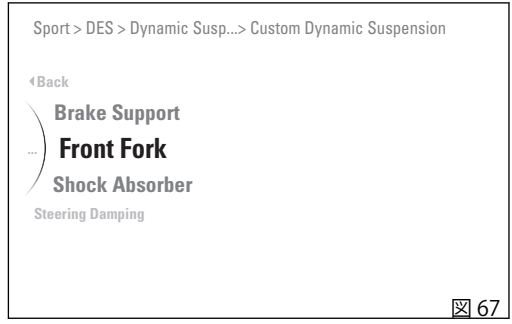


図 67

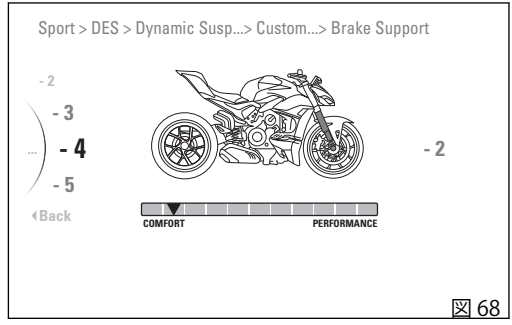


図 68

各ライディングモードのデフォルト値を下表に示します。

Riding Mode	設定タイプ	DES 標準設定		用途
RACE	TRACK	Brake Support	+2	Diablo Rosso Corsa 2 タイヤを装着して、サーキットで最大のパフォーマンスを発揮
		Front Fork	+2	
		Shock Absorber	+2	
		Steering Damping	+3	
		Acceleration	+2	
		Mid Corner	+2	
SPORT	ROAD	Brake Support	0	Diablo Rosso Corsa 2 タイヤを装着して、一般道でのスポーツ走行向け
		Front Fork	0	
		Shock Absorber	0	
		Steering Damping	0	
STREET	ROAD	Brake Support	0	Diablo Rosso Corsa 2 を装着して、一般道(荒れた路面も含め)で最大の快適性を確保
		Front Fork	0	
		Shock Absorber	0	
		Steering Damping	0	

各パラメーターレベルを変更することで、車両の動的条件に応じて、システムによるサスペンションの動的な自動調整の効果を増減することができます。

Brake Support

ブレーキサポートパラメーターを調整することで、制動時のピッチング抵抗を増大 (PERFORMANCE) または軽減 (COMFORT) することができます。レベルを上げると、フォークがより制御された方法でゆっくりと沈みます。レベルを下げると、沈む速度が速くなります。

Front Fork (フロントフォーク) および Shock Absorber (ショックアブソーバー) パラメーター

フロントフォークとショックアブソーバーのパラメーターを調整することで、各コンポ―メント全体の減衰量を増加 (+) または減少 (-) することができます。

ライディングモード RACE では、両方のパラメーターを均等に調整することで、ライダーの好み、路面のグリップ力、サーキットの特性にあわせて減衰レベルを調整するのに役立ちます。パラメーターを個別に調整する方法は、フロントとリアのバランスを個別に変更する場合に使用できます。

ライディングモード SPORT および STREET では、両方のパラメーターを COMFORT 寄りに設定することで、路面の凸凹や衝撃の吸収が高まります。両方のパラメーターを STABILITY 寄りに設定すると、フレーム振動のダンピングが大きくなります。フロントフォークとリアショックアブソーバーを個別に調整し、フロントとリア間のバランスを変更するには、フロントとリアのパラメーターを個別に設定します。

Steering Damping (ステアリングダンピング) パラメーター

このパラメーターを調整すると、ステアリング全体の減衰量を増減することができます。パラメーターを HANDLING に近づけると、ステアリングダンピングが小さくなり、より軽いライディングが可能になります。パラメーターを STABILITY に近づけると、振動に対する抵抗が大きくなります。

Acceleration (加速) パラメーター (ライディングモード「RACE」のみ)

加速パラメーターを調整することで、急な加速時のグリップと安定性をライダーの好みで設定することができます。パラメーターを GRIP 寄りに設定すると、後輪のトラクションを高めて最大の接地面を確保するようにシステムが最適化されます。パラメーターを STABILITY 寄りに設定すると、フレームの振動を和らげます。

Mid Corner (ミッドコーナー) パラメーター (ライディングモード「RACE」のみ)

ミッドコーナーパラメーターを調整することで、コーナー途中のグリップと安定性をライダーの好みに設定することができます。パラメーターを GRIP 寄りに設定すると、最大の接地面を確保するようにシステムが最適化されます。パラメーターを STABILITY 寄りに設定すると、フレームの振動を和らげます。

SETTING MENU - Riding Mode - Default

この機能では、ひとつのライディングモードの全パラメーターを初期設定値に回復することができます。工場出荷時の初期設定値から、ひとつ以上のパラメーター値が変更されている場合にのみ表示されます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 目的のライディングモードを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Default” を選択し、ENTER ボタンを押して、すべてのパラメーターを初期設定値に戻します。

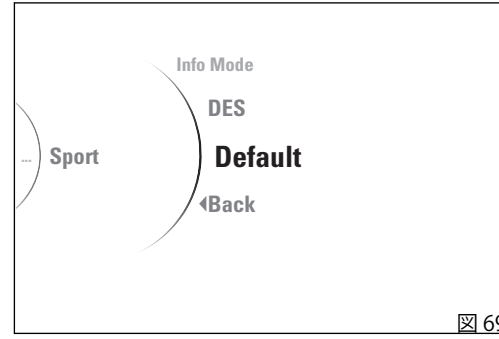


図 69

SETTING MENU - Riding Mode - All Default

この機能では、すべてのライディングモードの全パラメーターを初期設定値に回復することができます。工場出荷時の初期設定値から、ひとつ以上のライディングモードでパラメーター値が変更されている場合にのみ表示されます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Riding Mode" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “All Default” を選択し、ENTER ボタンを押して、すべてのパラメーターを初期設定値に戻します。

図 70

SETTING MENU - Pin Code

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に車両を一時起動することができません。
不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" の手順に従います。

警告

PIN CODE の登録および保存は、車両の所有者が行います。PIN CODE がすでに登録されている場合は、Ducati 正規ディーラーに PIN CODE のリセットをご依頼ください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Pin Code" を選択し、ENTER ボタンを押します。

これまでに PIN CODE が登録されたことがない場合は、メニュー内に “New Pin” と表示され、PIN CODE の登録を行えます。PIN CODE がすでに登録されている場合は、メニュー内に “Modify Pin” と表示され、保存されている PIN CODE を変更することができます。

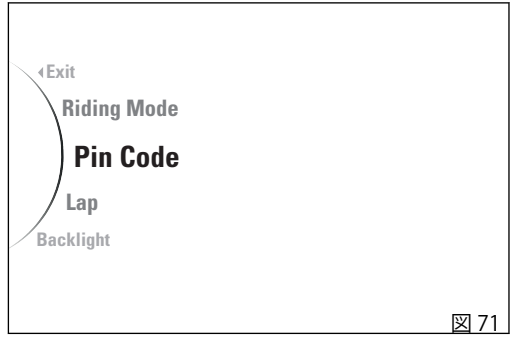


図 71

New Pin

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- “Pin Code” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “New Pin” を選択し、ENTER ボタンを押します。

画面に “New Pin” の表示と、新規 PIN CODE を入力する 4 桁のスペースが表示されます (図 73)。1 桁目の数値の上下に 2 つの矢印が表示され、設定が可能であることを示します。コードの入力：

- UP ボタン、DOWN ボタンを押すと、数字が “0”～“9” の間で 1 ずつ増減します。
- ENTER ボタンを押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 桁すべてを入力します。

図 72

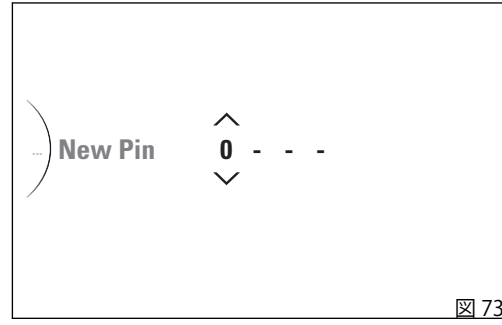


図 73

4 桁目を入力してから ENTER ボタンを押すと、“Memory” の文字がオレンジ色で表示されます。もう一度 ENTER ボタンを押して、入力したコードを保存します。"Memorized" の表示が緑色で 2 秒間表示されます。
画面は PIN CODE 機能の最初のメニューに戻り、“New Pin” の代わりに “Modify Pin” が表示されます。

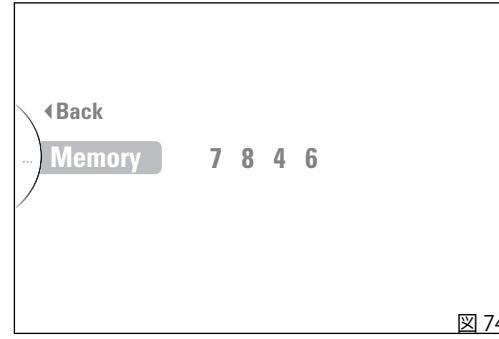


図 74

Modify Pin

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- “Pin Code” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Modify Pin” を選択し、ENTER ボタンを押します。

画面に “Old Pin” の表示と、旧 PIN CODE を入力する 4 桁のスペースが表示されます (図 73)。1 桁目の数値の上下に 2 つの矢印が表示され、設定が可能であることを示します。コードの入力：

- UP ボタン、DOWN ボタンを押すと、数字が “0”～“9” の間で 1 ずつ増減します。
- ENTER ボタンを押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 桁すべてを入力します。

4 桁目を入力してから ENTER ボタンを押すと、以下のようになります。

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を赤色で 2 秒間強調表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "Correct" を 2 秒間表示し、その後新しい PIN CODE の入力画面に進みます。この場合は、

図 75

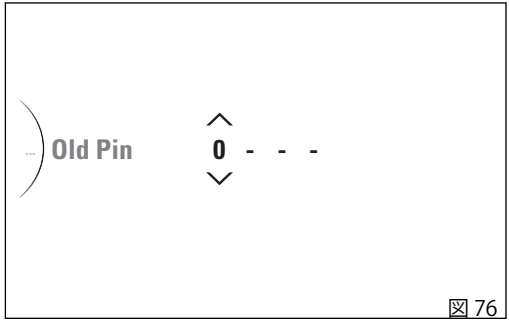


図 76

“New Pin” の項を参照して新規コードを入力してください。

SETTING MENU - Lap

この機能で LAP (ラップタイム) の起動/解除、記録されているラップタイムの閲覧と消去が可能です。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。

このメニューに入ると、画面右側に機能の現在の状態が表示され、左側に次の項目が表示されます。

- “Off”：LAP 機能を解除します。
- “On”：LAP 機能を起動します。
- “Lap Data”：記録されているラップを表示します。
- “Erase All”：全ラップ記録を消去します (ラップ記録が存在する場合にのみ表示)。

ブラウズボタンを使用して希望する表示を選択し、ENTER ボタンを押して機能を有効にします。
車両に GPS EVO が搭載されているかどうかで、“Lap Data” 機能の記録ラップの表示が LAP BASIC モードか LAP EVO モードのいずれかで表示されます。
車両の起動時、Lap 機能は常に “Off” に設定されます。

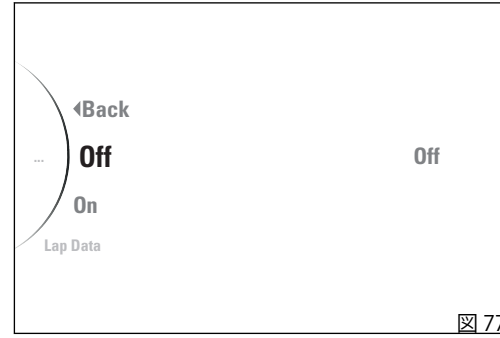


図 77

Lap Data (LAP BASIC モード)

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Lap Data” を選択し、ENTER ボタンを押します。

この機能に入ると、“Best Laps” と 1〜30 までの利用可能なラップが表示されます。
ブラウズボタンを使用して、記録ラップをスクロールすることができます。
各記録ラップごとに表示されるデータ：

- “Time” - ラップタイム (最大タイム 8’59”00)
- “Real Speed (max)” - ラップ中に到達した最高実スピードと設定単位
- “RPM (max)” - ラップ中に到達した最高エンジン回転数

“Best Laps” を選択すると、記録ラップ中のベストラップのデータが表示されます。

参考
最大 30 ラップまで記録することができます。

ラップ記録が存在しない場合は、メニューに入ると “No Lap” と表示されます。
ラップを記録するには、“ラップタイム (Lap)” の章を参照してください。

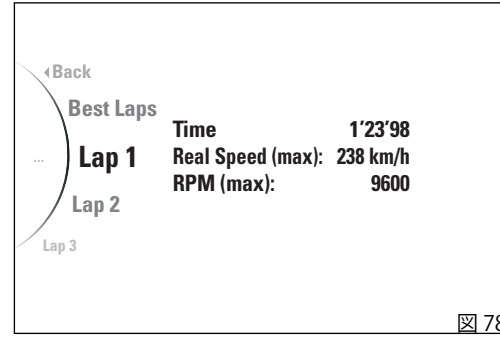


図 78

Lap Data (LAP EVO モード)

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Lap Data” を選択し、ENTER ボタンを押します。

この機能に入ると、“Best Laps” と記録されているセッション (最大 4) が表示されます。
セッション内の記録ラップを表示するには、表示したいセッションを選択し、ENTER ボタンを押します。
選択したセッション内に記録されている全ラップが表示されます (図 80)。
ブラウズボタンを使用して、記録ラップをスクロールすることができます。
各記録ラップごとに表示されるデータ：

- “Time” - ラップタイム (最大タイム 8’59”00)
- “Intertime 1” - 第 1 中間点が設定されている場合 (最大タイム 8’59”00)
- “Intertime 2” - 第 2 中間点が設定されている場合 (最大タイム 8’59”00)
- “Real Speed (max)” - 最高実スピードと設定単位 (GPS EVO が検出したスピード)
- “RPM (max)” - 最高エンジン回転数
- “Lean angle (max)” - 最大リーン角
- “YAW angle (max)” - 最大ヨー角

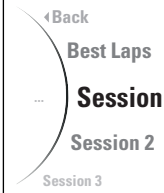


図 79

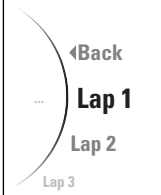


図 80

“Best Laps” を選択すると (図 79)、各セッション内に記録されたベストラップのデータが表示されます。

参考

4 セッションあわせて最大 30 ラップまで記録することができます。

ラップ記録が存在しない場合は、メニューに入ると “No Lap” と表示されます。
中間タイムとラップ/セッション記録を設定するには、“ラップタイム (Lap)” の章を参照してください。

Erase All

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Lap" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Erase All” を選択し、ENTER ボタンを押します。

この機能に入ると、“Erase All” が表示されます。全ラップ記録を消去するには、この項目を選択し、ENTER ボタンを 2 秒間長押しします。次に、右側に “Wait...” の文字が 3 秒間表示され、その後前のメニュー画面に戻ります。

図 81

SETTING MENU - Backlight

この機能からディスプレイを Day モードまたは Night モードに設定できます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Backlight" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “Auto”、“Day”、“Night” の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

- “Auto” (デフォルト設定) モードは、周囲の明るさに応じて自動で背景色を設定します。
- 背景をホワイトに設定する “Day” モードは、周囲が十分に明るい場合に推奨されます。
- 背景をブラックに設定する “Night” モードは、周囲が暗い場合に推奨されます。

参考

バッテリーの接続を切り離した場合には、バックライトは “Auto” モードに設定されます。

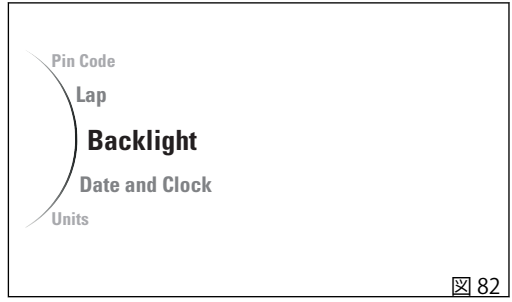


図 82

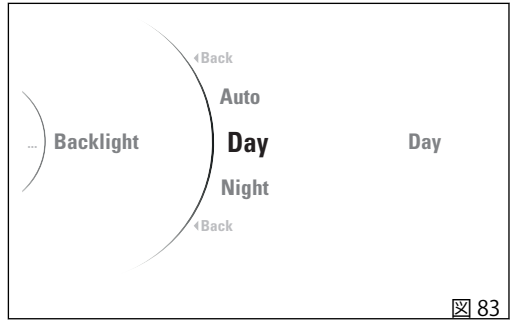


図 83

SETTING MENU - Date and Clock

この機能で日時を設定します。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Date and Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “Date”、“Clock” の項目が表示され、中央に現在設定されている日時が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

参考

日時が一度も設定されたことがない場合は、数値の代わりに点線 “-” が表示されます。
バッテリーの接続を切り離した場合は、新たに日時を設定する必要があります。

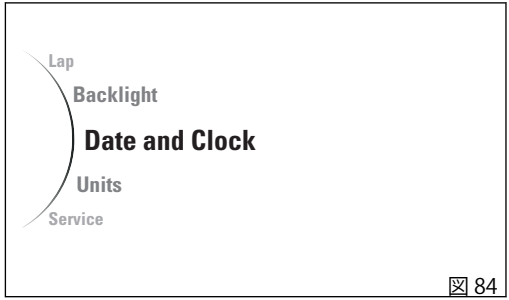


図 84

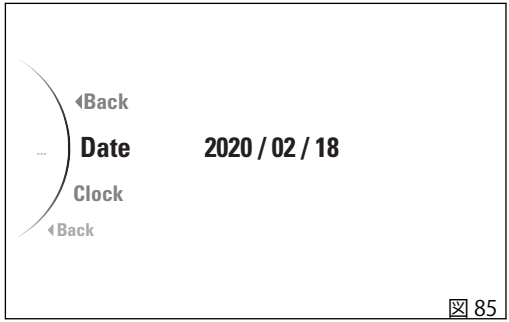


図 85

Date (日付の設定)

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Date and Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Date” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 右側に “Set...” の文字が表示され、中央の「年」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「年」を設定します。
- ENTER ボタンを押して「年」を決定します。
- 「月」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「月」を設定します。
- ENTER ボタンを押して「月」を決定します。
- 「日」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「日」を設定します。
- ENTER ボタンを押して、設定した日付を保存します。
  日付が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を 3 秒間表示した後、「年」の入力に戻ります。もう一度日付を設定してください。

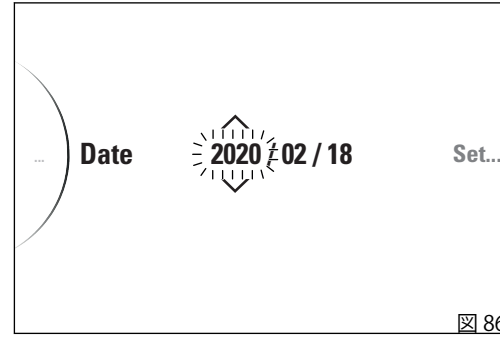


図 86

Clock (時刻の設定)

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Date and Clock" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Clock” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- 右側に “Set...” の文字が表示され、中央の “AM” または “PM” が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用してパラメーターを設定します。
- ENTER ボタンを押して決定します。
- 「時」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「時」を設定します。
- ENTER ボタンを押して決定します。
- 「分」が点滅します。UP ボタンまたは DOWN ボタンを使用して「分」を設定します。
- ENTER ボタンを押して、設定した時刻を保存します。

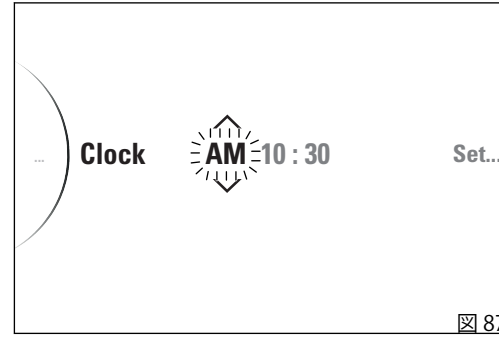


図 87

SETTING MENU - Units

この機能はインストルメントパネルの表示単位を設定します。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Units" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- メニュー内には次の項目が表示されます。
  “Speed”、“Temperature”、“Consumption”、“All Default” (ひとつ以上のパラメーターが初期設定値と異なる場合のみ表示されます)
- 目的の項目を選択し、ENTER ボタンを押します。

参考

温度以外の単位を変更すると、TRIP 1、TRIP 2、CONS. AVG 1、SPEED AVG 1、TRIP TIME 1 の各機能が自動的にリセットされます。

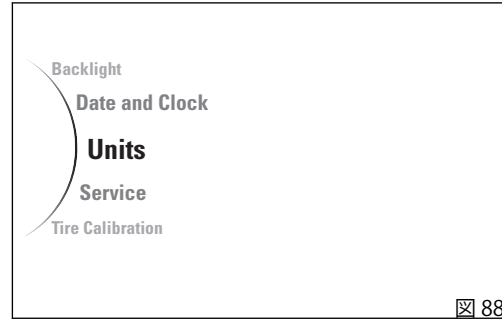


図 88

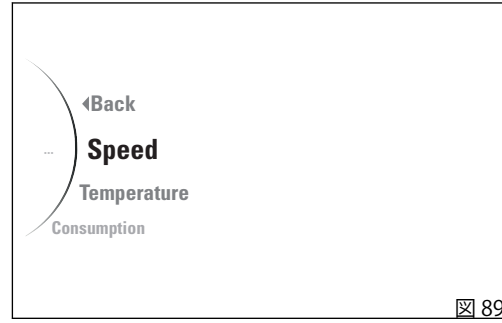


図 89

Speed

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Units" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Speed” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “km/h”、“mph”、“Default” (現在設定されている単位が初期設定単位と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” を選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

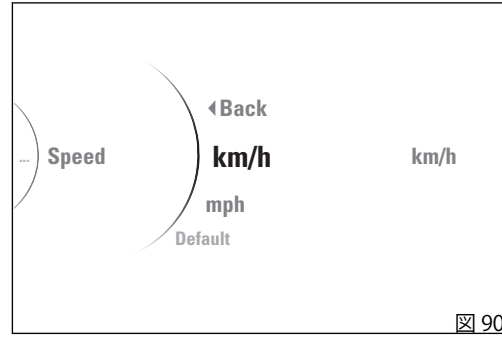


図 90

Temperature

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Units" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Temperature” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “°C”、“°F”、“Default” (現在設定されている単位が初期設定単位と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” を選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

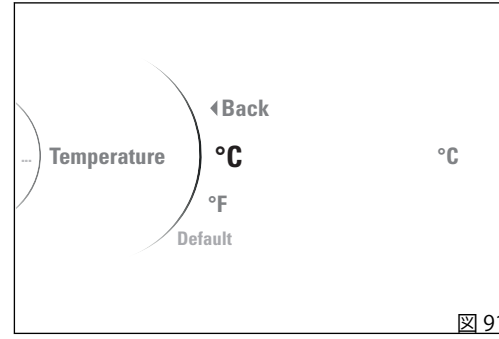


図 91

Consumption

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Consumption" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Temperature” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “l/100”、“km/l”、“mpg UK”、“mpg US”、“Default” (現在設定されている単位が初期設定単位と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。
- ブラウズボタンを使用して、変更したい単位を選択するか、初期設定の単位に戻す “Default” を選択します。
- ENTER ボタンを押して決定します。

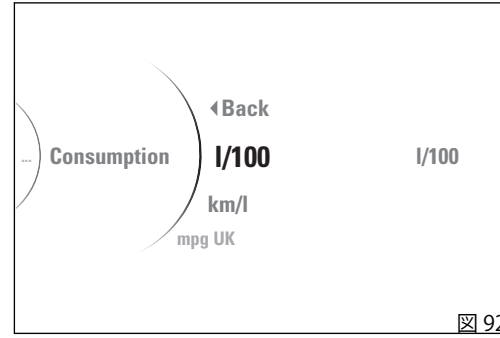


図 92

SETTING MENU - Service

この機能で今後のサービス情報を表示します。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Service" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- ディスプレイには、以下のサービスに関する情報が表示されます。
  - Oil Service (残りの走行距離)
  - Desmo Service (残りの走行距離)
  - Annual Service (日付)

この機能については変更は一切できません。ENTER ボタンを押して終了します。

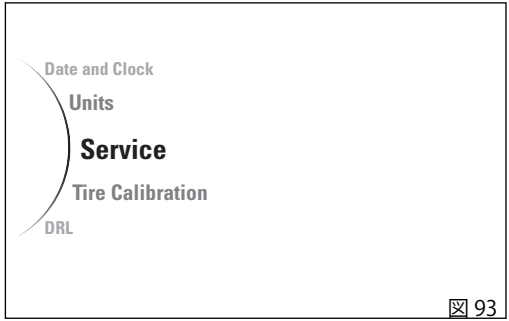


図 93

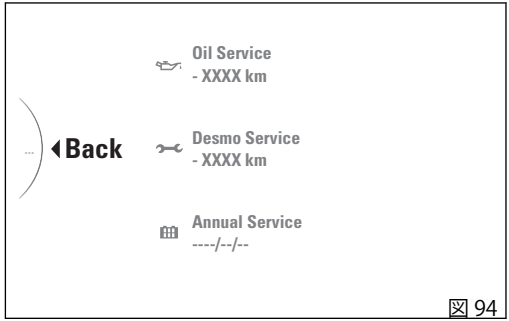


図 94

SETTING MENU - Tire Calibration

この機能でタイヤの円周長と最終減速比のキャリブレーションおよび自己学習の手順を行います。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Tire Calibration" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “Start”、“Default” (キャリブレーションが初期設定値と異なる場合にのみ表示されます) が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

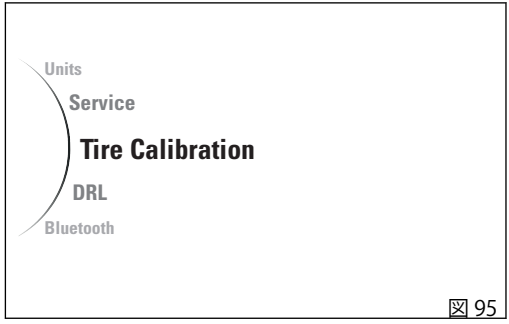


図 95

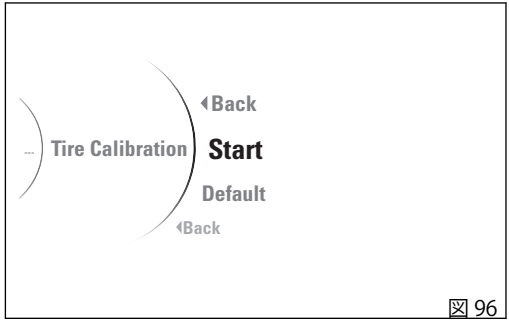


図 96

Start

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Tire Calibration" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Start” を選択し、ENTER ボタンを押します。

キャリブレーションプロセスを起動すると、インストルメントパネルには “Ready” の文字が点滅し、“Keep Speed” の文字が表示されます。加えて、自己学習を正常に完了するために維持するべき速度範囲とギアが表示されます。右側には参照しているライディングモード、実速度、ギアが表示されます。

重要

走行速度 49 Km/h (30 mph) ～ 51 Km/h (32 mph) を維持し、ギアを 2 速に入れた状態においてのみ自己学習プロセスを実施することができます。

速度とギアが指定の状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、“Ready“ の代わりに “In progress” が表示されます。
スピードとギアが指定のパラメーターに 5 秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。
キャリブレーション手順を中止するには、UP ボタンを 2 秒間長押しします。この場合は、インストルメントパネルに上記の全情報が表示され、“In progress” の文字が “Aborted” の文字に変わります。そして数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

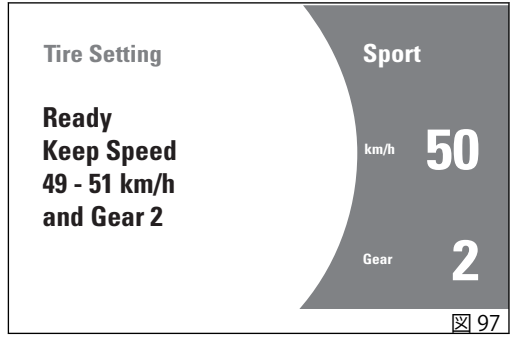


図 97

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに “Completed” の文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

ユーザーがキャリブレーションを中止した場合は、インストルメントパネルに “Aborted” の文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。
一方、キャリブレーションプロセスの途中でエラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに “Failed” の文字が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

参考
キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が 100 km/h (62 mph) を超えるか、もしくは車両をオフにすると、キャリブレーションは中断されます。

デフォルト

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Tire Calibration" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Default” を選択し、ENTER ボタンを押して初期設定値に戻します。
- “Default Please Wait...” の文字が表示されてから、“Default ok” の文字が 2 秒間表示され、前のメニュー画面に戻ります。

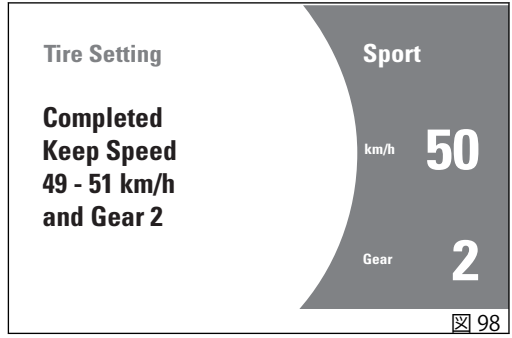


図 98

SETTING MENU - DRL

この機能では、DRL をオートモードかマニュアルモードに設定することができます。

- 「SETTING MENU」（設定メニュー）に入ります。
- ブラウズボタンで "DRL" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “Auto”、“Manual” の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

参考
バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に “Auto” モードに設定されます。

図 99

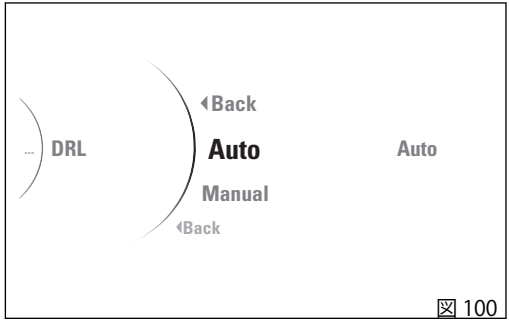


図 100

SETTING MENU - Bluetooth

この機能では、ペアリング済みのBluetooth デバイスの管理およびデバイスのペアリングが可能です。
Bluetooth モジュールが車両に搭載されている場合にのみ、この機能が表示されます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Bluetooth" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には、ペアリング済みデバイスの表示・削除を行う “Associated Devices” の項目と、新規にデバイスをペアリングする “Pairing” の項目が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

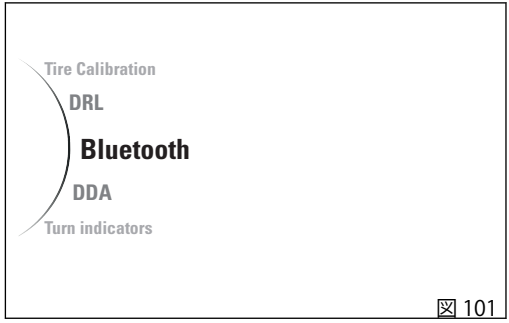


図 101

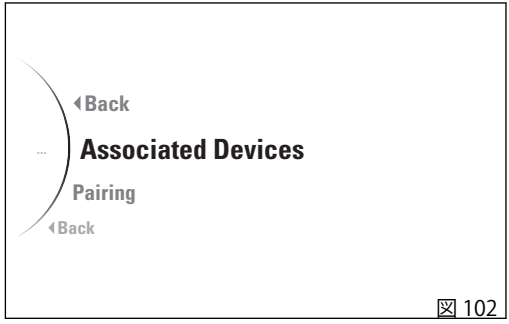


図 102

Associated Devices

ペアリング済みデバイスの表示と削除を行います。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Bluetooth" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Associated Devices” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- ペアリング済みデバイスのリストが表示されます。目的のデバイスを選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Delete” の文字が表示されます。これを選択して ENTER ボタンを押すと、選択したデバイスがリストから消去されます。
- 数秒間 “Wait...” の文字が表示され、その後前のメニュー画面に戻ります。

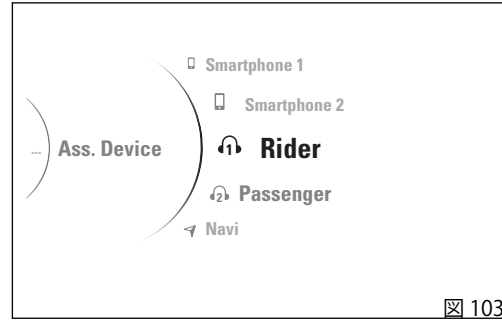


図 103

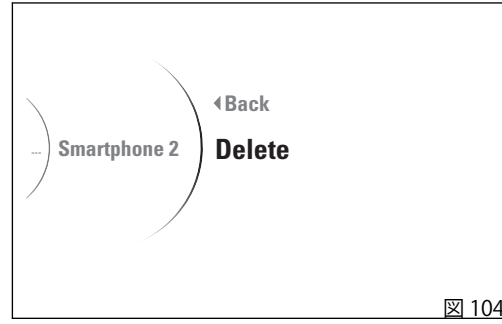


図 104

Pairing

新しい Bluetooth デバイスをペアリングします。インストルメントパネルは、4 種類の Bluetooth デバイスのペアリング/接続を最大 5 台まで管理します(スマートフォン 2 台、ライダーヘッドセット 1 台、パッセンジャーヘッドセット 1 台、ナビゲーター 1 台)。

参考

新規デバイスのペアリングを行う前に、デバイス側の Bluetooth が起動していること、また他の Bluetooth デバイスから検出可能になっていることを確認してください。デバイス本体の取扱説明書を必ずよくお読みください。

参考

ペアリング中に、デバイス (スマートフォンなど) 上で確認が求められる可能性があります。詳しくはデバイス本体の取扱説明書をご覧ください。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Bluetooth" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Pairing” を選択し、ENTER ボタンを押します。
- インストルメントパネルで管理される 4 種類のデバイスが表示されます。ペアリングするデバイスの種類を選択し、ENTER ボタンを押します。

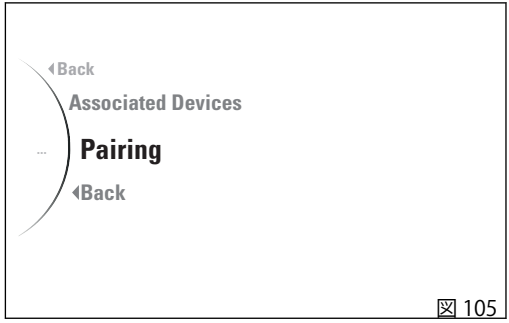


図 105

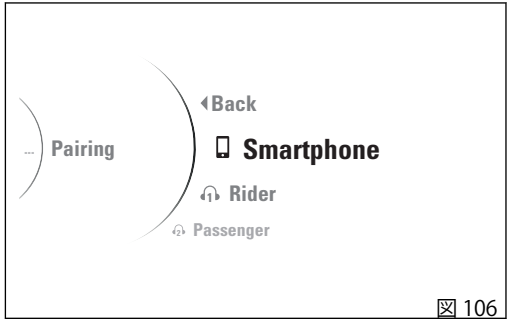


図 106

- インストルメントパネルが周囲の Bluetooth デバイス検索を開始します。“Wait...” の文字が表示され、検出されたデバイスが表示されます。
- 検索が終了すると、検出された全デバイスがリスト表示されます。ブラウズボタンで希望のデバイスを選択し、ENTER ボタンを押します。
- Bluetooth デバイス側の検証待ちの間、画面の右側に “Pairing…” の文字が表示されます。
  ペアリングが正常に完了すると、インストルメントパネルは前のメニュー画面に戻ります。
  “Pairing Error” の文字が表示された場合は、もう一度ペアリング手順を実行できます。

警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります (スマートフォン、ヘッドセット)。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット (音楽共有、マルチメディア再生など) の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン (Bluetooth 対応プロファイルによる) に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット (部品番号： 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン ("Ducati キット　部品番号： 981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット (部品番号：981029498) ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます (詳しくは Ducati キット (部品番号：981029498) に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。

参考

Ducati キット (部品番号： 981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

SETTING MENU - DDA

ここでは DDA 装置の起動および解除、メモリー占有率の表示、装置のメモリー削除を行うことができます。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "DDA" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “Off”、“On”、“Memory” の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

参考

Key-OFF する度に DDA システムはインストルメントパネルにより自動的に解除されます。

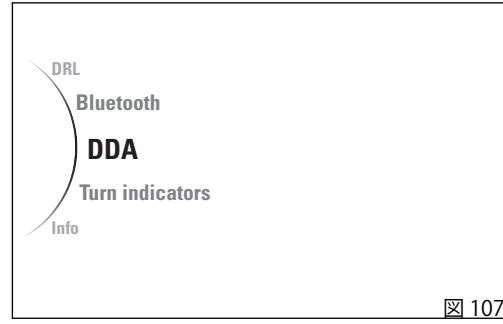


図 107

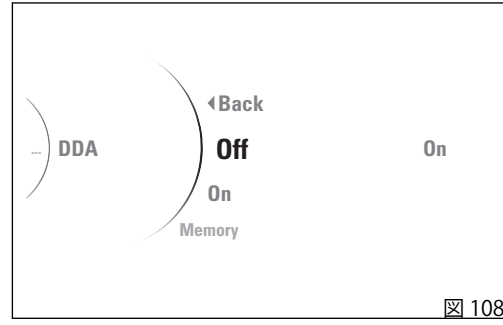


図 108

Memory

DDA が記録したデータの表示と削除を行います。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "DDA" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- “Memory” を選択し、ENTER ボタンを押します。

記録が存在しない場合、機能に入ると “Empty” の文字が表示されます。そうでない場合は、メモリの状態を表すパーセンテージとバー、“Erase” の項目が表示されます。メモリが一杯の場合は、“Full” の文字が表示されます。
すべての記録データを消去する場合は、"Erase" を選択し、ENTER ボタンを押します。

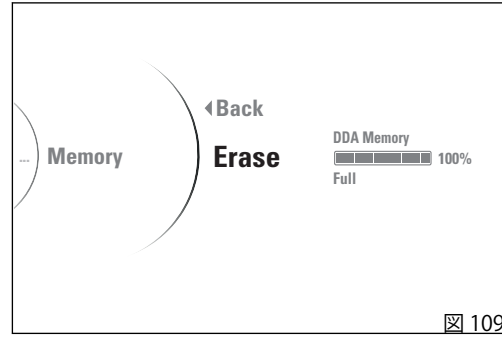


図 109

SETTING MENU - Turn indicators

この機能では、ターンインジケーター操作を自動モードまたは手動モードに設定することができます。
ターンインジケーター自動解除ストラテジーは、リーン角度、走行速度、走行距離から算出されたデータを基にしています。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Turn indicators" を選択し、ENTER ボタンを押します。

メニュー内には “Auto”、“Manual” の項目が表示され、右側に機能の現在の状態が表示されます。
目的の表示を選択し、ENTER ボタンを押します。

参考

バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に “Auto” モードに設定されます。

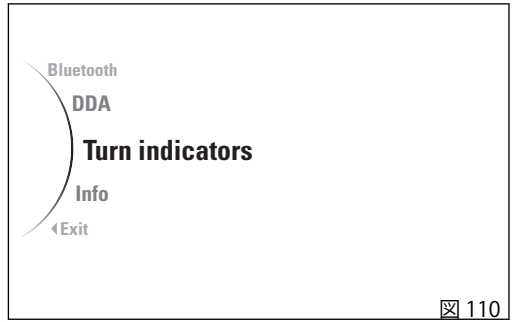


図 110

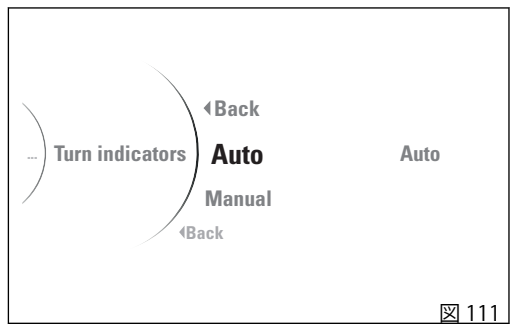


図 111

SETTING MENU - Info

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

- 「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
- ブラウズボタンで "Info" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- ディスプレイにバッテリーに関する情報とエンジン回転数がデジタル形式で表示されます。

この機能については変更は一切できません。ENTER ボタンを押して終了します。

図 112

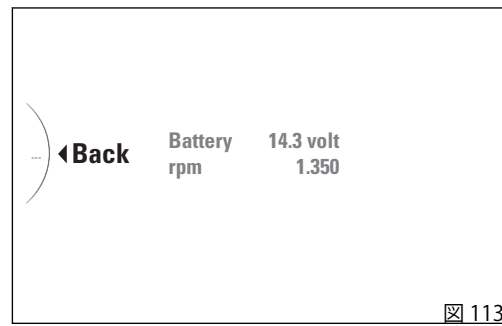


図 113

ラップタイム (LAP)

LAP 機能とラップタイム記録は、TRACK 表示モードでのみ表示されます。
GPS を搭載しているかどうかに応じて、車両には 2 通りの異なるラップが存在します。

- LAP BASIC、GPS が搭載されていないか、ベーシックバージョンの車両に搭載されている場合
- LAP EVO、車両に GPS EVO が搭載されている場合

どちらの LAP タイプでも、機能の起動時には以下のように表示されます。

- ストップウォッチの初期表示「0'00.00」
- LAP BASIC の場合、最初の表示 "Lap --/30" とラップ数
- LAP EVO の場合、最初の表示 "Session 1" と現在のセッション数、および最初の表示 "Lap --/30" とラップ数

GPS モジュールなしの LAP BASIC

車両に GPS モジュールを搭載していない場合は、LAP 機能を起動してから、FLASH ボタンを押してストップウォッチの作動と停止が可能です。

- FLASH ボタンを一回押すと、ストップウォッチとラップ数 (“Lap 01”) が 1 秒間点滅し、ストップウォッチが作動します。
- もう一度ボタンを押すと、直前に記録されたタイムとラップが 1 秒間点滅し、5 秒間表示されます。その後、進行中のタイム測定とラップカウントに戻ります。

それぞれの記録されたラップで以下の情報が記録されます。

- ラップタイム
- 最高スピード
- 最高エンジン回転数

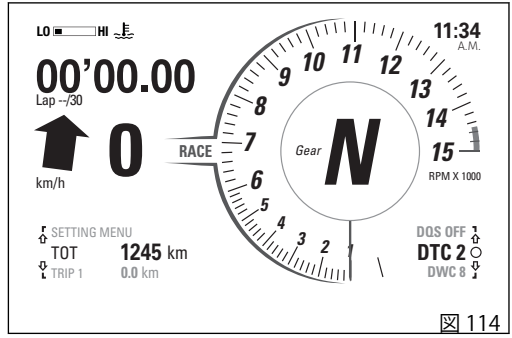


図 114

参考
最大 30 ラップまで記録することができます。

参考
新しいラップが記録されてから 5 秒以内に FLASH ボタンを押しても、何も起こりません。

GPS モジュール搭載 LAP BASIC

車両に GPS モジュールを搭載している場合は、LAP 機能を起動すると、ストップストップウォッチの作動と停止はインストルメントパネルによって自動管理されます。画面にはストップウォッチとラップカウントに加えて、GPS マーク (A) が現れます。

一周目のスタート時に FLASH ボタンを押すと、ストップウォッチがスタートします。ストップウォッチとラップ数 (“Lap 01”) が 1 秒間点滅します。同時に、GPS コントロールユニットを介してフィニッシュライン位置が保存され、マーク (B) が現れます。これ以降のすべてのラップはインストルメントパネルによって記録され、ストップウォッチ機能を Start / Stop するのに FLASH ボタンは必要ありません。
フィニッシュラインを通過するたびに、直前に記録されたタイムとラップが 1 秒間点滅し、5 秒間表示されます。その後、進行中のタイム測定とラップカウントに戻ります。

それぞれの記録されたラップで以下の情報が記録されます。
- ラップタイム
- 最高スピード
- 最高エンジン回転数

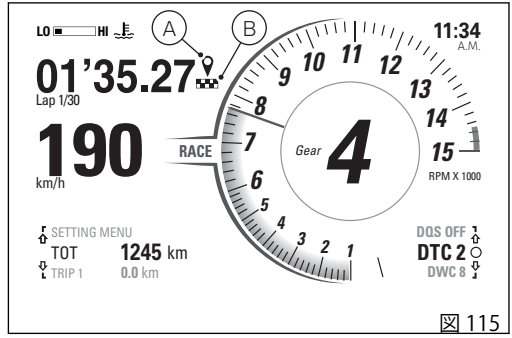


図 115

参考
最大 30 ラップまで記録することができます。

LAP EVO

車両に GPS EVO モジュールが搭載されている場合は、LAP EVO 機能が有効になります。画面にはストップウォッチとラップカウントに加えて、GPS マーク (A) が現れます。
LAP BASIC とは異なり、LAP EVO ではフィニッシュ地点と 2 つの中間地点を登録することができます。フィニッシュラインと中間タイム地点の座標を設定した後は、GPS がラップ管理を行います。
フィニッシュラインと中間タイム地点の座標設定は、次のように行います。

- 車両をフィニッシュライン地点に配置し、FLASH ボタンを押して座標を保存すると、マーク (B) が表示されます。
- 車両を第一中間タイム地点に配置し、FLASH ボタンを押して座標を保存すると、マーク (C) が表示されます。
- 車両を第二中間タイム地点に配置し、FLASH ボタンを押して座標を保存すると、マーク (D) が表示されます。

設定した座標は Key-OFF 後も保存されます。
いずれかの地点座標を変更するには、上記の記録手順をフィニッシュライン – 中間タイム 1 – 中間タイム 2 の順に繰り返す必要があります。

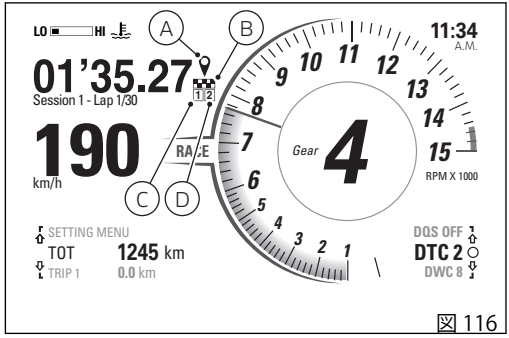


図 116

記録した座標から 15 km 以上遠ざかると、インストルメントパネルが自動的に座標を削除します。

LAP EVO では、4 セッションあわせて最大 30 ラップまで記録することができます
Key-ON のたびに、LAP 機能を起動すると、インストルメントパネルが新セッションを有効にします。
セッション 4 に達した後に Key-ON すると、インストルメントパネルはセッション 4 に続けてラップを記録します。
その後 30 ラップに達すると、“FULL” の文字が表示されます。

記録されたセッションとラップを消去するには、
“SETTING MENU - Lap” の章を参照してください。
LAP EVO 機能では、各ラップタイムごとに以下のパラメーターを保存できます。

- ラップタイム
- 中間タイム 1
- 中間タイム 2
- GPS EVO が検出した最高スピード
- 最高回転数
- 最大リーン角
- 最大ヨー角

以下の注記はいずれのタイプの LAP でも有効です。

参考
第 1 ラップ記録を開始してから 5 秒が経過しても車両速度がゼロである場合は、インストルメントパネルが記録を中止し、ストップウォッチがリセットされます。

参考
ラップタイム記録中に車両をオフにした場合、または車両速度が 5 km/h (3 mph) を下回った場合は、インストルメントパネルが記録を中止し、ストップウォッチが自動的にリセットされます。

参考
新しいラップタイムが記録されるたびに、保存されている以前のラップタイムを上回っている場合は、ストップウォッチが 6 秒間点滅します。それ以外の場合、ストップウォッチは 1 秒間高速で点滅します。ベストラップの算出は、2 ラップ以上記録されている場合に行われます。

参考
LAP 機能が起動している場合、インストルメントパネルはその状態を Key-OFF 時に保存します。ラップタイム記録中に Key-OFF が行われると、次回の Key-ON 時にインストルメントパネルはストップウォッチを停止してリセットします。

参考
ストップウォッチが作動し、タイムが 07’59.99 を超えると、ストップウォッチはリセットされて再び 00’00.00 からカウントを始めます。

ドゥカティパワーローンチ (DPL)

この機能は、ドゥカティパワーローンチ (DPL - Ducati Power Launch) 機能を起動します。

DPL ボタンを押して、ローンチコントロールメニューに入ります。この操作は走行速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合にのみ有効です。

ローンチコントロールメニュー内では、UP および DOWN ボタンを使用して好みの DPL レベル (1、2、3) を選択することができます。一方、ENTER ボタンを 2 秒間長押しすると、選択したレベルが設定されます。

参考
このメニュー内で 10 秒間変更が行われなければ、インストルメントパネルは DPL を OFF に設定し、前の画面に戻ります。

参考
DPL メニューに入った時にインストルメントパネルがコントロールユニットのエラーを検出した場合、その時点で起動している表示に関係なく "Launch Control Error" の文字が 3 秒間点滅し、その後メイン画面に戻ります。

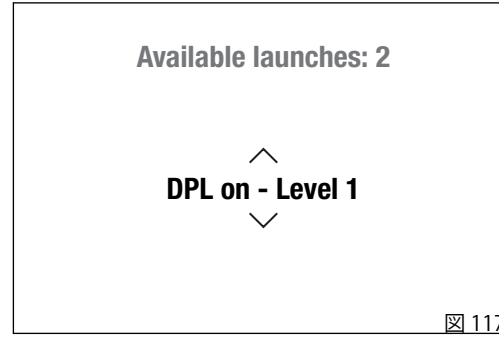


図 117

参考
利用可能なローンチがない場合、"No launches available" が画面に表示されます。

DPL レベルが設定されると、待機画面が 2 秒間表示されます (図 118)。待機画面の表示中に ENTER ボタンを押すと待機フェーズが中断され、インストルメントパネルはメイン画面に戻ります。この場合、DPL は OFF に設定されます。
続いて "ローンチコントロール" 画面が表示されます (図 119)。
ローンチコントロールが終了するとインストルメントパネルは DPL を OFF に設定し、“メインスクリーン” に戻ります。
ドゥカティ社の DPL 初期設定は OFF に設定されています。

DTC が “Off” に設定されている場合に DPL ボタンを押すと、インストルメントパネルには "DTC off DPL not available" が 5 秒間表示され、その後メイン画面に戻ります。

図 118

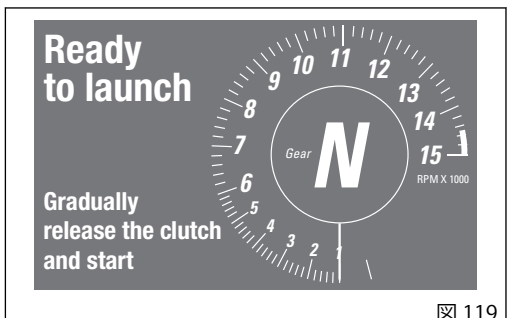


図 119

ドゥカティパワーローンチ (DPL) システムは、車両の出力を制御することを目的として、停止状態からの急発進時にライダーの微妙な操縦を可能にしてくれます。
DPL システムは 3 つの介入レベルを基に機能します。各レベルでスタート時のアシストに対して異なる値が設定されています。
下表は、発進時の運転タイプに適した DPL 介入レベルを示します。すべてのレベルは標準装備の OEM タイヤに合わせて最適化されています。

DPL レベル	パフォーマンス	用途
1	High	非常に熟練したライダー向けに最大のパフォーマンスを発揮。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップを可能にしますが、これらの現象発生時の速度を抑えます。
2	Medium	熟練ライダー向け。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を軽減するだけでなく、これらの現象が発生した場合には大幅な介入を行います。
3	Medium	すべてのライダー向け。 システムはウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるだけでなく、これらの現象が発生した場合には継続的に介入を行います。

警告

DPL システムは、路面のグリップが良好な状態の直線および平坦なルートでのみ使用してください。DPL システムは整備された環境またはクローズドサーキット内での使用を考慮しています。このため、安全上の理由から不適切な場所での使用はしないでください。

発進方法

発進操作は、主に次の二段階に分けられます。

- 第一段階は、クラッチを完全に放していない状態。この状態におて地面に伝達されるトルクは、クラッチの位置および滑りに依存します。
- 第二段階は、クラッチを完全に放した状態。この状態において地面に伝達されるトルクは、エンジンが出力するトルクに依存します。

DPL システムは停止状態からの発進時の第一段階にエンジンから出力されるトルクを自動的に調整してライダーをサポートする補助システムです。発進時の理想のエンジン回転数を維持することで、ライダーは急激なクラッチ操作ではなく、均一でソフトなクラッチ操作が可能になります。エンジントルクは第二段階においても調整されます。これにより、最大の出力を確保しながらウィリーおよびリアホイールのスリップを制限します。

クラッチの損傷を避けるため、DPL システムは連続して実行可能な発進回数をリアルタイムで算定し、インストルメントパネルの専用メニューに表示します。発進完了ごとにカウントが 1 減少します。DPL システムでは、車両の走行距離およびエンジン稼動 / 停止状態で経過した時間に応じてカウントが 1 増加します。発進可能回数がゼロでない限り、ローンチコントロールの使用が可能です。

警告

DPL システムの使用により、エンジンおよびトランスミッションの機械部品の寿命が短くなる場合があります。
DPL システムは、エンジンが動作温度に達した時にのみ使用してください。

DPL のローンチコントロールを実行するには、車両が以下の条件を満たしていなければなりません。

- 走行速度 0 km/h
- 垂直姿勢
- エンジン作動
- DTC ステータス ON

ローンチコントロールの残りカウントがゼロでない限り、ライダーは専用ボタンで関連メニューにアクセスし、インストルメントパネルで希望の DPL レベルを選択することが可能です。

レベルを選択したら、ライダーはまずクラッチを引きます。1 速ギアに入れ、スロットルグリップを最大位置まで完全に開きます。

上記の一連の操作が実行されると、DPL システムはシステムのスタート準備が整ったことを知らせる確認画面をダッシュボードに表示します。その後、スロットルグリップを完全に開いた状態でクラッチを徐々に離します。走行速度が 20 km/h を超えた時、インストルメントパネルの表示は通常機能の画面に戻ります。ただし、発進の間は選択されている DPL レベルが常に表示されます。

クラッチが完全に解放された後で以下の条件のいずれかが検知されると、DPL システムは OFF になります。
- 走行速度が 160 km/h を超えた
- 3 速ギアが入れられた

クラッチが完全に解放された後、ライダーが発進操作の中止した場合、すなわちスロットルを閉じて走行速度を 5 km/h 未満に減速した場合にも、DPL システムは OFF になります。

警告
システムはエンジンからの出力を管理しますが、クラッチを放す操作は管理しません。クラッチ操作はユーザーが制御します。
発進段階でクラッチを急激に放すと、車両の最適な動作を維持できません。また、クラッチ操作に長時間かけすぎると、クラッチが過熱し、クラッチの損傷につながるおそれがあります。

警告
ユーザーの車両上でのポジションがシステムの動作に影響を与える場合があります。

レベルの選択に際しての注意事項

レベル 3 を選択すると、DPL システムは発進時のウィリーおよびリアホイールのスリップ傾向を最小限に抑えるように加入します。レベル 2 および 1 ではシステムの介入は少なくなります。

各自の運転に最も適した DPL レベルを見つけるには、システムを起動してまずレベル 3 を選択し、システムの特性を理解するために実際に発進します。その後、最善の介入レベルになるまでレベル 2 、1 の順に試してください。

標準装備の OEM タイヤ以外のもので、標準装備のタイヤとはサイズクラスの異なるタイヤやサイズが大き

く異なるタイヤを使用する場合は、システムの機能が影響を受ける可能性があります。

タイヤに関して、標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるなど違いが僅かなタイヤを装着する場合、システムを正しく機能させるには所定の自動調整機能を使用する必要があります。

警告

DPLはライダーをアシストするシステムです。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。
この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。

インフォテインメント

Bluetooth コントロールユニットを搭載している場合は、インストルメントパネルに Bluetooth マークが表示されます。
インストルメントパネルに搭載されているインフォテインメントシステムから、Bluetooth 接続されるスマートフォン、ライダーインターコム、パッセンジャーインターコム、衛星ナビゲーターの 4 種類のデバイスを管理することができます。Bluetooth デバイスのペアリングまたは削除については、“SETTING MENU - Bluetooth” の章を参照してください。接続後は以下のように表示されます。

1) 接続スマートフォン
2) 接続ライダーインターコム
3) 接続パッセンジャーインターコム
4) 接続ライダーインターコムとペアリング済みパッセンジャーインターコム
5) ペアリング済みライダーインターコムと接続パッセンジャーインターコム
6) 接続ライダーインターコムと接続パッセンジャーインターコム
7) 接続 Ducati ナビゲーター

接続されているデバイスは水色のアイコンで表示されます。一方、接続されていないペアリング済みデバイスはグレーのアイコンで表示されます。

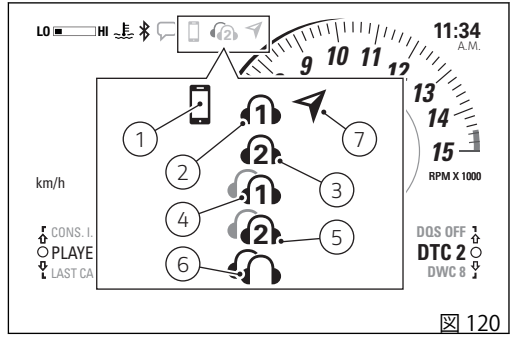


図 120

インストルメントパネルにスマートフォンを接続している場合は、音楽プレーヤーと通話履歴の操作が可能です。“PLAYER (OFF / ON)” と “LAST CALLS” の章をご覧ください。
次のような場合にインストルメントパネルがどのように作動するかを以下に示します。

- 着信
- 通話中
- 直前の電話番号にリダイヤル
- 不在着信
- 受信したメッセージ / E メール

着信

着信があると、ディスプレイは以下のように表示されます。

- "ACCEPT" の文字 (A)
- 発信元の名前 / 電話番号 (B)
- "DECLINE" の文字 (C)

着信に応答する場合は UP ボタンを押し、着信を拒否する場合は DOWN ボタンを押します。

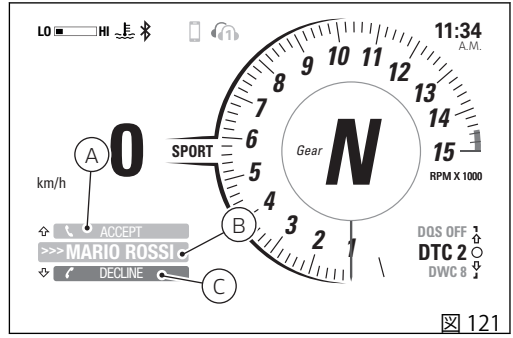


図 121

通話中

通話中は、インストルメントパネルに次のように表示されます。

- “ACTIVE” 表示 (A)
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に着信を受けた場合は “>>>” マーク (B)、発信した通話の場合は “<<<” マーク
- “END CALL” の文字 (C)

DOWN ボタンを押して通話を終了します。

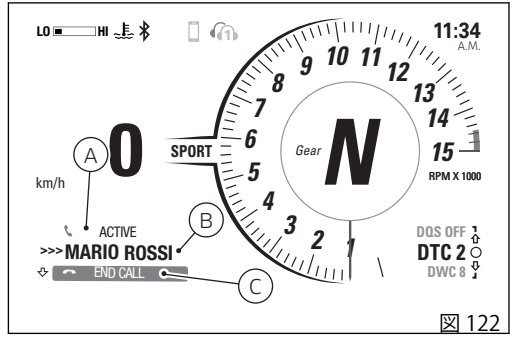


図 122

参考

スマートフォンの他にライダーヘルメットインターコムが接続されている場合は、通話中の会話はヘルメットのイヤホンとマイクを通して再生されます。

直前の電話番号にリダイヤル

通話を終了した場合、または不在着信、着信拒否した場合は、インストルメントパネルは RECALL 機能を 5 秒間有効にし、直前の電話番号にリダイヤルすることができます。

インストルメントパネルの表示：

- "RECALL" の文字 (A)
- 通話相手の名前 / 電話番号と、その前に “<<<” マーク (発信) または “>>>” マーク (着信) (B)

表示されている名前 / 電話番号にリダイヤルするには、UP ボタンを押します。

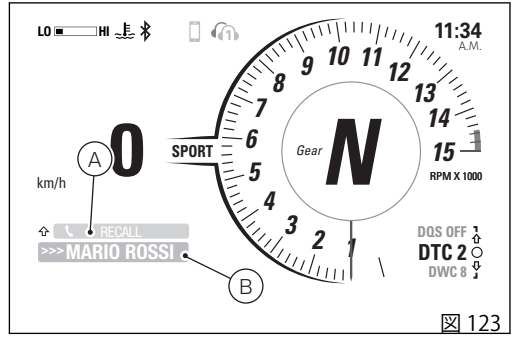


図 123

不在着信

不在着信があると、ディスプレイにマーク (A) が 60 秒間表示されます。マークは最初の 3 秒間点滅します。

参考

不在着信の相手番号は表示されません。

受信したメッセージ / E メール

メッセージや E メールを受信すると、ディスプレイにマーク (A) が 60 秒間表示されます。マークは最初の 3 秒間点滅します。

参考

メッセージの相手先番号や E メールアドレスは表示されません。

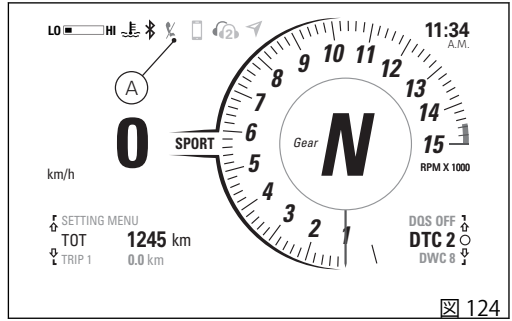


図 124

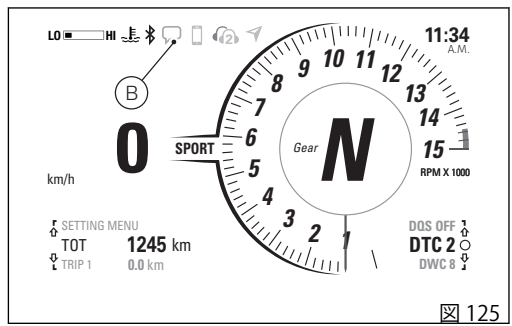


図 125

ヒーテッドグリップ

この機能でヒーテッドグリップの起動と調整を行います (装備している場合のみ)。
ヒーテッドグリップの状態は、専用マークで表示されます。
ヒーテッドグリップの起動とレベル調整を行うには、ボタン (10) を押します (“機能ボタン” の章を参照)。ボタンを押すごとに、レベルが “OFF”、“LOW”、“MED”、“HIGH” の順に移動し、再び “OFF” に戻ります。
ヒーテッドグリップのマークは、各レベルごとに異なる色で表示されます。

- OFF = DAY モードでは黒、NIGHT モードでは白
- LOW = 緑
- MED = オレンジ
- HIGH = 赤

レベルを OFF に設定すると、ヒーテッドグリップマークは数秒後に消えます。ボタン (10) を 1 回押すとマークが再び現れます。
OFF 以外のレベルに設定すると、エンジンをかけているときにのみ、グリップのヒーター機能が実際に作動します。

参考
バッテリーの接続が切られた場合は、レベルは OFF に設定されます。

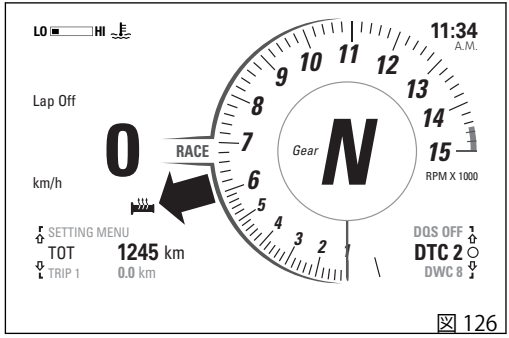


図 126

参考
ヒーテッドグリップを起動しているときにエンジンを切るとヒーター機能が停止し、アイコンの色が変わります。ただし、アイコンは表示され続けます。エンジンを再び始動すると、ヒーテッドグリップも自動的に再起動します。

参考

ヒーテッドグリップは電力消費が大きいため、エンジン低回転域ではバッテリーが上がるおそれがあります。 バッテリーが充電不足 (電圧が 13.2 V を下回っている) 状態になると、エンジンの始動ができる状態を維持するためにヒーテッドグリップの作動を停止します。バッテリー電圧が前述の電圧値を上回ると、自動的に作動を開始します。

ライトコントロール

ロービーム/ハイビームライト

インストルメントパネル時、ロービームライトとハイビームライトは消灯したまま、パーキングライトのみが点灯します。
エンジンの始動後、ロービームライトが自動的に点灯します。ボタン (3) のポジション (A) とポジション (B) を切り替えて、ロービームライトとハイビームライトを切り替えることができます。ボタン (3) をポジション (C) に押すとライトをフラッシュします。インストルメントパネルを起動してからエンジンをかけない場合でも、各ライトやフラッシュライトを作動させることはできます。
ただし、ロービーム / ハイビームライトを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ライトは消灯します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームライト、ロービームライトが点灯している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが始動した時点で再び点灯します。

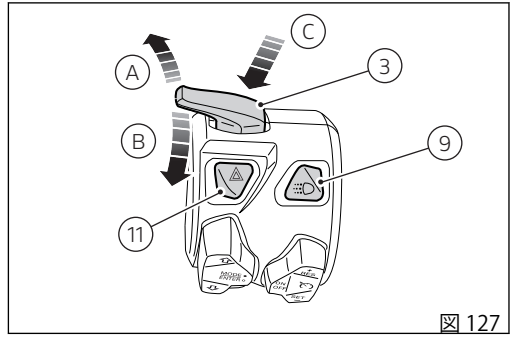


図 127

DRL の “Auto” モード ー DRL 搭載バージョンのみ

SETTING MENU 内の “DRL” 機能から DRL を “Auto” に設定している場合は (“SETTING MENU - DRL” の章を参照)、インストルメントパネルが、検出された外光の明るさに基づいて、DRL とロービームライトの関係を次のように自動管理します。

- 十分な外光が検出されると (昼間)、DRL を点灯してロービームライトを消灯します。
- 十分な外光が検出できない場合 (夜間) は、ロービームライトを点灯して DRL を消灯します。

DRL が AUTO モードに設定されている時は、図に示す表示灯が点灯します。
DRL を “Auto” モードに設定している時にボタン (9) を押すと、自動管理が解除されて通常のライト管理に戻ります。もう一度ボタン (9) を押すと、DRL が “Manual” 管理モードで再び起動します。
この場合は、次回のインストルメントパネル起動時に、DRL が再び “Auto” モードに設定されます。

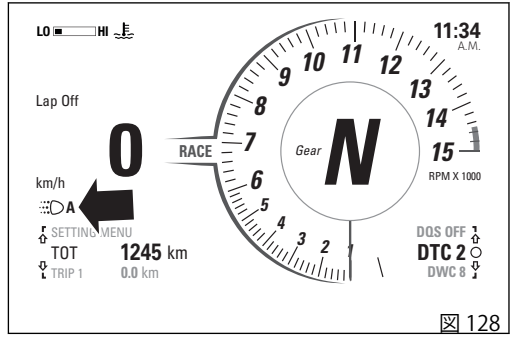


図 128

警告

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を “Auto” モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームライトを手動で点灯するようにしてください。

DRL の “Manual” モード ー DRL 搭載バージョンのみ

SETTING MENU 内 “DRL” 機能から DRL をこのモードに設定している時は、インストルメントパネル起動時に DRL のステータスは変更されません。
DRL を停止または点灯するにはボタン (9) を押してください。

警告

外光の特に弱い状況下 (暗闇) で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険があるだけでなく、対向車のドライバーにとって眩しく不快に感じさせることがあります。

参考

日中に DRL を使用することで、ロービームライトよりも優れた視界を確保することができます

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
左ターンインジケーターを起動するにはボタン (10) をポジション (I) に押します。右ターンインジケーターを起動するにはボタン (10) をポジション (L) に押します。左側スイッチのボタン (10) を押してターンインジケーターを解除することができます。

自動解除：
車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケーターが自動的に消灯します。
自動解除機能は、インジケーターボタンを操作することにより、車両速度が 20 km/h (12.4 mph) を超えると作動します。
ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケーターボタンが操作された時の車両速度に応じて、200～2,000 メートル (656～6,562 フィート) までの範囲で変化します。
ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

自動解除システムは設定メニューから無効することができます。

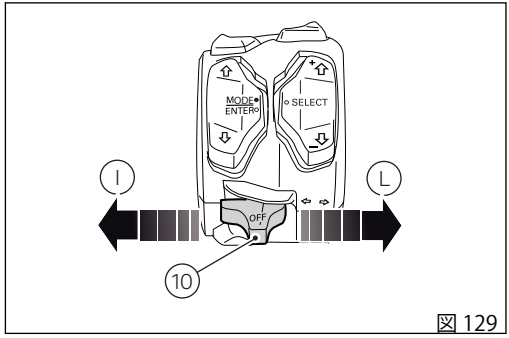


図 129

警告
自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダー支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません (必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザード機能 (ターンインジケーターすべて点滅)

"ハザード" 機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン (11、図 127) を押して ハザード機能を作動することができます。この機能は車両が起動している場合 (Key-ON) に限り起動することができます。"ハザード" 機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルのランプが同時に点滅します。ハザード機能は、車両が起動している状態 (Key-ON) でのみ、ボタン (11、図127) を押して手動で解除することができます。

"ハザード" 機能を起動してから車両を停止した場合は (キーを "OFF" 位置に回す)、 ハザード機能はその後 2 時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、2 時間後ターンインジケーターは自動的に消灯します。

参考

"ハザード" 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます (ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

参考

"ハザード" 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード" 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

パーキングライト

Key-OFF を実行すると、パーキングライトの点灯画面が表示されます。ボタン (10、図 129) をポジション (I) に長く押すと、パーキングライトが点灯します。

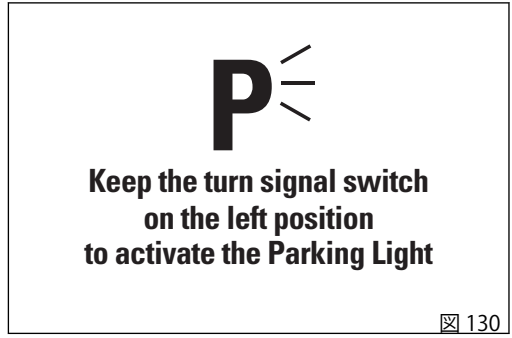


図 130

サイドスタンドのステータス表示

サイドスタンドが下りている/開いている場合には、赤色の背景に "SIDE STAND" アイコンがディスプレイに表示されます。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない場合、"SIDE STAND" アイコンが点滅して不明の状態を表します。

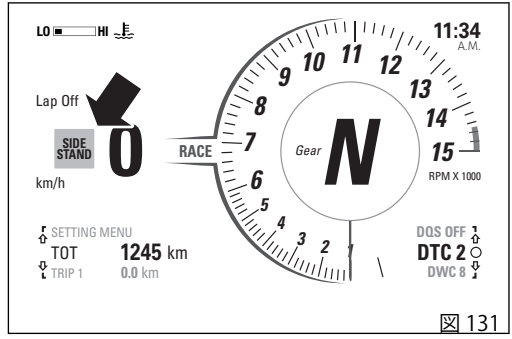


図 131

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス (定期点検) を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。
メンテナンス間隔の種類は図中に示す領域に表示されます。メンテナンスの種類には以下のものがあります。

- OIL SERVICE zero
- OIL SERVICE カウントダウン
- DESMO SERVICE カウントダウン
- ANNUAL SERVICE カウントダウン
- OIL SERVICE
- DESMO SERVICE
- ANNUAL SERVICE

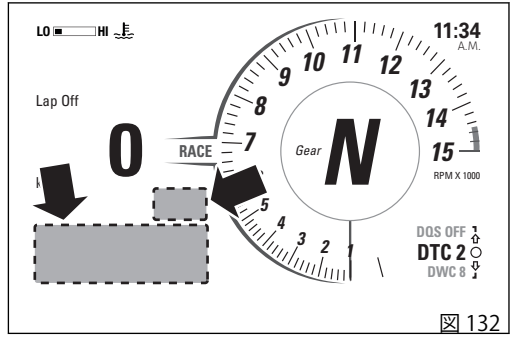


図 132

OIL SERVICE ゼロの表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 mi) に達すると表示され、Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。

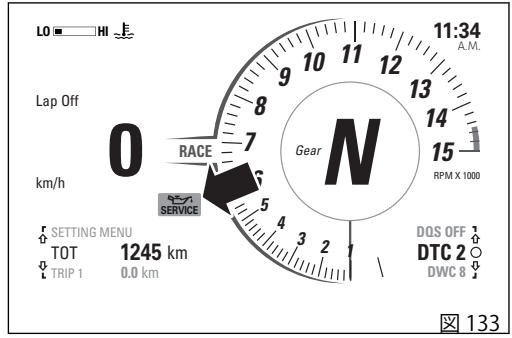


図 133

OIL SERVICE カウントダウン、ANNUAL SERVICE カウントダウン、DESMO SERVICE カウントダウン

サービスの設定期限が近づくと、車両を起動するたびに以下の表示が黄色で 5 秒間表示されます。

- OIL SERVICE カウントダウン (A) は、OIL SERVICE の実施まで残り 1,000 km (621 miles) になると起動します。
- ANNUAL SERVICE カウントダウン (B) は、ANNUAL SERVICE の実施まで残り 30 日になると起動します。
- DESMO SERVICE カウントダウン (C) は、DESMO SERVICE の実施まで残り 1,000 km (621 miles) になると起動します。

SETTING MENU 内の “Service” 機能から、サービス期限を表示することができます (“SETTING MENU - Service” の章をご覧ください)。

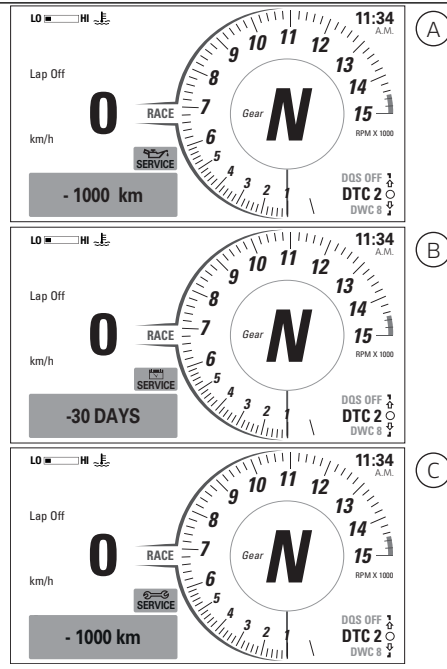


図 134

OIL SERVICE、ANNUAL SERVICE、DESMO SERVICE

次のメンテナンス実施期限に達すると、必要なメンテナンスが通知されます。

- OIL SERVICE (A)
- ANNUAL SERVICE (B)
- DESMO SERVICE (C)

サービス表示は赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて "リセット" されるまで常時表示されます。
SETTING MENU 内の “Service” 機能から、サービス期限を表示することができます (“SETTING MENU - Service” の章をご覧ください)。

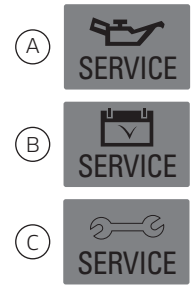


図 135

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。
車両をオンにした時にエラーがひとつでも検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ (A) (エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー)、もしくは一般的エラー警告灯 (B) (その他エラー全般) が点灯します。
車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプ (A) もしくは一般的エラー警告灯 (B) が点灯します。

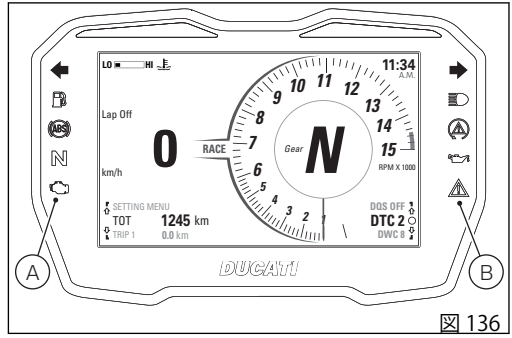


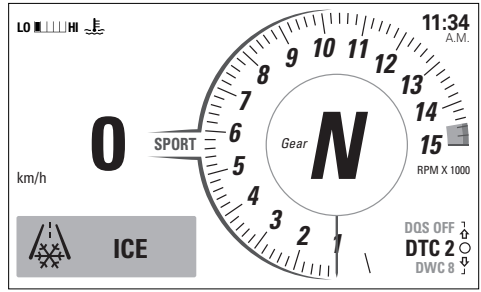
図 136

警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

注意および警告

車両の使用中にユーザーに有用な情報を提供できるように、インストルメントパネルは一連の注意と警告を管理します。
起動時に通知が存在する場合は、インストルメントパネルに警告またはアラームの表示が現れます。最初の5秒間は大きく表示され、その後小さく表示されます。複数の警告またはアラームが存在する場合は、3秒ごとに一つずつ順番に表示されます。



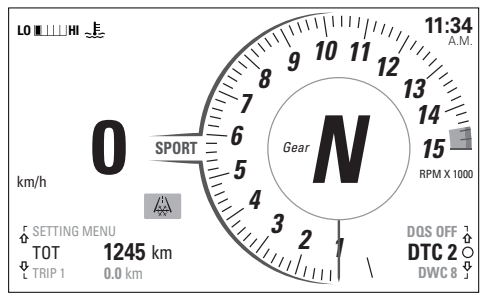


図 137

ICE (凍結)
この警告は、外気温が低いため路面凍結の危険があることを示します。
気温が4°C(39°F)以下になると作動します。気温が6°C(43°F)まで上がると警告は解除されます。

警告
この警告は、気温が4°C(39°F)を超えている場合でも、凍結の可能性がないことを保証するものではありません。気温が低い時に日陰や橋の上を走行する際は、特に安全運転を心がけてください。

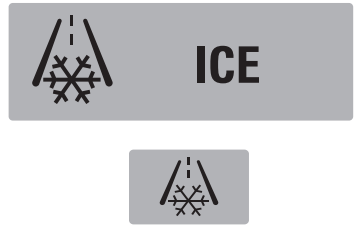


図 138

LOW BATTERY (バッテリー残量低下)
この警告は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを示します。
バッテリー電圧が 11.0 V 以下になると警告が表示されます。

参考
警告が表示された場合は、専用機器を使用して早急にバッテリーの充電を行ってください。

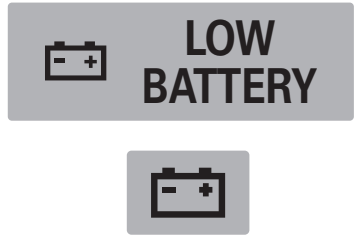


図 139

INSERT DATE (日付を入力)
この警告は、SETTING MENU 内の “Date and Clock” 機能から日付を設定する必要があることを示します (“SETTING MENU - Date and Clock” の章をご覧ください)。

DDA FULL (DDA フル)
この警告は、DDA メモリーにこれ以上走行データを記録できないことを示します (“SETTING MENU - DDA” の章をご覧ください)。

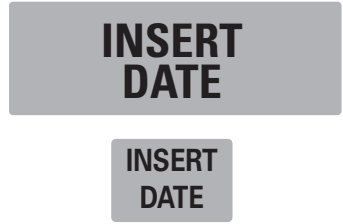


図 140

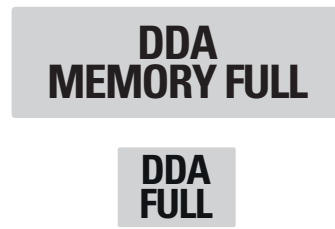


図 141

ABS FRONT ONLY (ABS フロントのみ)
この警告は、ABS が前輪のブレーキングのみを制御する設定になっているため、運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

警告
この場合、運転およびブレーキングに細心の注意を払うようにしてください。

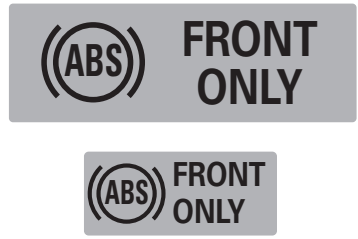


図 142

キー

車両には 2 個のキーが付属しています。
キーには "イモビライザーシステムの暗号" が含まれています。
キーは通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

警告

キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

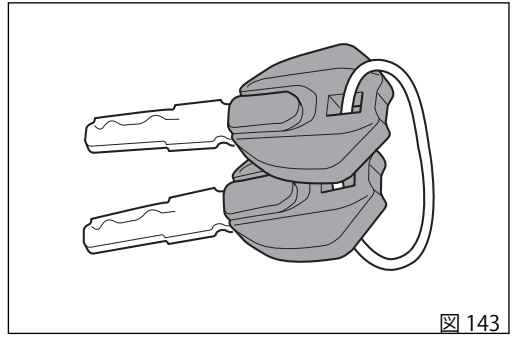


図 143

参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム (イモビライザー) が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。
各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。
変調された信号は起動毎に異なる "パスワード" から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

Pin Code による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。
PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルに “Insert Pin” の文字と 4 桁の PIN CODE 入力スペース“0” と “- - -“ が表示されます。

コードの入力：

- UP ボタン、DOWN ボタンを押すと、数字が “0”～“9” の間で 1 ずつ増減します。
- ENTER ボタンを押して数字を決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 桁すべてを入力します。

4 桁目を入力してから ENTER ボタンを押すと、以下のようになります。

- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルに “Error” の文字が 2 秒間表示され、その後スタンダードスクリーンに戻ります。
- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "Wrong" を 2 秒間表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。

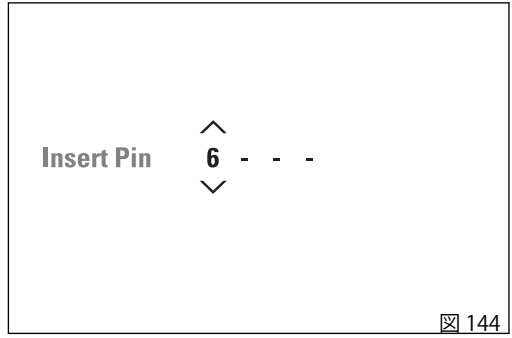


図 144

- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは “Correct” を 2 秒間表示し、その後画面はスタンダードスクリーンに戻ります。

重要
車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) 右側スイッチ
6) スロットルグリップ
7) フロントブレーキレバー
8) リアブレーキペダル
9) ギアチェンジペダル

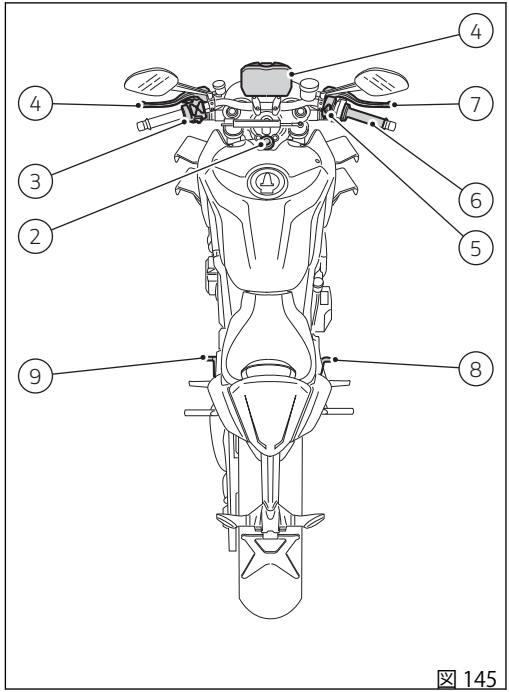


図 145

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、3 つのポジションがあります。

A) ON：エンジンおよびランプを ON にする
B) OFF：エンジンおよびランプを OFF にする
C) LOCK：ステアリングロック状態

警告

キーを最後のポジションに合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C) の位置でキーを引き抜くことができます。

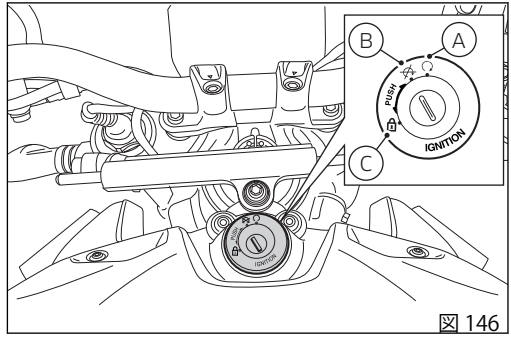


図 146

ハンドルバー左側スイッチ

1) ディマースイッチ、ライトの選択、2 ポジション：
- 上 (A) に押すとハイビームランプが点灯 (≡D)、初期位置 (B) に戻すとロービームランプが点灯 (≡D)
- (C) 横方向に押すと、ハイビームランプ点滅 (≡D)
- (FLASH)、"START-STOP LAP" 機能

2) ハザード ON/OFF ボタン (ターンインジケーターすべて)

3) DRL 起動 / 解除ボタン

中国バージョンには DRL は装備されません。

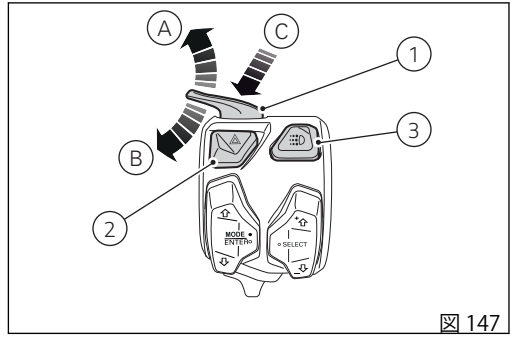


図 147

4) メニュー操作ボタン
5) クイックセレクトボタン
6) 3ポジション、ターンインジケーターボタン (⇔) :
- 中央 = OFF
- ポジション (⇦)= 左折
7) ターンインジケーター解除ボタン
8) ボタン (⚑) = 警告ホーン

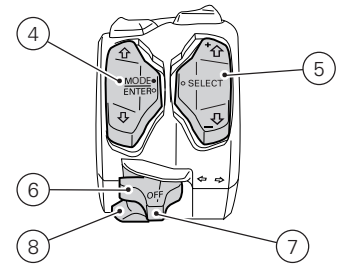


図 148

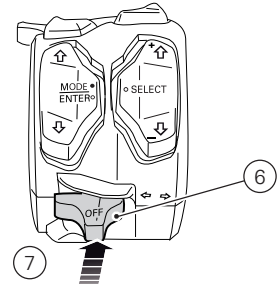


図 149

メニュー操作ボタン (4) には次の 3 つのポジションがあります。
- (D) メニュースクロール (メニュー UP)
- (E) メニュースクロール (メニュー DOWN)
- (F) メニュー決定

クイックセレクトボタン (5) には次の 3 つのポジションがあります。
- (G) クイックセレクトの決定
- (H) クイックセレクト "UP" (UP +)、選択した機能のレベルを上げます。
- (I) クイックセレクト "DOWN" (DOWN -)、選択した機能のレベルを下げます。

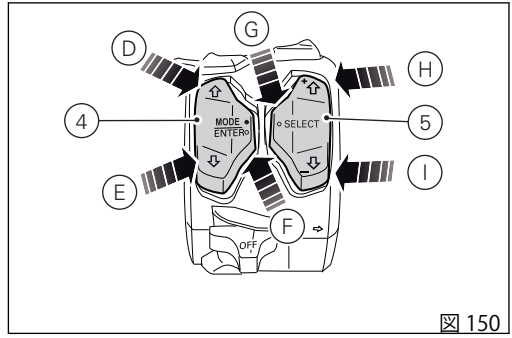


図 150

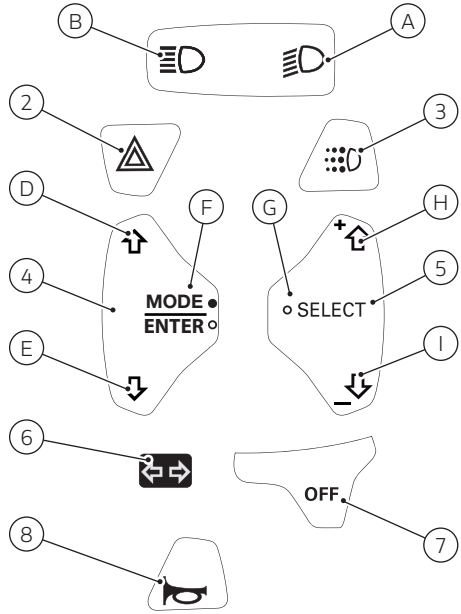


図 151

凡例
A) ロービームランプ
B) ハイビームランプ
D) メニュー UP
E) メニュー DOWN
F) メニュー画面決定
G) クイックセレクト決定
H) クイックセレクト UP
H) クイックセレクト DOWN
2) ハザード
3) DRL
4) メニュー操作
5) クイックセレクト
6) ターンインジケーター
7) ターンインジケーター OFF
8) ホーン

クラッチレバー

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。 レバーにはアジャスター (2) がついており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。

レバーの間隔はアジャスター (2) の 9 クリックで調整できます。
時計方向に回すとレバーはグリップから離れます。
アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。
レバー (1) を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。
クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

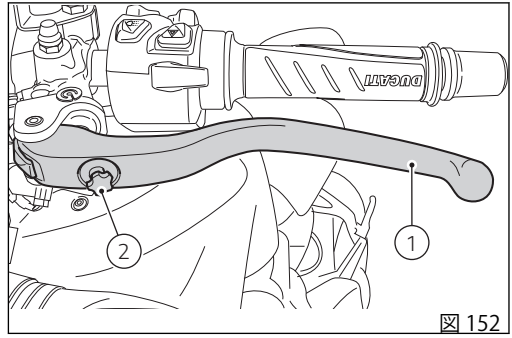


図 152

警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください (この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤色スイッチ　エンジンの停止) を使用し、取り外します。
2) エンジンの始動ボタン
3) DPL ボタン
4) ピットリミッターボタン

スイッチ (1) には 2 つのポジションがあります。

B) 下に押した場合：エンジンの停止
A) 上に押した場合：RUN ON このポジションでのみ、ボタン (2) を押してエンジンを始動することができます。

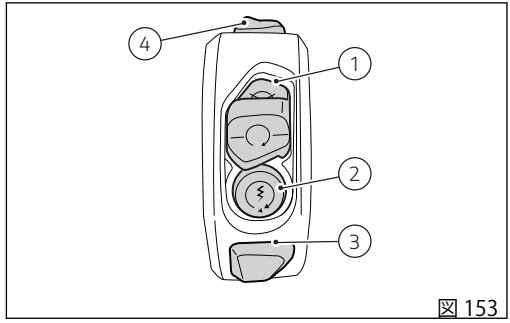


図 153

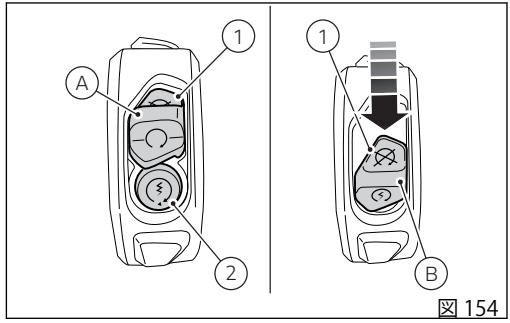


図 154

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ (1) は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。
グリップを離すと、自動的に元の位置 (アイドリング状態) に戻ります。

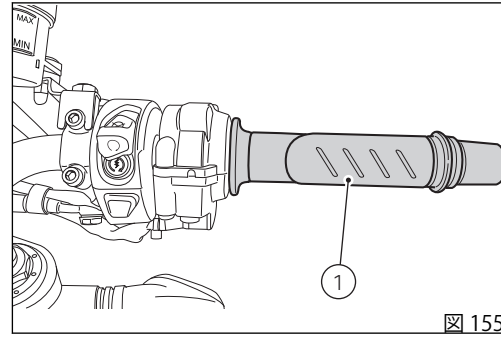


図 155

フロントブレーキレバー

調整

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。
コントロールレバー (1) にはアジャスター (2) が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整することができます。
レバーの間隔はアジャスター (2) の 9 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

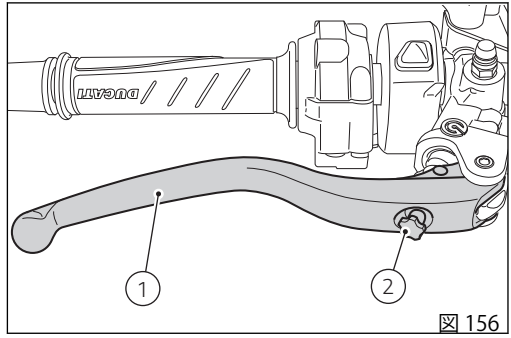


図 156

警告
これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

警告
フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

リアブレーキペダル

リアブレーキをかけるには、ペダル (1) を足で下に押してください。
制御システムは油圧式です。

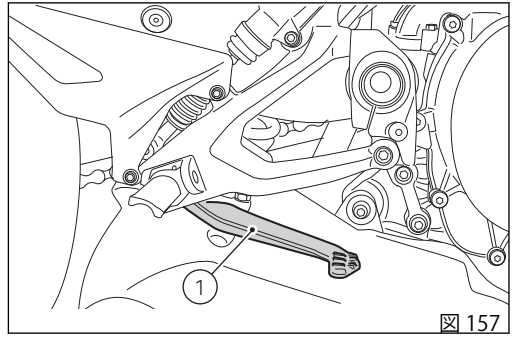


図 157

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダル (1) は中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。 ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプ N で表示されます。
ペダルは次のように動かせます。

- 下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプ N が消えます。
- 上へ ＝ ペダルを上へ上げることで、2速から順次 3 速、 4 速、 5 速、 6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

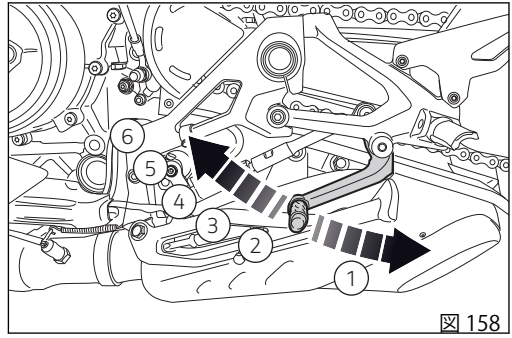


図 158

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

参考

車両に対するギアチェンジペダルの位置を変更することができます。この調整を行う場合は、ディーラーまたはドゥカティ正規サービスセンターにお問い合わせください。

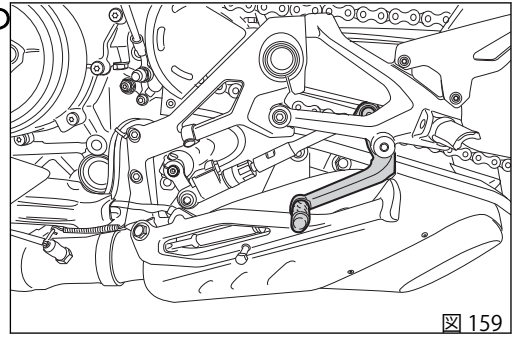


図 159

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) リアビューミラー
5) フロントフォークアジャスター
6) リアショックアブソーバーアジャスター
7) 触媒システム (両側)
8) エキゾーストサイレンサー (両側)

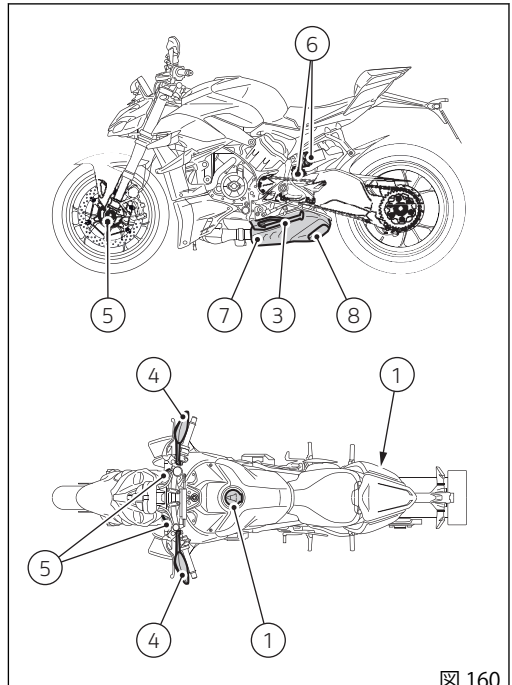


図 160

燃料フィラープラグ

開け方

- 保護カバー (1) を持ち上げ、キーをロックに挿入します。
- キーを時計回りに 1/4 回転させ、ロックを解除します。
- フィラープラグ (2) を起こします。

閉じ方

- キーを差し込んだ状態でプラグ (2) を閉じ、プラグを押します。
- キーを抜き取り、保護カバー (1) を閉じます。

参考

キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告

燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

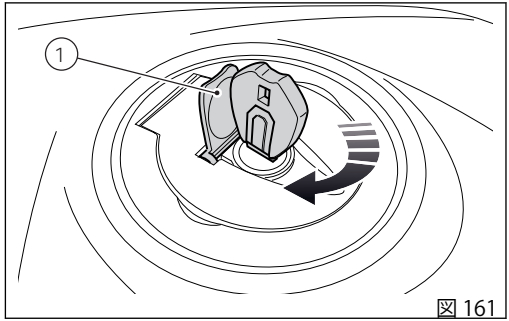


図 161

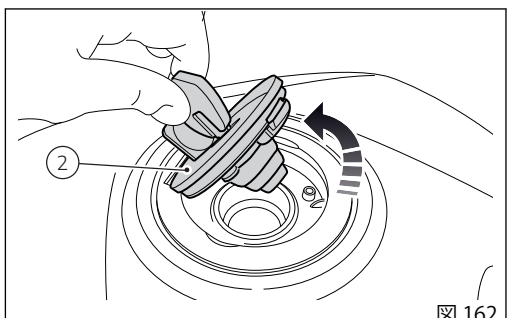


図 162

シートの取り外しおよび取り付け

鍵穴 (1) を操作してパッセンジャーシート (2) を取り外し、テールボックスを利用できます。

パッセンジャーシートの取り外し

- 鍵穴 (1) にキーを差し込みます。
- カチッと音が鳴りパッセンジャーシート (2) のロックが外れるまで、キーを左に回します。
- パッセンジャーシート (2) を車両の前方に抜き取ります。

パッセンジャーシートの取り付け

- パッセンジャーシート (2) の取り付けを行う前に、パッセンジャーベルト (3) が正しい位置にあることを確認してください。
- パッセンジャーシート (2) を、車両前側 (A) からカチッとロックの音が鳴るまで後方 (B) にスライドさせてください。

警告

シートカバーを閉じる際は、車両前側からシートカバーを挿入し、カチッとロックの音が鳴るまで後方にスライドさせてください。

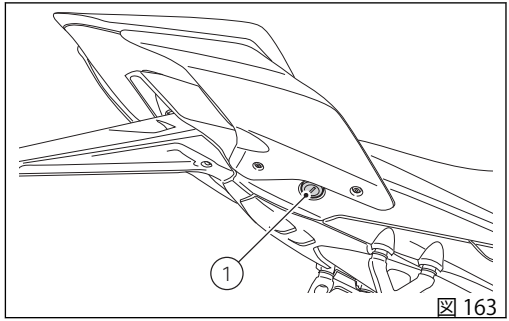


図 163

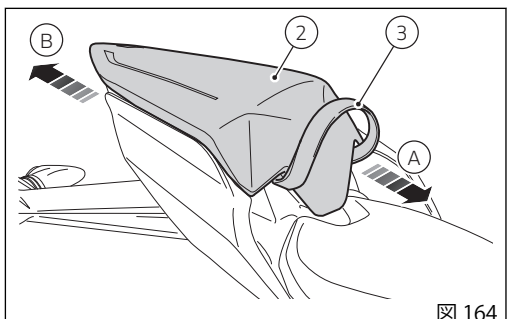


図 164

ライダーシートの取り外し

- テールボックスに付属の六角棒レンチを使用して、ライダーシート (5) の両側にある 2 本のスクリュー (4) を緩めて外します。
- 車両の後方からシートを抜き取ります。

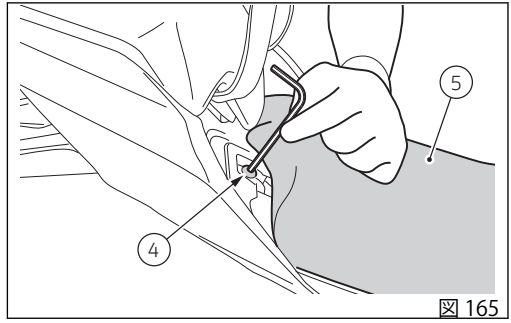


図 165

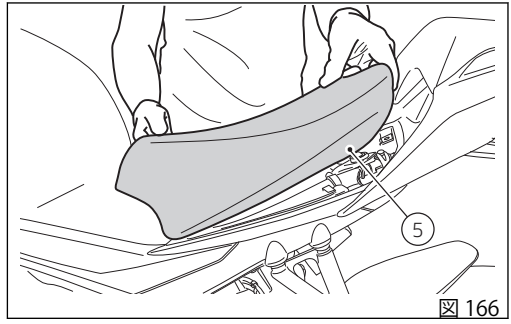


図 166

ライダーシートの取り付け

- 先にシートのブラケット (6) をフレームのブラケット (7) に挿入し、次にシート後部をフレームに乗せてライダーシート (5) を取り付けます。
- シート (5) の後端を持ち上げ、スクリュー (4) を締め付けて固定します (図 165)。
- ライダーシートの前部を持ち上げてみて、正しく取り付けられていることを確認してください。

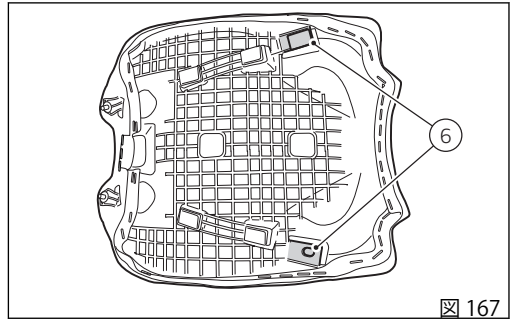


図 167

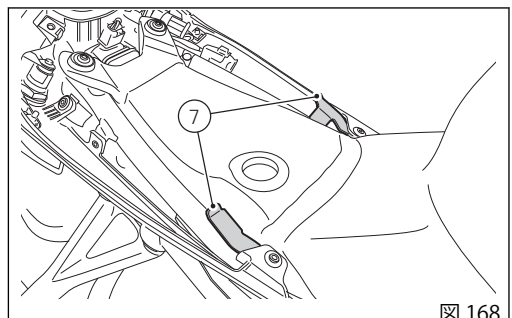


図 168

サイドスタンド

重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック (1) を足でいっぱいに押します。
次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

開く段階でサイドスタンドを探しやすくするには、足でピン (3) を押します。

警告

車両をサーキットでスポーツ目的に使用する場合、レンチ (4) を使用してピン (3) を取り外すことをお勧めします。

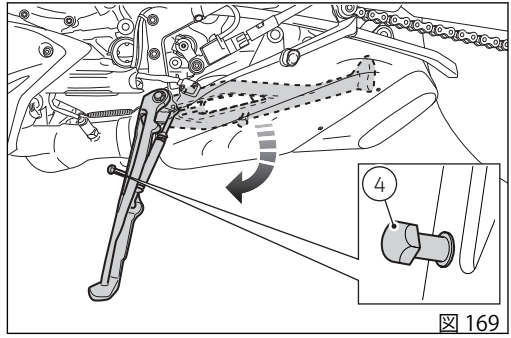


図 169

サイドスタンドを元の位置 (水平位置) に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム (1) を持ち上げます。
サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

参考

定期的にスタンド (内側と外側 2 つのスプリングの状態) と安全センサー (2) の作動を点検することをお勧めします。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください (この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

Bluetooth コントロールユニット

車両にはBluetooth コントロールユニットを装備することができます。これにより Bluetooth に対応する電子機器間での通信が可能になります。
Bluetooth コントロールユニットは本車両に装備されおりません。Bluetooth コントロールユニットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでお買い求めいただけます。

警告

Bluetooth ヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります (スマートフォン、ヘッドセット)。

警告

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth ヘッドセット (音楽共有、マルチメディア再生など) の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン (Bluetooth 対応プロファイルによる) に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- "Kit Ducati キット (部品番号： 981029498)" に付属しないヘッドセット。
- 必要な Bluetooth プロファイルに対応していないスマートフォン ("Ducati キット　部品番号：981029498" に付属するヘッドセットとペアリングできる場合でも)

警告

外的環境の特殊な状況に起因する干渉が起こった場合には、Ducati キット (部品番号：981029498) ではライダーヘルメットからパッセンジャーヘルメットへの再生音楽の共有機能を使用することができます (詳しくは Ducati キット (部品番号：981029498) に付属のヘッドセット取扱説明書を参照)。

参考

Ducati キット (部品番号： 981029498) は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAP プロフィール：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

警告

以下のキットに付属しない Bluetooth 対応のナビゲーターは、ドゥカティマルチメディアシステムに正しく接続できない場合があります。

- Ducati Zumo 350 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 390 衛星ナビゲーターキット
- Ducati Zumo 395 衛星ナビゲーターキット

参考

上記Ducati キットは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにてお求めいただけます。

ステアリングダンパー

ハンドルバーの後ろにあり、ステアリングヘッドとフレームに固定されています。
このダンパーがステアリングのより正確で安定した操作に貢献し、あらゆるコンディションでの操縦性をアップします。
アジャスター (1) を時計回りに回転させるとステアリングはよりハードに設定され、反時計回りに回転させるとよりソフトに設定されます。
各調整位置で"クリック"音がします。すべて開いた位置から最大 10 クリックまで回すことができます。

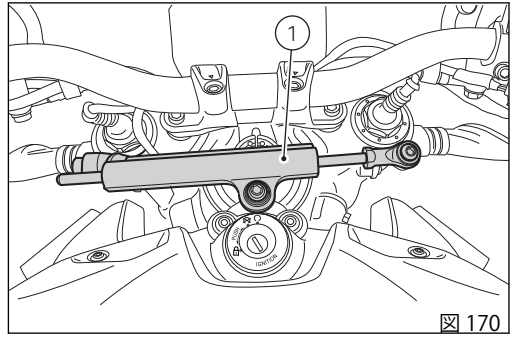


図 170

警告
これ以上の調整はステアリングが非常に固くなり、危険な状況を招くおそれがあります。

警告
車両のコントロールを失うおそれがありますので、走行中は絶対にアジャスター (1) の位置を変更しないでください。

フロントフォーク調整

本車両のフロントフォークはフルアジャスタブルタイプです。
フロントフォークのリバウンドダンピングおよびコンプレッションダンピング調整は、インストルメントパネルからフォークレッグ内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

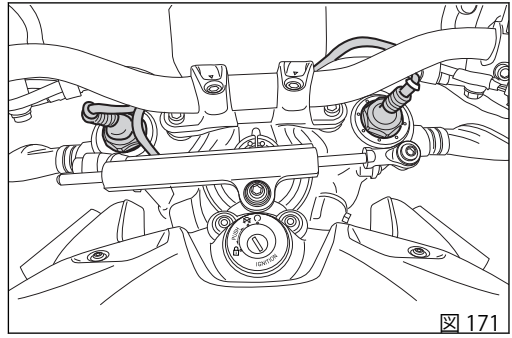


図 171

警告

スプリングプリロードの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せて走行する際は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に設定すると、車両の操作性を高め、地面との接触を避けることができます (リングナットを操作してプリロードを調整します)。この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。
ショックアブソーバーの調整はインストルメントパネルからショックアブソーバー内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

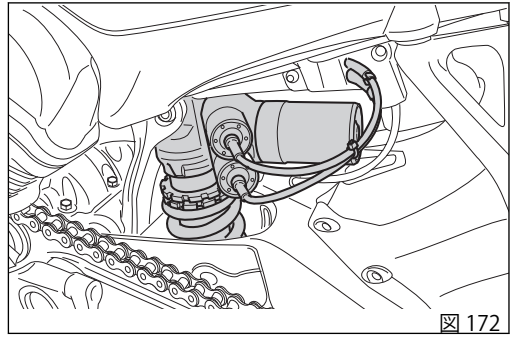


図 172

ショックアブソーバーの調整については、“SETTING MENU - Riding Mode -DES” の章の記載に従ってください。

運転の方法

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：
1) 1,000 km (621 mi) まで
2) 1,000 km (621 mi) ～ 2,500 km (1,553 mi)

1,000 km (621 mi) まで

最初の 1,000 km (621.37 mi) まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 回転 (rpm) を超えてはいけません。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。
エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km (62 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。
すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

重要

走行距離が最初の 1000 km (621 mi) までの間 (慣らし運転期間)、すなわちオドメーターが 1000 km (621 mi) 以下の値を表示している期間は、6000 rpm に達するとディスプレイにはオレンジ色で表示される予告ゾーン (オレンジゾーン) が棒グラフの目盛りとそれに相当する数字で表示されます。慣らし運転期間中はエンジン回転数を 6000 rpm 以下に維持すること、すなわちインストルメントパネルに棒グラフの "オレンジゾーン" が表示されないようにすることが推奨されます。

1,000 ～ 2,500 Km (621 ～ 1,553 mi)
エンジンからよりパワーを引き出すことは可能ですが、7,000 rpmを決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (“燃料の補給” をご覧ください)。
- エンジンオイル量
  点検窓からオイルパン内のレベルを点検します。必要であれば補充してください (“エンジンオイルレベルの点検” をご覧ください)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
  各フルードタンクのフルードレベルを点検してください (”ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検“ をご覧ください)。
- クーラント量
  リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください (”クーラントレベルの点検および補充“ をご覧ください)。
- タイヤコンディション
  タイヤ空気圧と摩耗度を点検します (“チューブレスタイヤ” をご覧ください)。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください (”ヘッドライト電球の交換“ をご覧ください)。
- ロック類
  フィラープラグのロックを点検します (”燃料フィラープラグ“ をご覧ください)。
- サイドスタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (”サイドスタンド“ をご覧ください)。

警告
異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

エンジンウォーターポンプが正常に作動するためにはベントを必要とします。そのため、クランクケース上部のベント穴から微量の冷却液が漏れることがありますが、冷却システムやエンジン自体の正常な動作に影響を及ぼすことはありません。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ (9) は点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。

警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

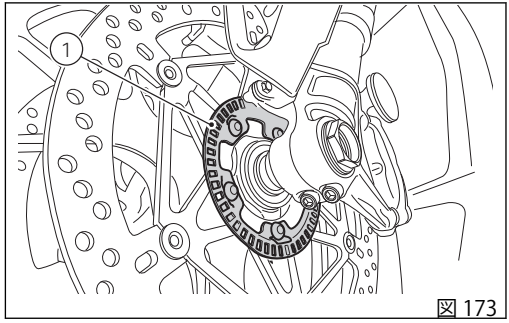


図 173

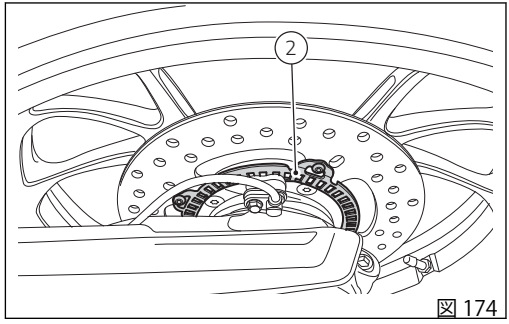


図 174

エンジンの始動

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告
屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを ON の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N (1) と赤のランプ (2) が点灯していることを確認してください。

重要
オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

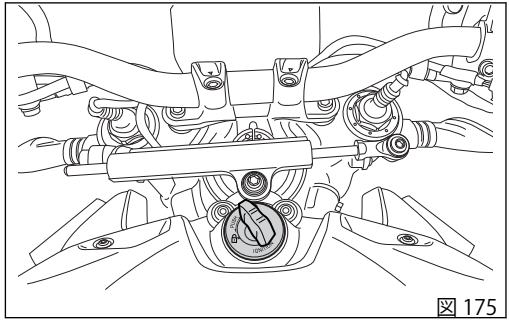


図 175

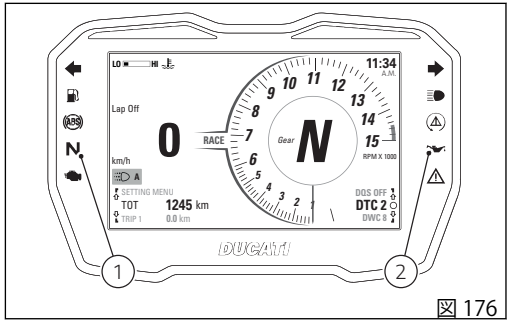


図 176

警告
サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

重要
エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

エンジンストップスイッチ (3) が (RUN) の位置になっていることを確認してから、スタートボタン (4) を押します。

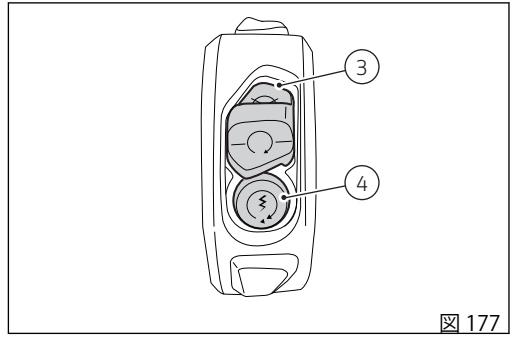


図 177

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを 1 速に入れます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。

警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

このシステムを解除したい場合は、インストルメントパネルから "ライディングモードのパーソナライズ：ABS 調整" を使って解除することができます。

警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準的なブレーキとして機能します。このため、2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両のブレーキングおよび停車

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。

停車する

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
エンジンが突然停止するのを防ぐために、ギアを入れた状態でクラッチを戻さないでください。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
エンジンを停止するには、キーをOFF位置に回します(“イグニッションスイッチとステアリングロック”)。

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを LOCK 位置に回します。
車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

重要

監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック (ディスクロック、リアスプロケットロック等) は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。
キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。
キャップを開けている時にシューという音が聞こえたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。
このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。
上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

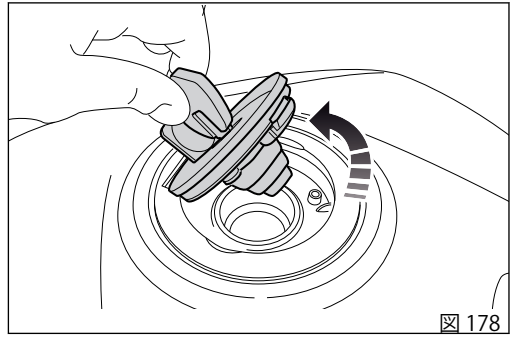


図 178

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリー

背もたれ (A) 内に設けられている小物入れスペースには、付属のL 型六角棒レンチ (1) 4 mm (0.16 in) が収納されています。

このスペースを利用するには、"シートの取り外しおよび取り付け" の章を参照しながら、パッセンジャーシート (A) を取り外してください。

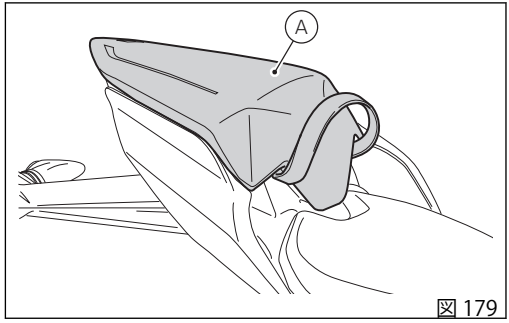


図 179

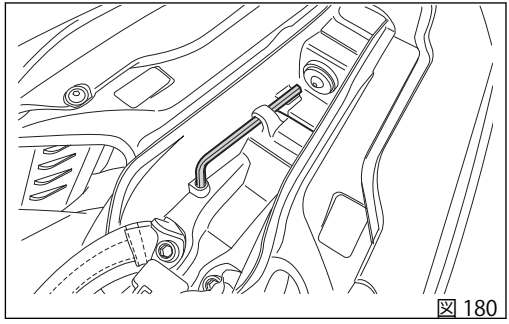


図 180

フェアリングの取り外し

メンテナンスまたは修理作業を実施するために、モーターサイクルのいくつかのフェアリング部品を外すことが必要になる場合があります。

警告

取り外した部品を再度取り付けていなかったり、正しく取り付けられていないと、走行中に突然外れ、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。

警告

塗装済み部品を破損しないよう、取り付けの際には必ずナイロンワッシャーを固定スクリューの位置に取り付けてください。

重要

フェアリングの取り外し作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

フロントホイールのスペースから内側の点検用開口部から、車両右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。
クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN (1) 及び MAX (2) の目盛の間にあることを確認します。
クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。

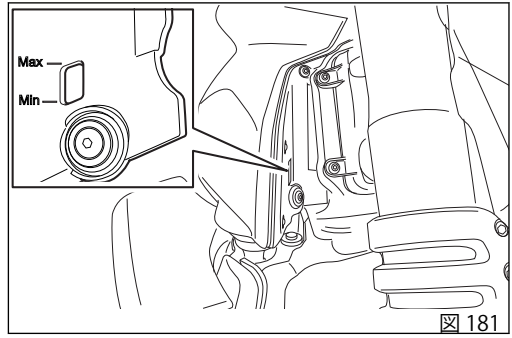


図 181

警告

この作業はエンジン冷間時に、水平な場所で車両を垂直に立てた状態で実施してください。

重要

クーラントの補充は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

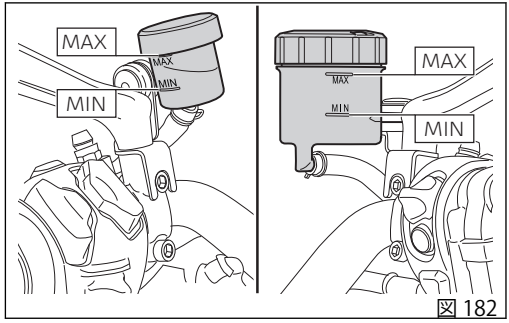


図 182

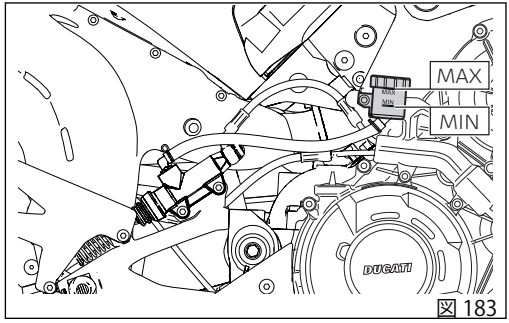


図 183

警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。
これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください (最低レベル上 3 mm (0.12 in))。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm (0.04 in) になっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

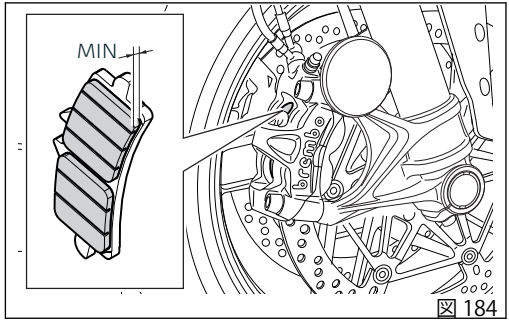


図 184

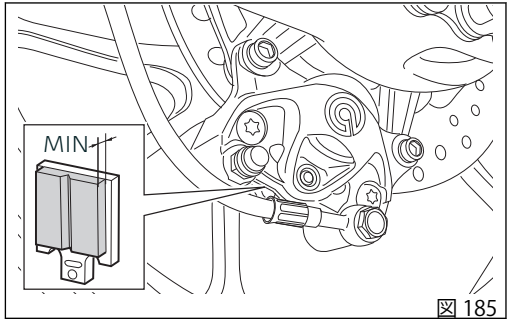


図 185

バッテリーの充電

取り外し

警告

バッテリーの取り外しは Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーを充電する際は、バッテリーを車両から取り外してください。
4 本のスクリュー (1) をワッシャーと一緒に外し、タンクカバー (2) を取り外します。

スクリュー (3) を緩めて外し、バッテリー固定用カバー (4) を取り外します。

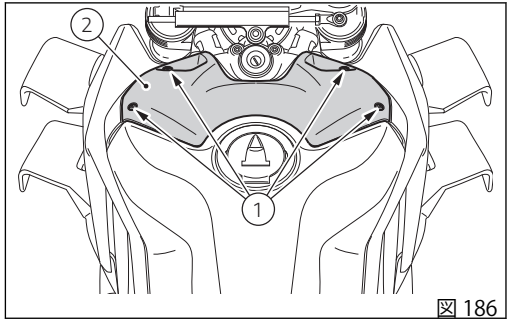


図 186

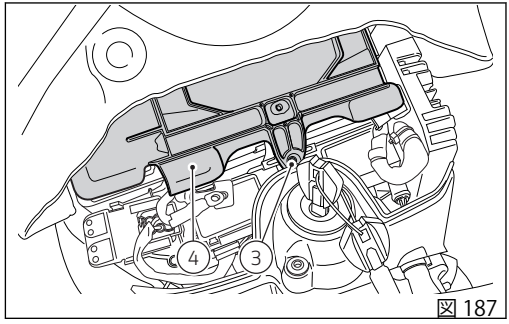


図 187

所定の位置からバッテリー (5) を抜き取り、必ずマイナス端子 (-) から先にスクリュー (6a)、(6b) を緩めます。ABS プラスケーブル (7)、プラスケーブル (8) をプラス端子から、2 本のマイナスケーブル (9) をマイナス端子から外します。

警告
バッテリーは爆発性のガスを発生させます。火花、炎、タバコなど熱源から遠ざけてください。

警告
バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーの充電

バッテリーの充電は、気温 40° C (104° F) 以下の換気の良い場所で行ってください。
バッテリー端子にバッテリー充電器 (11) のコンダクター (10) を接続します。赤をプラス端子 (+)、黒をマイナス端子 (-) につなげます。

警告
バッテリー充電器の取扱説明書の指示に従い、必要な操作を行えるようにバッテリー充電器を準備します。

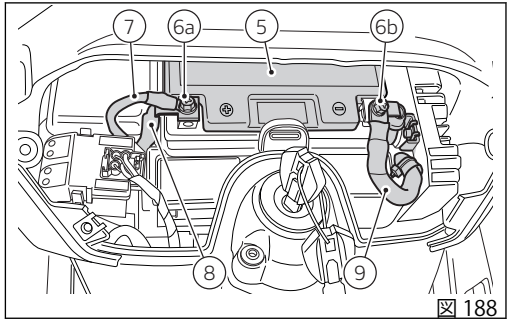


図 188

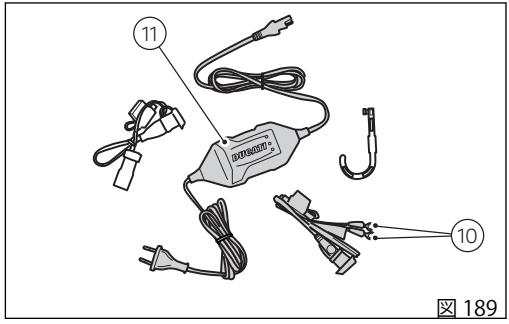


図 189

警告

充電器は起動する前にバッテリーに接続してください。接続する時は必ずプラス端子 (+) から接続してください。

警告

充電中は有毒なガスが発生します。充電作業は換気された環境で実施してください。

取り付け

ABS システムのプラスケーブル (7) をプラスケーブル (8) の上に置き、スクリュー (6a) をその上に差し込みます。
2本のマイナスケーブル (9) をバッテリーのマイナス端子に接続し、スクリュー (6b) を差し込みます。
スクリュー (6) を締め付け、酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。
ケーブル類を図に示すように向け、バッテリー (5) をマウントに取り付けます。
バッテリー固定用カバー (4) を取り付け、スクリュー (3) を締め付けます。

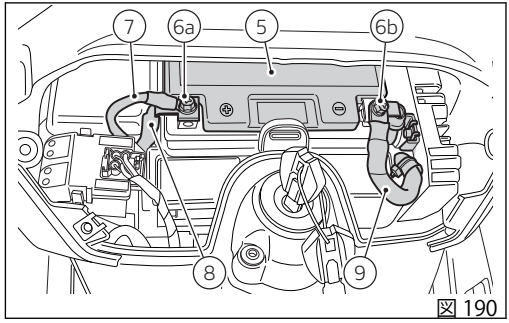


図 190

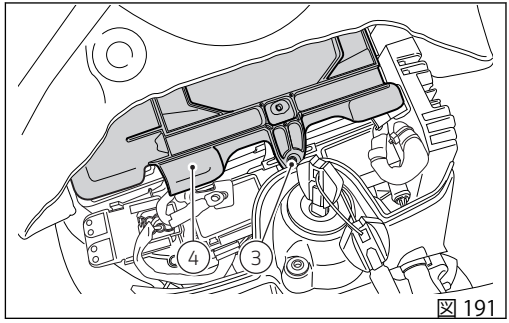


図 191

タンクカバー (2) を取り付け、4本のスクリュー (1) をそれぞれ下側のワッシャーと一緒に締め付けます。

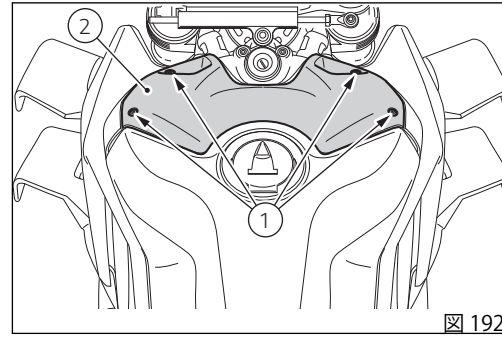


図 192

長期間の保管

車両を長期間 (例：連続 30 日間) 使用していない場合は、バッテリーチャージャー/メンテナーをケーブルで診断ソケットに接続するようにしてください。詳しくは“冬季のバッテリー充電およびメンテナンス”の章を参照してください。

バッテリー充電の維持

車両には所定のバッテリー充電器 (A) (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69928471A、当社の販売店でお求めいただけます) を接続することができるコネクター (1) が装備されています。コネクター (1) はライダーシート下、左側に設けられています。
利用するには、"シートの取り外しおよび取り付け" の章を参照しながら、ライダーシートを取り外す必要があります。

警告

本車両のエレクトリカルシステムは、エンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

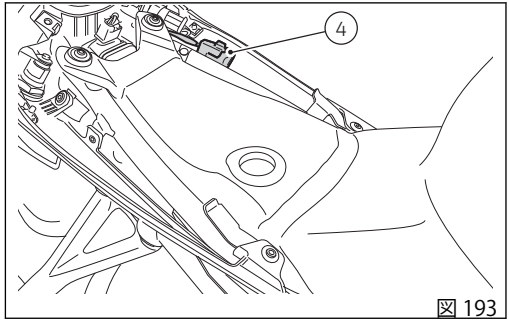


図 193

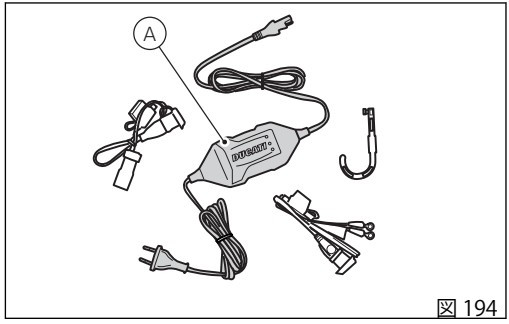


図 194

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で下に押して放します。チェーンピンの中心とチェーンスライダーのプラスチックとの間の距離 (A) を測定します。A = 22 ～ 24 mm (0.87 ～ 0.94 in) でなければなりません。

重要
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

重要
チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするため、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

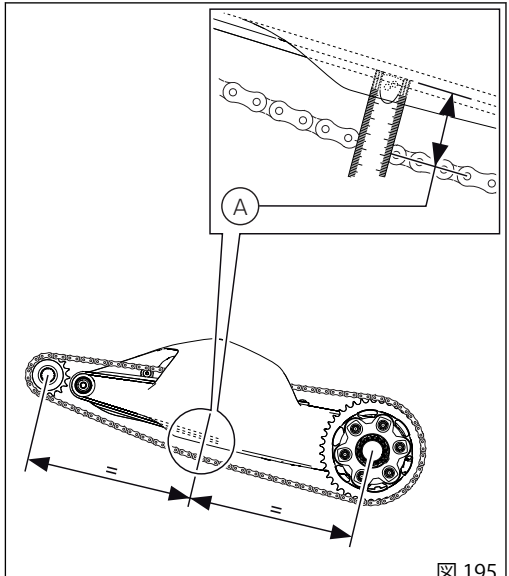


図 195

チェーンの潤滑

重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つ O リングガスケット付きチェーンが装着されています。
チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

警告

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。

警告

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

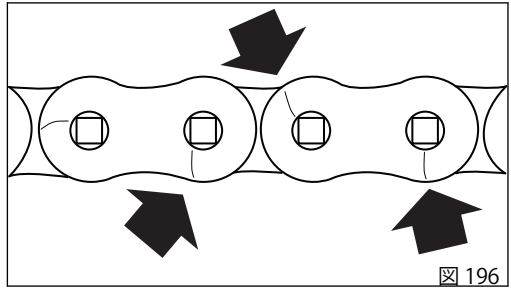


図 196

ドライブチェーンの潤滑

重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用するとO リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

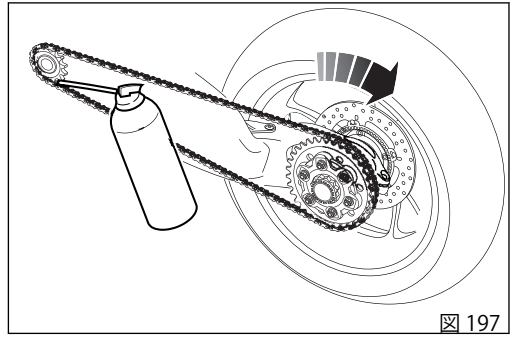


図 197

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所 (2) で、潤滑剤 (1) のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部 (5) に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング (4) および外側のプレート (6) を潤滑します。

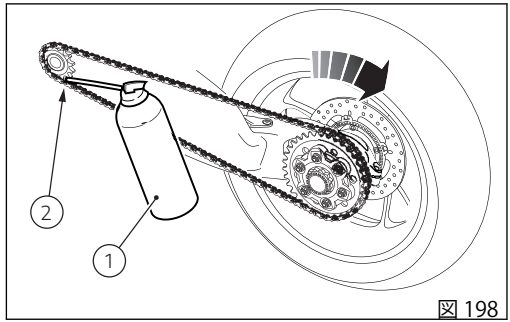


図 198

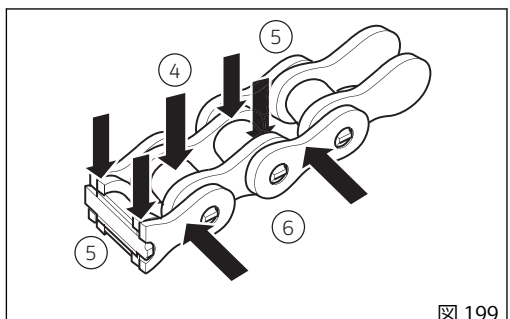


図 199

潤滑の終了後10～15分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

重要

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

重要

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも1000 km (621マイル)毎に行ってください。外気温度が高い(40°C)土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁(約400 km (248マイル)毎)に潤滑を行ってください。

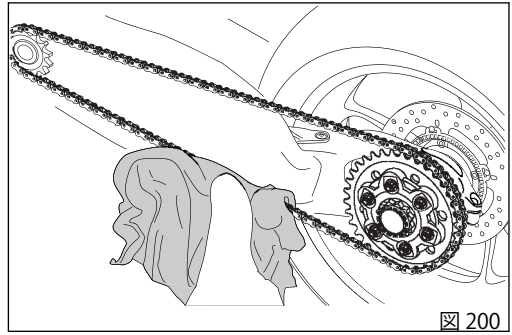


図 200

ハイビーム/ロービーム電球の交換

ヘッドライトユニットはフルLEDですので、メンテナンスの必要はありません。図ではハイビームランプ(HI)、ロービームランプ(LO)、パーキングランプ(1)の位置を示しています。ランプの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

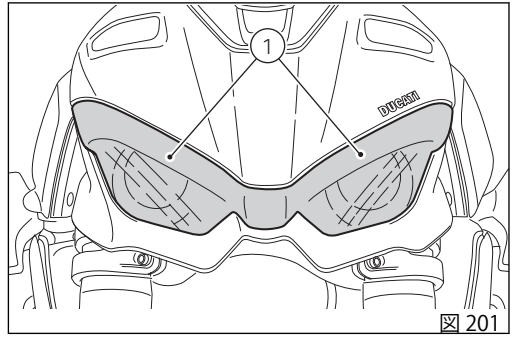


図 201

ターンインジケーター

ターンインジケーターライトはLEDなので、メンテナンスの必要はありません。

ヘッドライトの光軸調整

参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前10メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、光軸調整を行います。片方のライトの調整中は、もう片方のライトをカバーしてください。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。

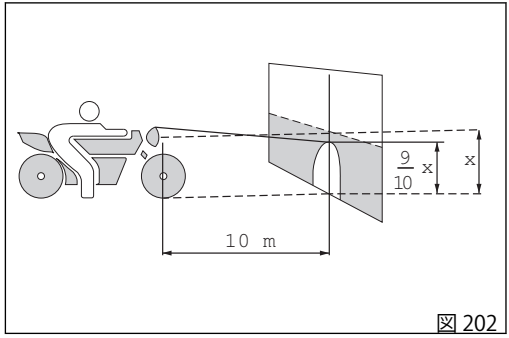


図 202

ヘッドランプの光軸調整を行うには、車両前部、左右に設けられたスクリュー (1) または (2) を回します。

左側のスクリュー (1) で、左ハイビーム/ロービームランプを調整します。
- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

右側のスクリュー (2) で、右ハイビーム/ロービームランプを調整します。
- 時計回りに回すと光軸が下がります。
- 反時計回りに回すと光軸が上がります。

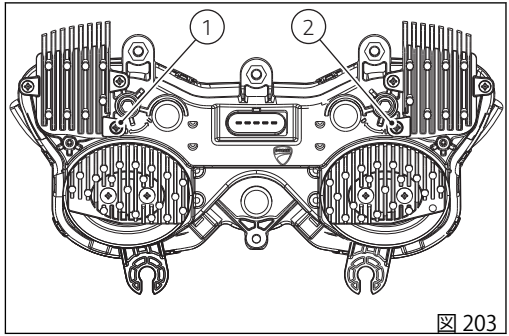


図 203

リアビューミラーの調整

リアビューミラー (A) を手動で好みの位置に調整します。

警告

ミラーを調節する際は、無理な力をかけてミラーを破損しないように慎重に調節してください。

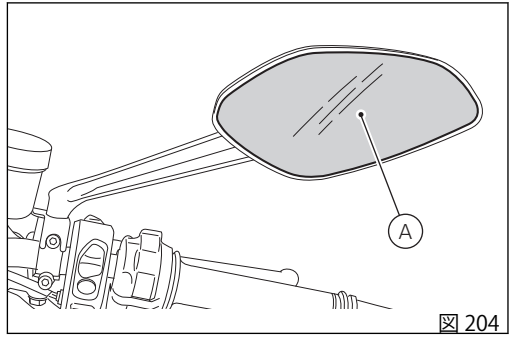


図 204

チューブレスタイヤ

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

用途	フロント	リア
公道 (ライダーのみ)：	2.4 bar (34.81 psi)	2.5 bar (36.26 psi)
公道 (ライダーとパッセンジャー)	2.4 bar (34.81 psi)	2.7 bar (39.16 psi)
サーキット (ライダーのみ)	2.0 bar (29.01 psi)	2.2 bar (31.91 psi)

警告

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2〜0.3 bar (2.90〜4.35 PSI) 上げてください。

タイヤの修理、交換 (チューブレス)

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所 (S) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm (0.08 in) 以上でなければならず、また現地法で定めれた規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドの溝に入り込んだ石や異物は取り除いてください。

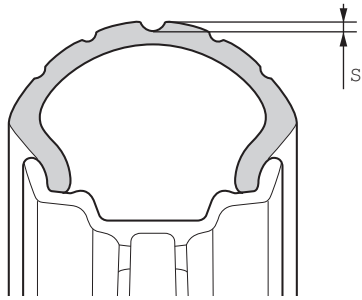


図 205

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、エンジンブロック左側にある点検窓 (1) から見ることができます。
オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
ドゥカティ社規定オイルは SAE 15W-50/JASO MA2 のみで、推奨オイルは Shell Advance DUCATI 15W-50 Fully Synthetic Oil です。
車両右側にあるフィラーキャップ (2) を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。フィラーキャップ (2) を取り付けます。

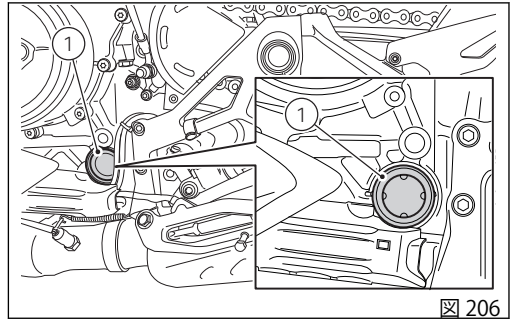


図 206

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。
1) ヘッドに溜まったオイルがオイルパンに戻るには時間が必要です。そのため、オイルレベルの点検はエンジンを切ってから少なくとも 2 時間が経過した後に実施してください。

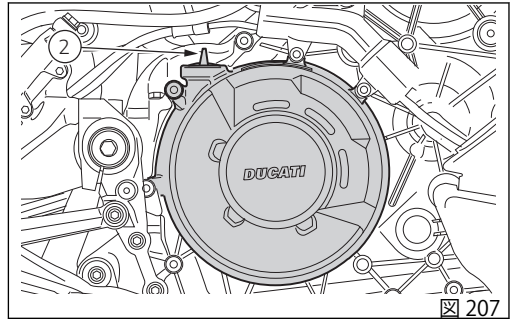


図 207

2) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。
3) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。
4) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。

警告
MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。
シートのお手入れには、水と中性洗剤だけを使用してください。
アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。
洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。
洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露 (くもり) を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。
エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統 (チェーン、フロント/リアスプロケット等) に脱脂剤が付着しないように注意してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

警告

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

参考

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

参考

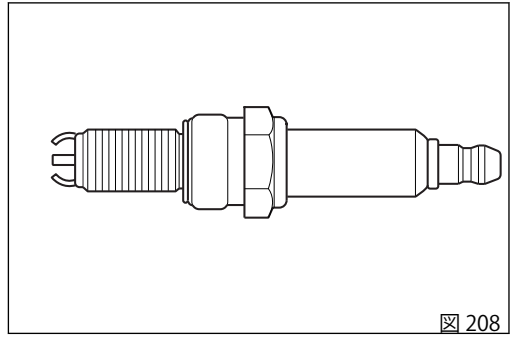
インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。



長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- 接続を切り離し、バッテリーを取り外します。バッテリーメンテナーで定期的に充電してください (“バッテリーの充電” 参照)。
- 結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては (フランス、ドイツ、イギリス、ヨーロッパ、スイス等) 排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

車両の運搬

別の車でモーターサイクルを運搬する前に、安全に関する以下の指示に従ってください。

1) 確実に固定されていない物やアクセサリーを車両から取り外してください。

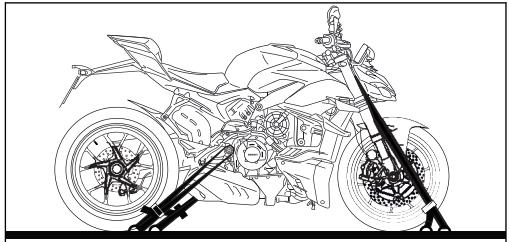


図 209

2) 運搬に使用する車に対して真っすぐになるように前輪を進行方向に向けて配置し、前輪が動かないように適切に固定してください。
3) ギアを 1 速に入れてください。
4) 固定用ベルトを使用してください。固定用ベルトは硬い部品 (フレームなど) の位置で固定するようにし、ハンドルバー (またはハーフハンドルバー、装備に応じる) や破損する危険のある部品 (グリップ、リアビューミラーなど) には取り付けないでください。
5) ベルトやロープが車両の塗装部品をこすらないように取り付けてください。
6) 運搬中に路面からの振動に対する車両の動きが少なくなるように、可能であれば、サスペンションを部分的に圧縮された位置に設定してください。

ロープをハンドルバーに固定しないでください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス

このメンテナンスプログラムは Streetfighter V4 の公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかりますので、定期点検をより頻繁におこなう必要があります。
Streetfighter V4 を競技で使用するためのパーソナルアドバイスをお受けになられたい場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

	1000 走行距離サービス*	OIL 走行距離サービス*	DESMO 走行距離サービス*	定期サービス*
DDS 2.0 による不具合メモリーの読み取り、DSC から技術アップデートとリコールキャンペーンの有無の確認	•	•		12
エンジンオイルおよびフィルターの交換	•	•		12
エアフィルターの点検と清掃		•		12
エアフィルターの交換			•	
バルブクリアランスの点検または調整、バルブカバーのアルミスクリュー (使用している場合) の交換			•	

	1000 走行距離サービス*	OIL 走行距離サービス*	DESMO 走行距離サービス*	定期サービス*
セカンダリーエアリードバルブの点検			•	
スパークプラグの交換			•	
クーラントの交換			•	48
フロントフォークオイルの交換				36
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	•	•		12
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	•	•		12
ブレーキ/クラッチフルードの交換				24
フロント/リアブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検		•		12
フロント / リアブレーキキャリパースクリュー、フロントブレーキディスクスクリューの締め付け点検		•		12
リアブレーキディスクのスクリュー締め付け点検			•	
フロント、リアホイールナットの締め付け、リアスプロケットナットの締め付け点検		•		12
エンジン、スイングアーム、リアショックアブソーバーへのフレーム固定の締め付け点検		•		12
リアバンク右マウント固定の締め付け点検			•	
ホイールハブベアリングの点検		•		12

	1000 走行距離サービス*	OIL 走行距離サービス*	DESMO 走行距離サービス*	定期サービス*
リアスプロケットのクッシュドライブダンパー点検、リアホイールシャフトの潤滑			•	
チェーン、フロント/リアスプロケット、スライダーの摩耗点検、およびファイナルドライブチェーンの張力点検、潤滑具合点検、伸び点検。	•	•		12
ステアリングチューブベアリングの遊び点検		•		12
サイドスタンドの作動、締め付け点検	•	•		12
目視できるすべてのカバーやフレキシブルホース (燃料供給、ブレーキ、クラッチ、冷却システムのフレキシブルホース、ブリーザーホース、ドレンホースなど) に亀裂や漏れなどがなく、正しく取り回されていることを点検する	•	•		12
リアブレーキペダルの遊び点検、ハンドルレバーおよびペダルコマンドの潤滑	•	•		12
タイヤ空気圧、磨耗点検	•	•		12
電気安全装置の作動点検 (サンドスタンドとクラッチセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)	•	•		12
ランプ類、ターンインジケーター、警告ホーン、コマンド類の動作点検	•	•		12
エキゾーストバルブオープニングボーデンケーブルの DDS 2.0 による調整 (Streetfighter V4 のみ)	•	•		12

	1000 走行距離サービス*	OIL 走行距離サービス*	DESMO 走行距離サービス*	定期サービス*
安全装置 (ABS、DTC など)、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト	•	•	•	12
クーラントレベルの目視点検、回路の密閉状態の点検	•	•	•	12
車両のソフトクリーニング、DDS 2.0 による定期点検の登録とインストルメントパネルのサービス警告灯のリセット、定期点検実施の車載書類 (サービスブック) への記入	•	•	•	12

* 1000 走行距離サービスは、慣らし運転 1,000 km/600 mi 終了後に実施します。
* OIL 走行距離サービスは、 12,000 km/7,500 mi ごとに実施します。
* DESMO 走行距離サービスは、 24,000 km/15,000 mi ごとに実施します。
* 定期サービスは、 12 カ月ごとに実施します。

メンテナンスプログラム： お客様がおこなうメンテナンス

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイル x1000	0.6
	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠)	199 kg (438.72 lb)
車両重量 (液体類、バッテリーを含まない)	178 kg (392.42 lb)
車両総重量 (最大負荷)	425 kg (936.96 lb)

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

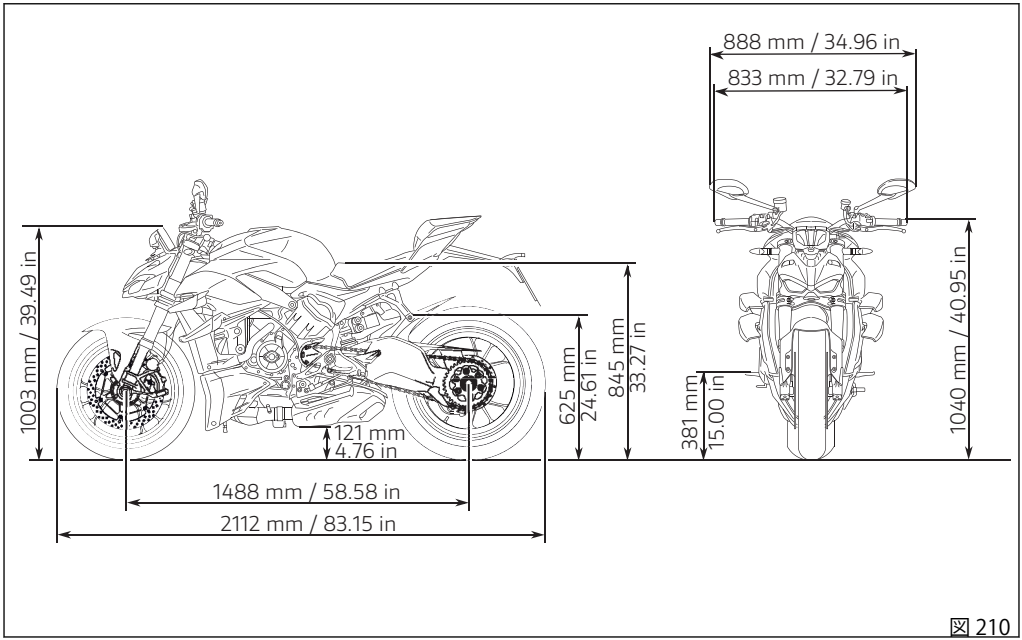

888 mm / 34.96 in
833 mm / 32.79 in
1003 mm / 39.49 in
845 mm
33.27 in
625 mm
24.61 in
121 mm
4.76 in
381 mm
15.00 in
1040 mm / 40.95 in
1488 mm / 58.58 in
2112 mm / 83.15 in

図 210

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4.5 リットル (0.99 UK ガロン) を含む	オクタン価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL V-Power を使用してください。	16 リットル (3.52 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルター	ドゥカティ社規定オイルは SAE 15W-50/ JASO MA2 のみで、推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API：SN) です。	3.4 リットル (0.75 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	DOT 4	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	230 mm (9.05 in) 382±4 cm^3 (23.3±0.24 cuin)
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めずに使用)	2.5 リットル (0.55 UK ガロン)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

デスモセディチ・ストラダーレ：90°、V 型 4 気筒、逆回転クランクシャフト、シリンダーごと 4 バルブのデスモドロミックタイミングシステム、水冷式。

ボア：81 mm (3.19 in)

ストローク：53.5 mm (2.11 in)

総排気量：1103 cm^3 (67.3 cuin)

圧縮比：14.0 ± 0.5:1

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW /HP：
153.2 kW/208 HP / 12750 rpm

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW /HP
(ベルギー / フランスバージョンのみ)：
84 kW/114.2 HP / 7750 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X：
112 Nm / 12.5 kgm / 8750 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X
(ベルギー / フランスバージョンのみ)：
105.4 Nm / 12.5 kgm / 7500 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014、添付 X (ロシアバージョンのみ)：
122.5 Nm / 12.5 kgm / 11500 rpm

最高回転数、rpm ：14,500 rpm / 15,000 rpm (6 速ギア)

参考

エンジンがアイドリング中でスロットルグリップが完全に戻っている時に、ECU はリアバンクの 2 本のシリンダーを停止します。この停止は、特にエンジン温度、ギア位置、クラッチレバー (ギアがニュートラル以外に入っている場合はクラッチを切っている必要がある) の状態に応じ、一定の条件を満たした場合にのみ実行されます。このストラテジーはライダーのサーマルコンフォートと燃費の点で有利に働きます。

重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。

参考

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

潤滑システム

バイパスバルブ内蔵トロコイド式オイルデリバリーポンプと 2 つの回収オイルポンプ。
オイルクーラー。

タイミングシステム

シリンダーごとに4バルブのデスモドロミックタイミングシステム

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング (アッパー) ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング (ロア) ロッカーシム
4) ロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング (ロア) ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ

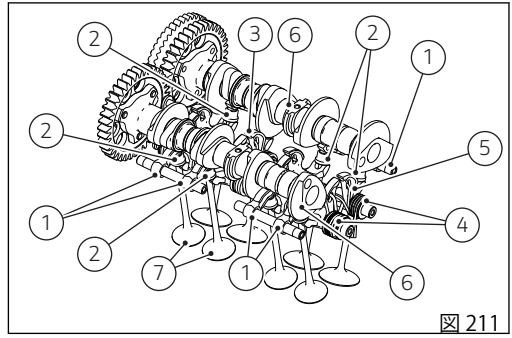


図 211

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK
タイプ：LMDR10A-JS

燃料供給

電子制御式間接燃料噴射装置、誘導放電式、可変長ダクトによるエアインテークシステム。
スロットルボディ：フルライドバイワイヤシステムとエアロダイナミックスロットルバルブ搭載楕円型。
円相当径：52 mm (2.05 in)
シリンダーごとのインジェクター数：2
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク
ブレーキシュー材質：ステンレススチール
ハウジング材質：アルミニウムとアルミニウム合金
ディスク径：330 mm (12.99 in)。
ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)。
ブレーキディスク厚 (摩耗限界)：4.5 mm (0.18 in)。
ディスクブレーキ面積：264 cm^2 (40.92 in^2)
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
タイプ：Stylema® M4.30 b モノブロックラジアルマウント (コーナリング ABS EVO)

キャリパーのピストン数：4
キャリパーシリンダー径：30 mm (1.18 in)。
ブレーキパッド材質：BRM 10A HH。
ポンプシリンダー径：16 mm (0.63 in)。
ポンプタイプ：PR16/21

リア
穴あき固定ディスク、スチール製
ディスク径：245 mm (9.6 in)。
ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)。
ブレーキディスク厚 (摩耗限界)：4.5 mm (0.18 in)。
ディスクブレーキ面積：219 cm^2 (33.95^2)
車体右側ペダルによる油圧コントロール
キャリパーメーカー：BREMBO
キャリパーのピストン数：2
ピストン径：34 mm (1.34 in)。
コーナリング ABS 標準装備
ブレーキパッド材質：Ferodo Ferit I/D 450 FF
ポンプタイプ：PS 13
ブレーキキャリパーポンプピストン径：13 mm (0.51 in)。

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板クラッチ、油圧式制御、ハンドルバー左側アジャスタブルレバーによる操作、セルフサーボ機構およびスリッパークラッチ機構付き。
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。
一次減速比：1.80:1
一次減速比：フロントスプロケット/リアスプロケット比 30/54
6 速ギア、ドゥカティクイックシフト (DQS) UP/DOWN EVO2、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/42
変速比：
1 速 38/14
2 速 36/17
3 速 33/19
4 速 32/21
5 速 30/22
6 速 30/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達
メーカー： DID 525HV3 KAI
リンク数：116

重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更を望まれるお客様に、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与えるおそれがあります。

フレーム

剛性が最適化されたアルミニウム合金製「フロントフレーム」
アルミニウム合金リアサブフレーム
キャスター角：24.5°
ステアリングアングル：左側 28° / 右側 28°
トレール：100 mm (3.94 in)。

ホイール

フロント

鍛造アルミニウム合金 5 本スポークリム
寸法： 3.50x17"

リア

合金鍛造 3 本スポークリム
寸法：6.00x17"

タイヤ

フロント

フロント チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso Corsa 2
寸法：120/70-ZR17

リア

フロント チューブレスラジアルタイヤ Pirelli Diablo Rosso Corsa 2
寸法：200/60-ZR17

サスペンション

フロント

ÖHLINS 製 NIX3 TiN コーティング、43 mm (1.69 in) フルアジャスタブル倒立フォーク。
Öhlins Smart EC 2.0 制御によるリバウンドダンピングとコンプレッションダンピングのセミアクティブモード制御。

ホイールトラベル：
120 mm (4.72 in)。

リア
ÖHLINS 製 TTX36 モノショックアブソーバー、フルアジャスタブル。
Öhlins Smart EC 2.0 制御によるリバウンドダンピングとコンプレッションダンピングのイベントベースモード制御
アルミニウム製片持ち式スイングアーム
ストローク：65 mm (2.56 in)。
ホイールトラベル：
138.5 mm (5.45 in)。
アジャスタブルピボット位置：±3 mm (0.12 in)

ステアリングダンパー
ÖHLINS 製 NIX30 電子式アジャスタブルステアリングダンパー

エキゾーストシステム
4-2-1-2 レイアウト：4 in 2 in 1 in 2 構造のエキゾーストシステム
ラムダセンサー：4
触媒コンバーター：2

カラーバリエーション
フェアリング

Ducati アニバーサリーレッド、部品番号：473.101 (PPG)
ベース (アクリフレックス ホワイト)、部品番号：LMC06017 (LECHLER)
グレーフレーム、ブラックホイール

フレーム
フレームカラー：グレー

ホイールリム
カラー：ブラック

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライト

LED OSRAM Oslon KW H2L531　2 個 (ロービームライト)
LED OSRAM Oslon KW HJL531　2 個 (ハイビームライト)
LED NICHIA NCSW170CT　6 個 (パーキングライト/DRL)

ハンドル上スイッチ

LED フロントターンインジケータータイプ：
LED OSRAM LYE65F　15 個
フロントターンインジケーター電球 (USA バージョン) タイプ：
RY10W (12V-10W) オレンジ色
LED リアターンインジケーター (ヨーロッパバージョン) タイプ：
LED PHILIPS LXM2-PL01　1 個
リアターンインジケーター電球 (USA バージョン) タイプ：
RY10W (12V-10W) オレンジ色　1 個

テールライト

テールライト：
LED OSRAM LSA67F　18 個 (パーキングライト)
LED ストップランプタイプ：
LED OSRAM LAE6SF　18 個
LED ナンバープレートランプタイプ：
LED CREE CLA1A-WKW　3 個

警告ホーン
ストップランプスイッチ
電解液を含む密閉型バッテリー：
YUASA YT 7B-BS (12V - 6.5 Ah)
ジェネレーター (Denso)：
14V - 425W
電子レギュレーターは、バッテリー横のスターターコンタクター上に設けられた 30A ヒューズで保護されています。
スターターモーター：
Denzo BA06 12V - 0.6 kW
インストルメントパネル/ダッシュボード：5 カラー TFT ディスプレイを備えるデジタル式

参考

電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換" を参照してください。

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックス内に12個、スターターコンタクター上に1個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが1個あります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

左フロントヒューズボックス (A、図 212) および右フロントヒューズボックス (B、図 213) は、バッテリー上に配置されています。

ヒューズの作業を行うには、“バッテリーの充電” の記載に従いタンクカバーを取り外します。

ヒューズを交換するには、ヒューズボックスの保護カバーを持ち上げます。保護カバーには各ヒューズの配置と定格が表記されています。

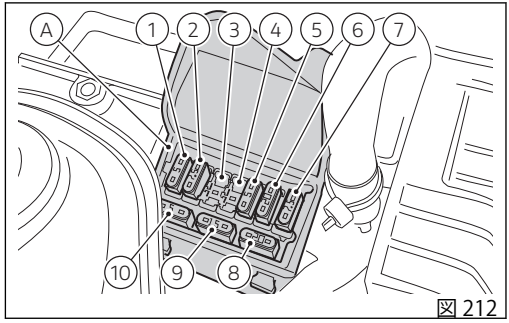


図 212

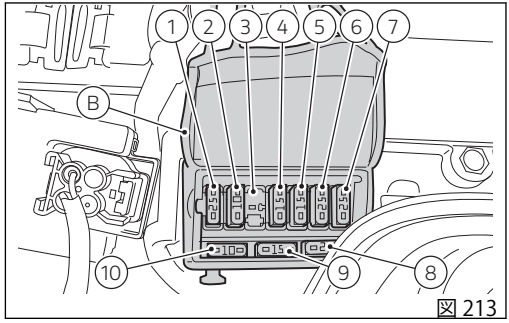


図 213

左フロントヒューズボックス凡例 (A)		
配置	保護装置	容量
1	EMS / ABS / IMU	5 A
2	DASH / BBS / SMEC	7.5 A
3	-	-
4	-	-
5	アクセサリー / SW	5 A
6	インジェクションリレー	20 A
7	診断 / 充電	7.5 A
8	スペア	20 A
9	スペア	15 A
10	スペア	5 A

右フロントヒューズボックス凡例 (B)		
配置	保護装置	容量
1	EMS 負荷リレー	25 A
2	燃料ポンプリレー	10 A
3	-	-

右フロントヒューズボックス凡例 (B)		
4	インストルメントパネル	15 A
5	Black Box システム (BBS)	15 A
6	ABS UBMR	25 A
7	ABS UBVR	10 A
8	スペア	25 A
9	スペア	15 A
10	スペア	10 A

メインヒューズ (30A) (C) と予備ヒューズは、ヒューズボックス (B、図 213) の右側、スターターコンタクター (D) 上に設置されています。
ヒューズで作業を行うには、タンクカバー (“バッテリーの充電” の記載に従いタンクカバーを取り外します) と保護キャップ (E) を取り外す必要があります。
リレーボックス (F) 内にはメインヒューズ (G) (30A) があり、保護キャップ (H) を外すと確認できます。
切れたヒューズは、インナーフィラメント (I) が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要
回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告
表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

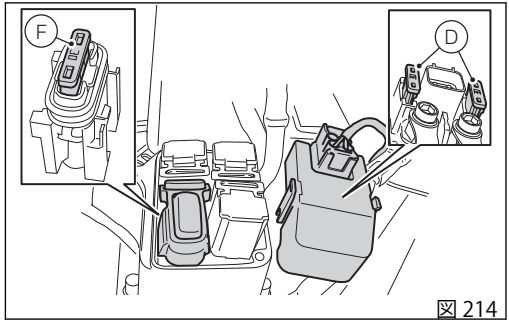


図 214

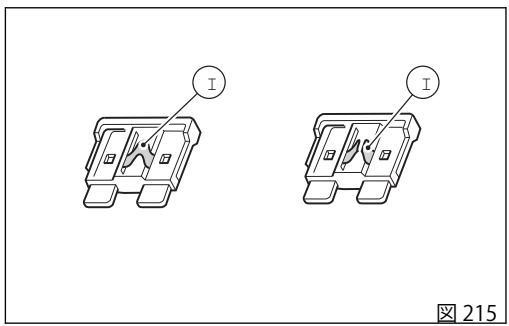


図 215

定期点検メモ

定期点検メモ

キロメートル	マイル	ドゥカティサービス名	走行距離	日付
1000	600			
12000	7500			
24000	15000			
36000	22500			
48,000	30000			
60000	37500			

91374941JA

Stampato 02/2021 Rev. 01

MIX
From responsible sources
FSC™ C110200
FSC
www.fsc.org

Ducati Motor Holding spa
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
A Company subject to the Management and Coordination activities of AUDI AG